



人間文化研究機構・地域研究推進事業

「イスラーム地域研究」

第2期

研究実績報告書

(2015 年度)

2016 年 6 月

目 次

全体報告	1
各拠点別報告【 本編 】	11
早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	13
東京大学大学院人文社会系研究科 次世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門	17
上智大学研究機構 イスラーム研究センター	19
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 イスラーム地域研究センター	21
公益財団法人東洋文庫研究部 イスラーム地域研究資料室	23
各拠点別報告【 資料編 】	25
早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	27
東京大学大学院人文社会系研究科 次世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門	60
上智大学研究機構 イスラーム研究センター	85
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 イスラーム地域研究センター	119
公益財団法人東洋文庫研究部 イスラーム地域研究資料室	160

「イスラーム地域研究」第2期研究実績報告書

(2015 年度)

2016 年 6 月 3 日

早 稲 田 大 学

東 京 大 学

上 智 大 学

京 都 大 学

(公財)東洋文庫

【事業全体の目的】

1. 拠点形成の目的

21 世紀に入ると、アメリカでの同時多発テロ（2001 年 9 月）をかわきりに、米英軍などはアフガニスタンやイラクに侵攻し、いわゆる「テロ国家・テロ組織」の根絶をめざした。これらの事件や戦争の背後には、「イスラームのグローバル化と先鋭化」という事実が存在することも確かである。しかしそれと同時に、私たちは、東南アジアや中東諸国の着実な経済発展とそれに伴う富裕な中間層の形成という、近年の新しい潮流にも目を向けなければならない。21 世紀における世界の動向、各地域・各国の政治・社会変動、石油資源の分配や経済開発、地域紛争の性格などを正しく理解するためには、このような新しい現実をふまえたうえで、イスラームと各地域社会との関係を多様なディシプリン研究を活用して具体的に明らかにすることが不可欠である。第2期研究計画の実行により、第1期（2006-11 年）の研究成果を基礎として、研究テーマや課題を絞り込み、研究を深化・発展させることによって、日本におけるイスラーム研究・教育の特色ある拠点形成をめざす。具体的には、以下の3点を主要な課題として設定する。

1. 現地の研究者、研究機関との国際的な共同研究を実施し、「他者」と「当事者」双方の目を通して「イスラームと地域」の係わりを分析することにより、現代イスラーム世界について実証的な知の体系を築くと同時に、その理解の深化をはかる。
2. 次世代のイスラーム研究を担う若手研究者育成のために、部局の枠を越えた大学院教育の組織構築を検討するとともに、大学間の協力につとめる。各研究拠点の活動が、イスラーム地域研究に関する大学院教育の充実につながるよう配慮するとともに、国内・国外の若手研究者が本イスラーム地域研究へ参加することを積極的に奨励する。
3. 以上の課題を踏まえたうえで、イスラーム地域研究のネットワークを構成する各拠点は、研究・教育環境、現有の研究スタッフ、担当する研究分野、独自予算の充実などを視野にいれながら「特色ある拠点づくり」をさらに推進する。

2. 研究対象

現代のイスラームは、地域を越える共通の問題と同時に、地域の歴史や文化と結びつく地域の個性に関わる問題を抱えている。イスラーム地域研究では、この双方の問題に取り組み、イスラームの知と文明、イスラームの宗教・思想と政治運動、イスラームの社会と文化、イスラーム世界の国際組織、イスラーム地域研究の史資料学などの側面から総合的に研究する。対象となる地域は、中東、北アフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジアばかりでなく、必要に応じてアフリカ、ヨーロッパ、中国、さらにはアメリカや日本にも及ぶことになる。

3. 研究方法

対象となる地域の規模は、中東や中央アジアなど従来の地域概念にとらわれることなく、課題に応じて中小の地域を設定し、地域を越える共通の問題と同時に、イスラームと地域の個性との関わり方を追究する。イスラーム地域研究は、宗教学、政治学、経済学、歴史学、社会学、文化人類学などのディシプリン研究を基礎とし、それらの研究成果を総合することをめざす。この総合を実現するために、(1) いくつかの地域をとりあげ、それらを比較する地域間比較の手法と、(2) 現代の問題ではあっても、歴史をさかのぼって解明する歴史的アプローチの手法とを採用する。このような研究手法を活用することによって、国際的な共同研究を実施し、現代イスラーム世界に関する実証的な知の体系を築くことがねらいである。

4. 研究組織・ネットワーク

イスラーム地域研究は、早稲田大学イスラーム地域研究機構を中心拠点とし、東京大学大学院人文社会科学系研究科次世代人文学開発センター、上智大学研究機構、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、公益財団法人東洋文庫研究部に置かれる5拠点を結ぶ「ネットワーク型の研究組織」をつくり、人間文化研究機構との共同研究事業として実施される。各拠点の研究領域・テーマは以下の通りである。

中 心 拠 点：早稲田大学イスラーム地域研究機構・イスラーム地域研究所

〔総括責任者〕：桜井啓子（イスラーム地域研究機構長、早稲田大学国際学術院教授）

〔中心テーマ〕：「イスラームの知と文明」

東京大学拠点：東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

〔総括責任者〕：菊地達也（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

〔中心テーマ〕：「イスラームの思想と政治：比較と連関」

上智大学拠点：上智大学研究機構・イスラーム研究センター

〔総括責任者〕：私市正年（イスラーム研究センター長、上智大学総合グローバル学部教授）

〔中心テーマ〕：「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

京都大学拠点：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・イスラーム地域研究センター

〔総括責任者〕：東長 靖（イスラーム地域研究センター長、
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

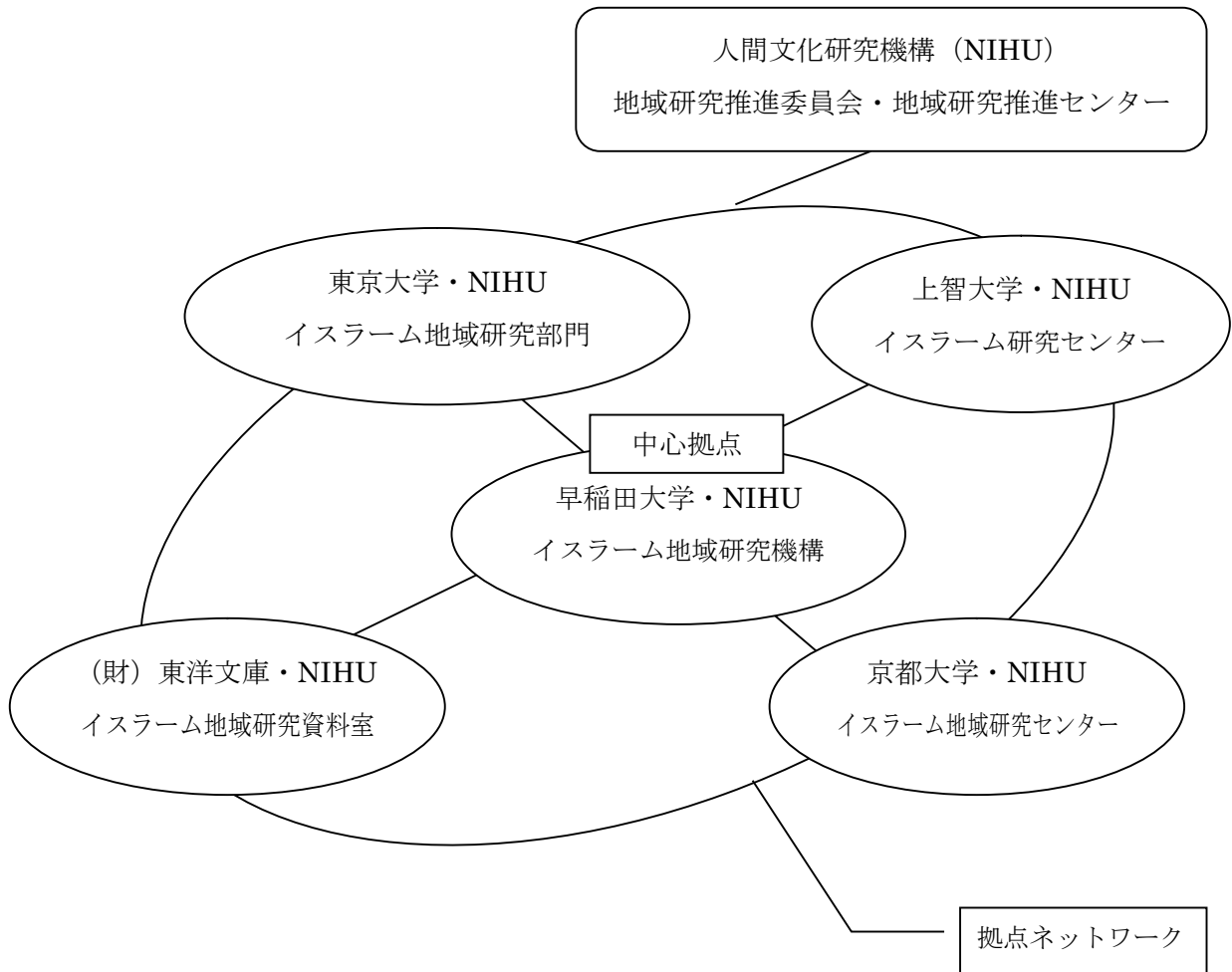
〔中心テーマ〕：「イスラーム世界の国際組織」

東洋文庫拠点：公益財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

〔総括責任者〕：三浦 徹（イスラーム地域研究資料室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

〔中心テーマ〕：「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

【組織図】



【2015 年度事業の目的と活動内容】

1. 地域研究推進センター研究員の派遣

第 2 期イスラーム地域研究推進事業の実施に伴い、人間文化研究機構地域研究推進センターでは、第 1 期に引き続き、本事業の推進に必要な研究者を「地域研究推進センター研究員」として採用し、各拠点へ派遣している。研究員は、派遣先の拠点において、拠点の形成と運営のための実務及び共同研究の推進を担うものである。本事業における研究員の総数は 5 拠点へ各 1 名（早稲田大学拠点のみ 3 名、内 1 名は現代インド地域研究との連携事業である地域研究間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」を担当）、計 7 名である。なお、派遣先の拠点においては、各大学・機関における相当職を兼務する。

事業最終年次（5 年次）である今年度は、7 名の研究員を引き続き派遣するとともに、各研究員はそれぞれの拠点において上述の業務に加え、ネットワーク全体による研究活動、国内シンポジウムや国際会議の企画・運営、その他拠点間ネットワークの活動に欠くことのできない研究者へと着実に成長した。（詳細は、各拠点の研究活動の箇所を参照）。

若手研究者の採用については、平成 27 年 4 月 1 日付けで新たに 1 名の研究者を採用し、早稲田大学拠点に派遣した。また、1 名の研究員が平成 28 年末日をもって常勤職を得て退職することが決定した。

なお、イスラーム地域研究推進事業（第 2 期）は平成 27 年度末をもって終了し、機構の法人第 3 期中期目標期間に向けた改革の中で、平成 28 年度から新たに「ネットワーク型基幹研究プロジェクト『現代中東地域研究推進事業』」が開始されることが決定された。また、機構本部には、同プロジェクトを推進する組織として総合人間文化研究推進センターが設置され（平成 28 年 4 月 1 日付け設置）、本地域研究推進センターの機能は同センターへと引き継ぎ、平成 28 年 3 月 31 日付けで廃止されることとなった。

上記の改革によって、3 地域の研究員が一堂に会して実施してきた地域研究推進センター研究員研究発表会は、平成 28 年 2 月 3 日（水）、人間文化研究機構本部会議室において開催した第 5 回研究発表会（幹事：現代インド地域研究京都大学拠点 佐藤研究員、中村研究員、東京大学拠点 小川研究員。プログラム及び発表者等は以下のとおり）をもって最終回を迎えることとなった。研究員が自由なテーマ設定により研究発表を行うことができる本会では、対象地域や専門分野が異なる若手研究者との活発な議論を通じて新たな視点から研究を見直す機会ともなり、さらには地域研究のプロジェクト間の交流促進にも一定の効果があつた。今後も総合人間文化研究推進センターにおいて、研究員間の交流が促進されていくことを期待している。

○プログラム

日 時：2016 年 2 月 3 日（水）

場 所：人間文化研究機構本部会議室

出席者：小長谷有紀、西村淳一、吉村武典、長谷部圭彦、河原弥生、三代川寛子、今松泰、徳原靖浩、張望、武上真理子、李彦銘、薛軼群、蔣宏偉、佐藤孝宏、中村沙絵、小川道大、油井美春、竹村嘉晃、鈴木真弥、舟橋健太（以上、20 名）

欠席者：鄭成、相原佳之、豊山亜希（以上 3 名）

10 時 30 分～10 時 40 分 小長谷 有紀センター長 挨拶

10 時 40 分～11 時 30 分 第 1 報告 長谷部圭彦「留学から見た世界史」

11 時 30 分～12 時 20 分 第 2 報告 薛軼群「明治初期陸軍の対清情報活動—初代駐清公使館付武官福原和勝を中心に」

12 時 20 分～13 時 30 分 昼食休憩

13 時 30 分～14 時 20 分 第 3 報告 蔣宏偉「南中国の換金作物開発及びその越境影響」

14 時 20 分～15 時 10 分 第 4 報告 中村沙絵「ポスト内戦のスリランカ社会——先行研究レビュー」

15 時 10 分～15 時 20 分 小休憩

15 時 20 分～16 時 10 分 第 5 報告 鈴木真弥「ダリト運動のグローバル化にみるカーストの現代的位相」

16 時 10 分～17 時 00 分 第 6 報告 佐藤孝宏「半乾燥地域における水集約的農業の展開

ーインド・タミルナードゥ州の事例ー」

拠 点 名 称	氏 名	職 名	派遣期間
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	西村 淳一	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	吉村 武典	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	澤井 一彰	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	25.10.1 ～27.3.31 (就職の ため退職)
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	長谷部圭彦	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	27.4.1 ～28.3.31
東京大学 大学院人文社会系研究科次 世代人文学開発センター イスラーム 地域研究部門	河原 弥生	地域研究推進センター研究員 東京大学大学院人文社会系研究科次 世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
上智大学研究機構 イスラーム研究センター	三代川寛子	地域研究推進センター研究員 上智大学アジア文化研究所客員研究 員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
京都大学 大学院アジア・アフリカ地 域研究研究科 附属イスラーム地域研 究センター	今松 泰	地域研究推進センター研究員 京都大学大学院アジア・アフリカ地 域研究研究科客員准教授	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
公益財団法人東洋文庫研究部 イスラーム地域研究資料室	徳原 靖浩	地域研究推進センター研究員 公益財団法人東洋文庫研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31

(小長谷有紀)

2. 事業全体の活動内容

2-1. 事業全体の研究内容及研究成果の概要

事業全体としては、イスラーム地域研究の課題である「他者」と「当事者」の双方の視点から「イスラームとイスラーム文明」に関する実証的な知の体系を築くという目標のもと、全拠点で、国際会議や研究会を通じて海外の研究者との研究協力を推進した。また、研究に際しては、「現代問題への歴史的アプローチ」と「地域間比較の手法」を採用することで、時間軸と地理的な横軸を交差させ、文献研究と現地におけるフィールド調査を駆使してイスラーム地域研究を推進した。

東洋文庫拠点で実施した合同集会では、「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」と題して、シリア、中央アジア、トルコ、インドを事例に、地域研究は単なる地域情報の寄せ集めではなく、現代問題の歴史的背景や他地域との比較に基づく地域の個性の発見など、地域の総合的理解であることを示した。全体を通じて、イスラーム地域研究は、地域に着目し、そこで生起する現象とイスラームとのかかわりを実証的に分析することで、イスラームの多義性を明らかにしたといえる。またイスラーム地域全体を対象とすることで、既存の政治的境界にとらわれることなく問題群に応じた地域設定を可能としたことで、新しい視点を育んだ。

出版を通じた研究成果の公表としては、原典叢書シリーズとして『統治の書』、『ムスリム同胞団の思想（下）—ハサン・バンナー論考集—』（岩波書店）の2冊を刊行した。また「イスラームを知る」シリーズ（山川出版社）では、第二期12冊のうち3冊を刊行し、全巻の出版を完結した。英文モノグラフシリーズ Islamic Area Studies (Leiden: Brill)のからは、第2冊目となる Toru Miura, *Dynamism in the Urban Society of Damascus: The Ṣālihiyya Quarter from the Twelfth to the Twentieth Centuries* を刊行した。英文論集シリーズ New Horizons in Islamic Studies (London: Routledge) からは、Susumu Nejima (ed.), *NGOs in the Muslim World: Faith and Social Services* を刊行した。この他に、各拠点ごとに資料集、文献目録、国際会議の報告集、ジャーナルなどを刊行し、多様な形で研究成果の発信に努めた。詳細については各拠点の報告を参照していただきたい。

(桜井啓子)

2-2. 事業全体の活動内容

(1) 合同集会

①イスラーム地域研究 2015 年度 NIHU 合同集会 公開講演会

「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」

日時：2016 年 1 月 30 日(土) 13:00～17:10

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 3 号館 501 号室

概要：アラブ地域、中央アジア、トルコ、南アジアを専門とする 4 名の研究者が、地域間の比較による分析、シャリーア法廷文書の収集と研究、法廷文書等の史料に見られる女性の活動への注目、多民族・多文化的土壌における国民国家の展開という様々な視点から講演を行った。総合討論では、歴史研究と

ジェンダー研究や地域研究の関わりについて意見が交わされ、多様なテーマと対象地域を持つ研究者らの共同によるイスラーム地域研究の締めくくりに相応しい講演会となった。

(徳原靖浩)

プログラム：

司会：近藤信彰（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

13:00 開会の辞 小長谷有紀（人間文化研究機構理事・同地域研究推進センター長）

東洋文庫拠点紹介 三浦徹（お茶の水女子大学/東洋文庫拠点代表）

13:20 「地域研究と比較史：イスラームの都市社会」三浦徹（お茶の水女子大学/東洋文庫拠点代表）

14:00 「中央アジア法廷文書史料の可能性」堀川徹（京都外国語大学）

14:40 「女性・ジェンダー史からみえるオスマン帝国の社会」秋葉淳（千葉大学）

15:20 「多文化主義の歴史的土壌と南アジアの政治」竹中千春（立教大学／早稲田大学）

16:00 休憩

16:10 総合討論

17:00 閉会の辞 桜井啓子（早稲田大学/NIHU イスラーム地域研究研究代表）

(2) 全体国内シンポジウム

①人間文化研究機構第26回公開講演会・シンポジウム「苦悩する中東」

日時：2015年4月25日(土) 13:00～17:00

場所：早稲田大学井深大記念ホール

概要：中東が抱える苦悩は深く、かつ複雑である。中東の現実を冷静に見つめ、問題の所在を特定するとともに、そこに暮らす人々への共感がなければ、「イスラーム国」問題はおろか、長年続くパレスチナ問題の解決は望めない。本講演会・シンポジウムでは、3名の講師がアラブ、イラン、トルコという中東の三大地域に属する国々を取り上げ、各国が抱える問題と、そこに暮らす人々が抱える苦悩について解説した。さらにアラブ諸国を専門とする4名を加え、パネルディスカッションを行って議論を深めた。会場には約700名の一般来場者が訪れ、このテーマが世間で高い関心を集めていることが示された。

(西村淳一)

プログラム

講演1 「苦悩するアラブ」 酒井啓子（千葉大学法政経学部教授）

講演2 「苦悩するイラン」 桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）

講演3 「苦悩するトルコ」 澤江史子（上智大学総合グローバル学部教授）

パネルディスカッション

司会 福田安志(早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院教授)

パネリスト

末近浩太（立命館大学国際関係学部教授）

錦田愛子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）

ホサム・ダルウィッシュ（日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員）

酒井啓子（千葉大学法政経学部教授）

桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）

澤江史子（上智大学総合グローバル学部教授）

(3) 「イスラームを知る」シリーズの刊行

- ①店田廣文著『日本のモスクー滞日ムスリムの社会的活動』（イスラームを知る 14）山川出版社、2015 年
- ②服部美奈『ムスリマを育てるーインドネシアの女子教育』（イスラームを知る 20）山川出版社、2015 年
- ③東長靖、今松泰『イスラーム神秘思想の輝きー愛と知の探求』（イスラームを知る 15）山川出版社、2016 年

(4) 「イスラーム原典叢書」シリーズの刊行

- ①ニザーム・アルムルク著、井谷鋼造、稲葉穰訳『統治の書』岩波書店、2015 年
- ②ハサン・バンナー著、北澤義之，高岡豊，横田貴之，福永浩一編訳『ムスリム同胞団の思想（下）ーハサン・バンナー論考集ー』岩波書店、2016 年

(5) Islamic Area Studies（英文モノグラフ・シリーズ）の刊行

- ①Toru Miura, *Dynamism in the Urban Society of Damascus : The Ṣālihiyya Quarter from the Twelfth to the Twentieth Centuries*, Leiden: Brill, 2015.

(6) New Horizons in Islamic Studies（英文論集シリーズ）の刊行

- ①Susumu Nejima (ed.), *NGOs in the Muslim World: Faith and Social Services*, Routledge, 2015.

各拠点別報告

【本編】

早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所

代表：桜井啓子（イスラーム地域研究機構・機構長、早稲田大学国際学術院・教授）

中心テーマ 『イスラームの知と文明』

イスラームの規範は、個人のレベルだけでなく、社会のレベルにおいても遵守されなければならない。ムスリムは、こうした教えを実践するために様々な社会活動に従事している。具体的には、イスラーム的な正義や相互扶助精神に基づく社会福祉活動、識字教育・職業訓練・クルアーン読誦などの教育活動、信仰強化のための布教活動、モスク・聖廟・孤児院など公共空間の整備、ムスリム・マイノリティの権利擁護活動などである。そして、これらの活動の多くを支えるワクフ、ザカート、サダカといった制度の背後には、イスラーム固有の理念が存在している。

早稲田大学拠点は第1期（2006-11年）において、二つの研究グループに分かれて研究活動を遂行した。

研究グループ1「イスラームの知と権威：動態的研究」は、イスラームの政治運動や社会生活の実態を理解するために、イスラームに固有な知のありかた、あるいは地域社会における権威やリーダーシップの問題を、歴史と現状に照らして動態的に分析することを課題として研究を進めた。それを通じて、イスラームの理念が社会的にどのように反映されてきたか、あるいは社会的状況が理念の中にどのような影響を与えてきたかを明らかにしてきた。

研究グループ2「アジア・ムスリムのネットワーク」は、ムスリムによる様々な実践活動（マドラサにおける宗教教育活動、イスラーム的 NGO、滞日ムスリムの宗教活動、回族知識人の活動）に関する研究をフィールド・ワークを中心に展開し、社会活動のさまざまな分野に関する新しい知見を獲得した。同時に、イスラームの理念や制度は、現実的な社会的実践と表裏の関係をなしていることが明らかにされてきた。

第2期においては、上記のような研究成果の上に立って、新しく研究課題を設定し直して、ムスリムの社会的実践の諸相をその背後にあるイスラームの理念と関連づけながら明らかにする。これにより現代イスラームの理解を深めていくことを目標とする。

【研究事業名】

①総括事業

②研究グループ「イスラームの社会的実践とその理念」

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当研究所は、前記の 5 拠点を結んで行われる共同研究の調整・とりまとめを行うことにより、中心拠点としての役割を果たす。各拠点が特色ある研究の拠点を形成し、これらをネットワークで結ぶことにより、全体としてイスラーム地域研究の重要拠点を形成することがねらいである。

第 1 期で立ち上げた当研究所の和文・英文のホームページを継続して運用し、5 拠点全体の研究計画、研究活動、研究成果、教育カリキュラム、国際交流の企画などについて新情報を提供する。また、現地の大学・研究所と提携することにより、イスラームに関する共同研究の実施、研究・教育に関する情報の収集と発信などを通じて、国際的な共同研究、学術交流における中心拠点を形成する。

早稲田大学における研究は、研究所の研究員を中心に、学内外の研究者の協力を得ながら、「イスラームの知と文明」というテーマに関わる研究を実施する。具体的には「イスラームの社会的実践とその理念」という課題をかかげ、これにより「総合的なイスラーム文明理解」を目的とする研究拠点の構築を目指す。また、これらと並んで、若手研究者育成を目的とする大学院教育の構築を目指す活動を展開する。

【2015 年度事業の目的と活動内容】

①2015 年度事業の目的

総括事業では、5 拠点のネットワークを、WEB、合同集会、研究推進連絡会議を通して拡充することを目指す。和文、英文両出版事業も継続する。また、拠点事業としては、「イスラームの社会的実践とその理念」に関する研究を推進するために、(1) 原典講読を通じた理念研究、(2) 社会的実践に関する調査研究、という二つの研究アプローチを採用する。後者に関しては、ムスリムがマイノリティである社会、ムスリムがマジョリティである社会の双方におけるイスラーム的实践を調査研究の対象とする。

②2015 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

総括事業としては、5 拠点の連携を拡充するために合同集会（東洋拠点主催）（1 回）、研究推進連絡会議（2 回）を開催した。海外での研究成果の発信として、マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院、ニューヨーク大学アブダビ校と共催でアラブ首長国連邦（UAE）にあるニューヨーク大学アブダビ校にて国際セミナー「INTERNATIONAL CONFERENCE ON ISLAM AND MULTICULTURALISM: Islam in Global Perspective」（日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業と共催、2015 年 11 月 1 日～3 日）を実施し、パネル発表者、司会として 12 名派遣し、海外の研究機関との共同研究、成果の海外発信を推進した。

イスラーム地域研究・若手研究者の会（7 回）を実施し、若手研究者の育成と研究交流を支援した。英文モノグラフシリーズ Islamic Area Studies (Brill) より第 2 巻を刊行するとともに、第 3 巻以降の出版に向けた翻訳と英文校閲作業を推進した。また New Horizons in Islamic Studies (Routledge) から 1 冊を刊行した。講演会等への参加の呼び掛けや研究成果の国内外への発信のために、和文・英文による WEB サイトの充実に努めた。

早稲田大学拠点の研究活動としては、(1) 原典講読を通じた理念研究を推進するために、『アラブ・イスラーム哲学における唯物論的諸傾向』研究会（3 回）、『イブン・ハルドゥーン自伝』読書会（10 回）および研究合宿（2 回）、ウマリー原典講読会（11 回）、イブン・スィーナー『治癒の書』研究会（2 回）、回儒の著作研究を進めるために研究合宿（2 回）を実施し、訳出・注釈を進めた。(2) イスラームの社会実践に関する調査研究においては、

ムスリムがマイノリティである日本社会における事例研究推進のために、『『マスジド代表者会議』有識者懇談会—文化の翻訳を考える』を開催し、次世代ムスリムの教育や人間形成に関する課題、ハラル認証・ムスリム対応に関する課題、地域・非ムスリム社会との関係構築や異文化間理解、文化の伝達（非ムスリムとのコミュニケーションにおける自己表現のあり方など）など、非イスラーム圏で生活するムスリムが直面している課題を明らかにするとともに、それに対する取り組みの有効性を議論した。

「イスラームとジェンダー」に関する研究会（2 回）を実施し、20 世紀初頭、保守層からの反発を受けながらも、女性知識人たちがイラン社会に女子教育を普及させていったプロセスに関して史資料をもちいて検証をおこなった。また、近代イランの婚姻契約の概要、婚姻文書と離婚・相続との関係の考察し、カージャール朝期の女性の財産権がどのように扱われていたのかを検証した。また、鹿島振興財団研究

助成の研究発表会（2015 年 11 月 26 日）において「乾燥地域における水資源管理をめぐるイスラーム的合意形成」というタイトルで研究成果を発表し、水資源を河川に依存するエジプトと地下水脈に依存するアラビア半島（アラブ首長国連邦）を比較し、自然条件の相違が水資源利用にかかわる社会規範のあり方、や水資源分配に至る社会的な合意づくりの過程にどのように影響するかを明らかにした。

【文責 桜井啓子】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門
代表：菊地達也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

中心テーマ 『イスラームの思想と政治：比較と連関』

中東と中央ユーラシアを主要な研究対象とし、18 世紀以降の近現代における思想と政治の動態にみちた相互関係を比較と連関の視点から実証的に研究することを目的とする。

【研究事業名】

研究グループ「近現代中東・中央ユーラシアの思想と政治」

代表：菊地達也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

本研究科は、これまでアジア文化研究専攻を中心として西アジア・中央アジア地域の歴史およびイスラームの思想と文化を研究する大学院生を育成し、日本のイスラーム研究を支える多くの若手研究者を送り出してきた。当該分野に関する博士論文も質量ともに確実に向上している。今回の拠点形成は、このような実績をふまえた上で、これまでになかった現代性を意識したイスラーム地域研究を立ち上げることにより、新しい研究領域の開拓をめざすとともに、従来の歴史、思想、文化研究に新たな展望を開くことを目的とする。そのために次世代人文学開発センター内に創設されるイスラーム地域研究部門に研究科の内外から専門研究者を招き、具体的な研究プロジェクトを実践・展開する中で若手研究者の育成をめざしたい。プロジェクト研究の成果を大学院教育に還元することも計画している。また、英語その他の言語による成果の国際的な発信に努めたい。

【2015 年度事業の目的と活動内容】

① 2015 年度事業の目的

パレスチナ問題、中東・イスラーム諸国の民主化の研究を第一期より継続する。他方、「近現代における政治・社会思想の形成と動態」に関連したテーマとしては「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」、「近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究」、「ソ連解体後のムスリム社会の変容に関する調査・研究」を主要課題として定め、海外の研究者を迎えて研究ネットワークの強化を図りつつ研究活動を展開する。

② 2015 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

第 1 のテーマであるパレスチナ問題研究に関しては、定例研究会（7 回）において、英国委任統治政府によるパレスチナ地図作成の経緯、パレスチナにおける聖者信仰、インティファダ、在米ユダヤ人非シオニスト団体、アンマーン合意の意義等の様々な問題が、政治学・歴史学的アプローチによって検討された。また、東京国際会議においても、セッション“Rethinking Jerusalem as the Crossroads of the ‘East’ and ‘West’”を企画し、第一次世界大戦後のエルサレムでの「失われつつある共生」をとりあげ、エルサレムの非アラブ化・ユダヤ化について議論した。

第 2 の中東・イスラーム諸国の民主化研究に関しては、昨年度に引き続き「アラブの春」後の各国の政治変動について詳細な検討と分析を行った。定例研究会（3 回）においては、イラクのクルディスタン、イエメン、サウジアラビア、リビア、エジプトの現状について報告が行われた。これら最新の研究成果は「中東・イスラーム諸国の民主化データベース」を随時更新しつつ発信している。

第 3 の近現代における政治・社会思想の形成と動態の研究のうち、「近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究」では、アメリカ、台湾から専門家を招聘して国際学術会議“Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations”を開催した（東北学院大学アジア流域文化研究所、中央大学政策文化総合研究所他と共催）。また、「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」では、東京国際会議において、セッション“Soviet-era Memories in Central Asia”を企画するとともに、5 年間の共同研究の成果をまとめた論集 *Memory and Everyday Life in Soviet Central Asia* の刊行に向け準備を進めた。さらに「中央ユーラシア研究会」では、ソ連期のイスラームおよびバダフシャン研究の専門家を招き、研究会を開催した。

研究成果の公刊については、東トルキスタン史に関する貴重な未公開の民間所蔵史料のテキストが、*The Autograph Manuscript of Muḥammad Amīn Bughra's Sharqī Turkistān Tārīkhī, I* として刊行された。また、第 1 期から継続的に出版中の TIAS Central Eurasian Research Series からは“*My Biography*” of Riḍā' al-Dīn b. Fakhr al-Dīn (Ufa, 1323 A.H.) with an Introductory Essay and Indexes および *The Origins of Qing Xinjiang: A Set of Historical Sources on Turfan* を刊行した。これらの刊行物は同時にウェブサイト上での全文公開も進め、研究成果の普及につとめた。

【文責 菊地達也】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

上智大学研究機構 イスラーム研究センター

代表：私市正年（上智大学総合グローバル学部・教授）

中心テーマ 『イスラーム近代と民衆のネットワーク』

近代以降のイスラーム（宗教・思想・文明など）の著しい特徴は、その地域的拡大と社会的深化にある。その原動力は政治的力によるよりも、民衆を主体とした人とモノと情報のネットワークの力による方が大きい。歴史的、地理的な広がりを見つめ、民衆のネットワークによって形成されるイスラームの社会・文化・宗教の諸相や運動のダイナミズムを研究する。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

代表：私市正年（上智大学総合グローバル学部・教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当センターは、上智大学研究機構内の常設の研究所であるアジア文化研究所と密接な連携をとりつつ、外国語学部アジア文化研究室、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻における学部・大学院での教育活動と研究教育活動を軸として、学内外にその活動を展開していくことをめざす。

第1期で立ち上げた当センターは、将来的には上智大学研究機構内の常設のイスラーム研究センターとして改組されることを視野に入れて活動を行う。そのためには、学内的には学部、大学院、研究所と連携しつつ、学外および国際的には本学の海外カトリック・ネットワークとも協力しつつ、イスラーム研究の推進と組織化をはかる。

上智大学における研究は、研究センターのスタッフを中心に「イスラーム近代と民衆のネットワーク」というテーマに関わる研究グループを編成する。具体的には、第1期で得られた主要な成果、「政治運動から自立したイスラーム運動の社会的側面」、「民衆的イスラームの拡大と発展」、「東南アジアから、中東、アフリカまでをつなぐイスラーム・ネットワークの実態」の三つを共通研究課題として掲げ、この研究拠点の構築をめざす。

【2015 年度事業の目的と活動内容】

①2015 年度事業の目的

「イスラーム近代」「民衆」「ネットワーク」という三つの鍵概念が、歴史と現状のなかで現れる実態の分析をめざす。第一に、2011 年のいわゆる「アラブの春」をへたイスラーム運動がめざす方向、権力および民衆との関わりなどを各国のイスラーム運動組織の分析を通じて明らかにする。第二に、東南アジアのムスリムと近代に関して、特に教育、出版活動、国際認識、イスラーム運動に焦点を当て、東アジア、南アジアとの比較を視野に入れつつ国際共同研究を実施する。その一環として、東南アジア・キターブ・コレクションを本格的に公開して利用を促進し、キターブ収集と目録改訂作業を継続する。第三に、スーフィズム・聖者信仰複合に関する研究の基礎作業として、研究の国際交流強化を推進し、CNRS の同一分野の研究者との連携による国際ワークショップ開催を年 1 回のペースで行う。加えて、これまでの研究蓄積の成果刊行を進める。

②2015 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

本事業の活動の総括をかねてイスラーム運動班、東南アジア・イスラーム班、スーフィズム班のそれぞれが国際会議でセッションをくみ、研究報告を行った。個別の班活動については以下のとおりである。

昨年度に引き続き、アラブ諸国の政変に関する研究会、シンポジウム、合宿を開催した。政治と宗教の関係に注目しつつ、各国のイスラーム主義運動の事例分析を行うとともに、政変が発生しなかったアラブ諸国の政治・経済状況および政教関係を比較検討した。モロッコ、トルコ、アルジェリアでの海外調査を行い、各国の政治情勢の調査を行った。イスラーム原典叢書シリーズ（岩波書店）の一冊として『ハサン・バンナー論考集』下巻を刊行した。これまでの研究成果をまとめるため『中東研究のテーマと理論（仮）』の編集作業を行った。

また、「東南アジア・キターブ・コレクション」第 1 期収集分約 1800 点すべての OPAC 入力、配架作業が完了し、アジア文化研究所図書室で全面的に公開された。同コレクションの利用促進を目的として、英文カタログ改訂版を作成し、同研究所ホームページで公開した。さらに、第 2 期収集分約 530 点のカタログ・データ作成を行った。これらの資料を活用して、ムスリムの出版活動や、アジアと中東をつなぐムスリムのネットワークに関する研究を行ない、国際ワークショップを開催するとともに、植民地末期アジアのムスリム思想状況に関する研究を継続し、その成果を SIAS Working Papers No. 26、27 を通じて公開した。

加えて、スーフィズム・聖者信仰に関して、京都大学拠点との連携により学際的かつ地域横断的な視点から研究した。若手研究者主体の国際ワークショップを開催し、若手研究者が自らの研究を国際的に発信するための訓練の場を提供した。また京都大学と上智大学でそれぞれ国際ワークショップを開催して、前者では京都大学拠点および CNRS と連携をさらに深め、後者では京都大学拠点の他に、米国神学大学院連合イスラーム研究所との組織的連携を開始した。また、成果刊行物として『スーフィズムを学ぶ人のために』（東長靖・赤堀雅幸編、世界思想社、2016 年刊行予定）の執筆と編集作業を進めた。

【文責：私市正年】

※活動内容の詳細については、資料編を参照

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

附属イスラーム地域研究センター

代表：東長 靖（京都大学イスラーム地域研究センター・センター長・
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

中心テーマ 『イスラーム世界の国際組織』

中東・南アジアを中心として、イスラーム世界に広がるさまざまな形態の国際組織やグローバル・ネットワークについて、その背景となっているウンマ論やイスラーム連帯論などの研究を進めるとともに、とくに国際関係・情報ネットワーク・広域タリカ・イスラーム経済・イスラーム法に関連する組織やネットワークの理念・実態・動向を研究し、現代イスラーム世界の理解を総合的に深めることをめざす。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」

代表：東長靖（京都大学・教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当センターは、京都大学、とくに大学院アジア・アフリカ地域研究研究科において、これまで展開されてきた文理融合による総合的地域研究とその研究成果をさらに発展させ、イスラーム地域研究の大学院教育および若手育成を推進する拠点を形成することをねらいとする。

第 1 期において研究科再編を通じて立ち上げたグローバル地域研究専攻、とくにイスラーム世界論講座と連携して、拠点間ネットワークの協力のもとに、大学院教育カリキュラムの開発、専門的教育のための資料収集、若手育成に資する「知のインフラ」整備、大学院レベルでの交流・協力を中心とする国際的ネットワーク作り、大学院での教育・研究に関する情報の収集と発信などを通じて、イスラーム地域研究の大学院教育および若手育成を推進する拠点を形成する。

京都大学における研究は、京都大学のスタッフを中心に「イスラーム世界の国際組織」に関わる研究グループを編成する。具体的には「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」という課題をかかげ、国際関係・情報ネットワーク・広域タリカ・イスラーム経済・イスラーム法などをめぐる研究をおこなうと同時に、研究と大学院教育を架橋する拠点の構築を目指す。

【2015年度事業の目的と活動内容】

①2015 年度事業の目的

最終年度に当たる 2015 年度は、各研究班がこれまでの研究を総括し、成果をまとめることを目的とする。第 2 班「広域タリカ」研究班と第 3 班「イスラーム経済とイスラーム法」研究班は、9 月に開催される IAS 国際会議でそれぞれセッションを組み、最終的な成果につながる発表を行う。第 1 班「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班は、NIHU 地域研究間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」との相互フィードバックによってもたらされた成果を生かしつつ最終的なまとめに入る。拠点全体としては 3 班合同研究会で総括を行う。同時に大学院教育・若手研究者育成を推進する。また国際交流をさらに確固たるものとし、拠点整備活動を完了させる。

②2015 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

拠点全体の活動は以下の通りである。マレーシア国民大学イスラーム文明研究センターとの合同シンポジウムは、多様なトピックを研究する研究者の交流や多数の実務家の参画などにより、テーマである「イスラーム文明」が理念的なものからより実体をもった概念として定着したと実感されるものとなった。加えて合同セミナーではこれまでの到達点を確認された。釜山外国語大学地中海研究所との共催ワークショップでは、中東に限らないフィールドの事例が取り上げられ、地域的な広がりをもつ成果が得られたとともに、データベース構築に関する発表もなされ、研究発信の方法についても有益な議論が交わされた。3 班合同研究会はイスラーム地域研究の総括にふさわしい研究会となり、各班の研究が互いにリンクし合うものであることが改めて確認された。

以下に各班の活動を述べる。第 1 班は現代の各組織の動向研究を順調に進めると同時に、IAS-INDAS 連携事業との相互フィードバックにより、南アジアを事例とした研究が進められた。2 回の研究会では IT やソーシャルメディア、テロの問題に加え、第 2 班のテーマともつながるスーフィズムの問題に関する発表がなされた。第 2 班は研究会を 1 回、国際セミナーを 3 回、国際ワークショップを 1 回、上智大学拠点と共催した。研究会およびセミナーでは思想・歴史・人類学の異なる分野において、新たな研究の地平を開く発表を得、学際的な共同研究を着実に前進させた。ワークショップでは若手研究者を中心にレベルの高い発表がなされ、若手研究者の育成という京都大学拠点の目的が成果を上げていることが実感された。また上智大学拠点との連携研究はネットワーク型の利点を十分に示したものであった。第 3 班は英国ダラム大学とのワークショップを開催し、イスラーム経済が掲げる理念の新しい価値を検討した。さらに第 2 班と第 3 班は IAS 国際会議においてそれぞれセッションを組んで成果を発信した。また京都大学拠点が推進してきた国際交流は今年度も確固たる成果を上げ、拠点整備事業が成功裏に完了した。

【文責 東長 靖】

※活動内容の詳細については、資料編を参照

公益財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓』

イスラーム地域研究の基盤となる、史資料の体系的な収集と整理、研究を組織的に行うための書誌・研究文献情報の編纂と普及、史資料学の開拓の 3 つの事業を進め、史資料の利用にかかわる環境を整備し、研究機関や研究者とのネットワークを構築し、史資料学の拠点をつくる。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」

代表：三浦徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当拠点は、イスラーム地域研究の基盤となる書誌情報・文献情報の体系化（史資料学の開拓）と史資料の体系的収集・利用のための環境を構築し、史資料の組織的な利用にむけ、5 つの拠点をはじめ国内外の研究機関のネットワークを構築することを目的とする。

拠点構成員を中心に、史資料に関わる諸機関と連携し、「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」というテーマに関わる事業を推進する。研究課題を「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」とし、イスラーム地域研究の史資料ネットワークを構築し、その拠点としての役割を果たす。

【2015 年度事業の目的と活動内容】

①2015 年度事業の目的

国内主要図書館における現地語史資料の所蔵と整理の状況、インターネットを含む検索・利用環境、そして研究の動向などを総合的に踏まえた上で、現地語史資料の体系的収集を継続し、共同利用を促進する。調査やアラビア文字資料司書連絡会等で得た情報や要望に基づき、現地語史資料の整理・書誌データ作成のための資料や補助ツールの作成と公開、「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の編集をはじめとする関連データベースの拡充、国内・海外の現地語史資料の概要が把握でき、検索が容易になるような情報を収集し、逐次ウェブサイトなどを通じて発信を行う。また、史料研究について、原典講読会および国内研究機関との連携による研究活動を実施し、研究情報の共有と若手研究者の育成をはかる。これらによって、史料および研究文献の収集と整理（情報化）と利用の 3 つの局面を連結したサイクルを築き、国際的な共同利用にむけた環境改善をはかる。

②2015 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

現地語資料および欧文研究書等の収集を行うとともに、整理に力を入れ、これまでに NACSIS-CAT に登録した書誌の見直しを行った。「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の 1,000 件のデータ更新を行い、イスラーム地域をめぐる国際情勢の変化にも対応した最新の文献情報の公開を行った。「卒論を書くための情報検索リテラシーセミナー」に代わり、ウェブサイト上で現地語資料の検索法を解説する「イスラーム地域研究 現地語資料の探し方（2015 年版）」および検索スキルをチェックするクイズを公開し、イスラーム地域研究プログラム終了後も学生が現地語資料の検索法を学ぶことができるようにした。また、アラビア文字資料司書連絡会を開催し、メーリングリスト等により図書館担当者のネットワークの維持をはかることとした。

史料研究では、シャリーアと近代研究会は、8 回の研究会を開催し、オスマン民法典第 3 編（保証）の訳を終えるとともに、第 1 編（売買）の訳を見直し、3 月に『オスマン民法典（メジェッレ）の研究 売買編』（大河原知樹・堀井聡江・シャリーアと近代研究会編）として刊行した。また、「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」研究会、近代中央ユーラシア比較法制度史研究会、オスマン史研究会、オスマン文書セミナー、中央アジア古文書研究セミナーを開催し、文書史料を用いた研究の推進と学生や若手研究者の育成を図った。IAS 第 5 回国際会議でセッション「The Shari'a Courts and the Imperial Ruling System」を主宰し、ワクフに関する国際シンポジウムを東洋文庫で開催したほか、合同集会「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」の企画を行い、史料研究の国際的なネットワーク形成と一般への普及に成果をえた。

【文責 三浦徹】

※活動内容の詳細については、資料編を参照

各拠点別報告

【資料編】

早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所

代表：桜井啓子（早稲田大学イスラーム地域研究機構長、
イスラーム地域研究所長、早稲田大学国際学術院・教授）

中心テーマ 『イスラームの知と文明』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
桜井 啓子	イスラーム地域研究機構長、イスラーム地域研究所長、国際学術院教授	研究拠点代表 (比較社会学、地域研究)
西村 淳一	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究分担者 (イラン史)
吉村 武典	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究グループ研究分担者 (マムルーク朝史)
長谷部 圭彦	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究グループ研究分担者 (オスマン朝史、教育史)
福田 安志	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院教授	研究グループ研究協力者 (アラブ近現代史、地域研究 (GCC 諸国))
吉村 貴之	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究協力者 (ソ連・中東関係論、アルメニア近現代史、民族問題)
秋山 徹	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (中央ユーラシア史、遊牧社会史、ロシア帝国論)
店田 廣文	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学人間科学学術院教授	研究グループ研究分担者 (社会学、滞日ムスリム)
小島 宏	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学社会科学総合学術院教授	研究グループ研究協力者 (人口政策論)
新保 敦子	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授	研究グループ研究協力者 (中国教育史、中国ムスリム研究)
小松 香織	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授	研究グループ研究協力者 (オスマン朝史)
近藤 二郎	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学文学学術院教授	拠点構成員 (エジプト考古学)

中谷 礼仁	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学理工学術院教授	拠点構成員 (建築史、歴史工学)
大稔 哲也	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学文学学術院教授	拠点構成員 (中東社会史)
野田 仁	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学高等研究所准教授	研究グループ研究協力者 (中央アジア、カザフスタン史)
岡井 宏文	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学人間科学学術院助教	研究グループ研究協力者 (日本のイスラーム)
川床 睦夫	イスラーム地域研究所招聘研究員、イスラーム考古学研究所・所長	拠点構成員 (イスラーム考古学)
長谷川 奏	イスラーム地域研究所招聘研究員、早稲田大学総合研究機構・客員上級研究員/研究院客員教授	拠点構成員 (初期イスラーム文化形成論(考古学)、文化遺産保存論)
真道 洋子	イスラーム地域研究所招聘研究員、イスラーム考古学研究所・主任研究員、東洋文庫研究員	拠点構成員 (イスラーム考古学)
深見奈緒子	イスラーム地域研究所招聘研究員、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長	研究グループ研究協力者 (イスラーム建築)
佐藤健太郎	イスラーム地域研究所招聘研究員、北海道大学大学院文学研究科准教授	研究グループ研究分担者 (マグリブ・アンダルス史)
貫井 万里	イスラーム地域研究所招聘研究員、(公財) 日本国際問題研究所研究員	研究グループ研究協力者 (近代イラン経済)
砂井 紫里	イスラーム地域研究所招聘研究員、早稲田大学人間科学学術院非常勤講師	研究グループ研究協力者 (中国の回族社会)
澤井 一彰	イスラーム地域研究所招聘研究員、関西大学文学部准教授	研究グループ研究協力者 (オスマン朝史)
佐藤 尚平	イスラーム地域研究所招聘研究員、金沢大学人間社会研究域法学系准教授	研究グループ研究協力者 (国際関係、湾岸近現代政治)
木村 自	イスラーム地域研究所招聘研究員、人間文化研究機構本部・特任助教	拠点構成員 (人類学、回民の移住に関する民俗誌研究)
大足 恭平	イスラーム地域研究所招聘研究員、青山学院大学附置情報科学研究センター・助手	研究グループ研究協力者 (イラン近現代史)
細田 和江	イスラーム地域研究所招聘研究員、中央大学政策文化総合研究所・準研究員	研究グループ研究協力者 (イスラエル文学、イスラエル／パレスチナ地域研究)
杉山 隆一	イスラーム地域研究所招聘研究員、慶應義塾大学言語文化研究所・特殊講座講師	研究グループ研究協力者 (サファヴィー朝史)
フマユン・コビル	イスラーム地域研究所招聘研究員、ノース・サウス大学政治・社会学部・助教	研究グループ研究協力者 (地域研究(南アジア)、マドラサ、ウラマー、イスラーム運動)

アブドウル・カリーム・ラーフェク	イスラーム地域研究所招聘研究員、ウィリアム&メアリ大学名誉教授（アメリカ合衆国）	研究グループ研究協力者（オスマン朝期シリア）
アフマド・ハサン・サイード	イスラーム地域研究所招聘研究員、ベングリオン大学講師（イスラエル）	研究グループ研究協力者（比較政治）
ムハンマド・アフイーフィー	イスラーム地域研究所招聘研究員、カイロ大学文学部歴史学科教授（エジプト）	研究グループ協力者（オスマン朝期エジプト史）

研究グループ：「イスラームの社会的実践とその理念」

（研究グループメンバー）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 （担当研究テーマ）
桜井 啓子	イスラーム地域研究所長、国際学術院教授	研究グループ代表 （比較社会学、地域研究）
店田 廣文	イスラーム地域研究所研究員、人間科学学術院教授	研究分担者 （社会学、アジア社会論）
佐藤健太郎	イスラーム地域研究所招聘研究員、北海道大学大学院文学研究科准教授	研究分担者 （マグリブ・アンダルス史）
オマール・ファルーク	イスラーム地域研究所招聘研究員、マレーシア科学大学客員教授（マレーシア）	研究分担者 （比較政治学）
ゴルナー・メフラン	アルザフラー大学教育心理学部准教授（イラン）	研究分担者 （教育心理学）
西村 淳一	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究分担者 （イラン史）
吉村 武典	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究分担者 （マムルーク朝史）
長谷部 圭彦	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究分担者 （オスマン朝史、教育史）

（研究グループ海外共同研究者）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ステファン・ハンフリーズ	カリフォルニア大学サンタバーバラ校特任教授（アメリカ合衆国）	イスラーム史
ファリバー・アーデルハーゲン	国際関係調査研究センター（CERI）上級研究員（フランス）	人類学

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
青木 隆	日本大学文理学部教授	中国哲学
秋山 徹	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	中央アジア、クルグス史
阿久津正幸	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門特任研究員、東洋大学国際地域学部非常勤講師 (東京大学拠点研究協力者)	イスラームの歴史における教育と社会
荒井 悠太	早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程	マムルーク朝史、イブン・ハルドゥーン研究
五十嵐大介	イスラーム地域研究東京大学拠点特任研究員	中世アラブ史
石川 基樹	早稲田大学大学非常勤講師	高齢社会論・社会調査論
伊藤 隆郎	神戸大学文学研究科准教授	マムルーク朝史
井上 貴智	マクギール大学（カナダ）修士課程	アラビア科学技術史
大足 恭平	イスラーム地域研究所招聘研究員 青山学院大学情報科学研究センター助手 (東京大学拠点研究協力者)	イラン近現代史
太田（塚田） 絵里奈	慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程	中世アラブ社会史
岡井 宏文	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学人間科学学術院助手	日本のイスラーム
岡本 恵	神戸大学大学院文学研究科博士後期課程	シリア史
小野 亮介	慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程	近現代中央アジア、トルコ諸民族研究
上山 一	筑波大学北アフリカ研究センター・研究員	イスラーム金融・経済
北爪 秀紀	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了	日本のモスク研究
木村 伸子	早稲田大学大学院文学研究科博士課程	マムルーク朝研究

日下部達哉	広島大学教育開発国際協力研究センター准教授	比較教育学
栗田 禎子	千葉大学文学部教授	アラブ近現代史
黒岩 高	武蔵大学人文学部教授	中国ムスリム社会史
高野 太輔	大東文化大学国際関係学部准教授	初期イスラーム史
小島 宏	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学社会科学総合学術院教授	人口政策論
後藤 絵美	東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET 機構) 特任准教授、東洋文化研究所准教授 (兼任)	地域研究、イスラーム文化研究
小林 春夫	東京学芸大学人文社会系教授	イスラーム思想史
小松 香織	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学学術院教授	オスマン朝史
近藤 真美	龍谷大学文学部准教授	中世シリア史
砂井 紫里	イスラーム地域研究所招聘研究員、早稲田大学人間科学部非常勤講師	文化人類学、食文化研究
佐藤 尚平	イスラーム地域研究機構招聘研究員、金沢大学人間社会研究域法学系准教授	国際関係、湾岸近現代政治
佐藤 実	大妻女子大学比較文化学部准教授	中国イスラーム思想
澤井 一彰	イスラーム地域研究所招聘研究員、関西大学文学部准教授	オスマン朝史
清水 和裕	九州大学大学院イスラーム文明史学科教授	初期イスラーム史
新保 敦子	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授	中国教育史、中国ムスリム研究
杉本 悠子	早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程	近代シリアのイスラーム知識人
杉山 隆一	イスラーム地域研究所招聘研究員、慶應義塾大学言語文化研究所特殊講座講師	サファヴィー朝史
鈴木 恵美	早稲田大学地域・地域間研究機構主任研究員・研究院准教授 (東京大学拠点研究協力者)	現代エジプト政治

田島 大輔	立命館大学文学研究科人文学専攻博士後期課程	中国ムスリム近代史
谷口 淳一	京都女子大学文学部教授	中世シリア史
千代崎未央	千葉大学大学院文学研究科博士課程	中東近現代史
辻 明日香	日本学術振興会特別研究員（PD）（東京大学）	中世エジプト史、コプト社会、聖人研究
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教 （上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者）	中国のイスラーム
中町 信孝	イスラーム地域研究所招聘研究員、甲南大学文学部教授	マムルーク朝史
中村 妙子	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員	中世シリア史
貫井 万里	イスラーム地域研究機構招聘研究員、（公財）日本国際問題研究所研究員 （上智大学拠点研究協力者）	近代イラン経済
子島 進	東洋大学国際地域学部教授	文化人類学、南アジア地域研究
野田 仁	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学高等研究所研究員・研究院准教授 （東京大学拠点研究協力者）	中央アジア、カザフスタン史
橋爪 烈	千葉科学大学薬学部専任講師	アッバース朝研究
平野 淳一	千葉大学大学院社会文化研究科 （京都大学拠点研究協力者）	近代イスラーム政治思想、中東地域研究
深見奈緒子	イスラーム地域研究所招聘研究員、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長	イスラーム建築
福島 康博	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員	イスラーム金融論、マレーシアの社会経済
福田 安志	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構上席研究員・研究院教授	アラブ近現代史、地域研究（GCC 諸国）
細田 和江	中央大学政策文化総合研究所准研究員	中東地域研究、イスラエル文学
堀井 聡江	桜美林大学リベラルアーツ学群専任准教授 （東洋文庫拠点研究協力者）	イスラーム法、エジプト民法

村田 久	環太平洋大学次世代教育学部准教授	社会福祉、滞日ムスリム
森田 豊子	鹿児島大学非常勤講師	現代イラン
森山 央朗	同志社大学神学部准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	初期イスラーム史、10～12世紀マ シュリク地域におけるハディース 学者の社会的・文化的活動
矢島 洋一	奈良女子大学人文科学系人文社会学領域准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	スーフィズム史
横内 吾郎	京都大学文学部非常勤講師	ウマイヤ朝史
吉村 貴之	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域 研究機構主任研究員・研究院准教授 (東京大学拠点研究協力者)	研究グループ研究協力者 (ソ連・中東関係論、アルメニア 近現代史、民族問題)

【2015 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

昨年度に引き続き、2015 年度も NIHU 研究派遣員や早稲田大学の学内経費による雇用を含むイスラーム地域研究機構専任の研究員を中心に、拠点として充実したメンバーで活動を行った。早稲田大学内に個人研究室、共同研究室、資料室、機構長室の計 12 部屋を早稲田大学からの研究および事務スペースとして供与された（早稲田大学早稲田キャンパス 120-4 号館、9 号館）。また、早稲田大学の学内経費により雇用されている 3 名の事務専従の職員も早稲田大学拠点、および 5 拠点全体の研究活動とネットワークを大きく支えている。

中心拠点としてイスラーム地域の 5 拠点全体の情報集約・連絡調整をはかるため、継続してメーリングリスト（ias@ml.islam.waseda.ac.jp）を運営し、イスラーム地域研究全体の周知、広報活動に努めた。本年度も研究者以外に学部学生、一般からのメーリングリストへの加入依頼の問い合わせは順調に増加し、メーリングリストの存在が一般に広く定着したことがうかがえた。本メーリングリストは 2016 年 3 月 31 日をもって運用を終了する。また、2013 年度に刷新した「NIHU プログラム・イスラーム地域研究」のポータルサイト（<http://www.ias-network.jp/>）を日英 2 言語のページを基盤に、8 言語（アラビア語、ペルシア語、トルコ語、インドネシア語、マレー語、ウルドゥー語、中文、韓国語）によるリーフレットと併せて運用を継続し、5 拠点全体の活動内容の周知を強化、維持した。ウェブサイトについてはアーカイブ化しプログラム終了後も閲覧可能とする予定である。

（吉村武典）

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動（総括事業）

① 第 5 回 NIHU プログラム・イスラーム地域研究国際会議

イスラーム地域研究第 5 回国際会議（東京国際会議）

日時：2015 年 9 月 11 日(金)～12 日(土)

場所：上智大学四谷キャンパス 12 号館

概要：政治、経済、宗教、法律、歴史、マイノリティなどを扱った 10 セッション — 33 の研究発表 — を実施した。16 か国 — アメリカ、イギリス、オランダ、ドイツ、フランス、ロシア、アルジェリア、エジプト、トルコ、パレスチナ、パキスタン、ウズベキスタン、インドネシア、マレーシア、韓国、ニュージーランド — 40 名の外国人参加者を得、「イスラーム地域研究」の成果を海外へ発信することができた。またポスターセッションでは博士課程学生を中心とした 15 名の若手研究者が発表し、次世代研究者の育成にも寄与できた。本会議終了後には、報告書を早稲田大学イスラーム地域研究機構発行の学術誌『イスラーム地域研究ジャーナル』第 8 号に掲載し、その成果を国内にも還元した。

（西村淳一）

プログラム

第1日 2015年9月11日(金)

12:00 – 12:50 Registration

13:00 – 13:30 Opening Remarks

14:00 – 16:00 Session 1-1 “Islamist Movements under the New Political Order in the Middle East and North Africa, in the wake of the “Arab Spring””

Convenor: Masatoshi Kisaichi (Sophia University, Japan)

Speaker 1: Nozomi Shiratani (Sophia University, Japan) “Possibilities of Creating a “Win-Win” Relationship between the Moroccan Monarchy and the Islamist Government”

Speaker 2: Yutaka Takaoka (Middle East Research Institute of Japan) “Problems after the “Arab Spring”: “Extreme” Militants and “Moderate” Militants”

Speaker 3: Amr Farouk Mohamed Farid (Fatih University, Turkey) “Islamic Forces from Insulation to Isolation: Future Insights from an Egyptian Empirical View”

Discussant: Zoubir Arous (University of Algiers-2, Algeria)

Chairperson: Takayuki Yokota (Nihon University, Japan)

14:00 – 16:00 Session 1-2 “The Shari‘a Courts and the Imperial Ruling System”

Convenor: Nobuaki Kondo (Tokyo University of Foreign Studies, Japan)

Speaker 1: Kenneth Cuno (University of Illinois at Urbana-Champaign, U.S.A.) “Claiming Heirship: A Litigant Strategy in the Sharia Courts of Nineteenth-century Egypt”

Speaker 2: Vladimir Bobrovnikov (Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences, Russia) “Shari‘a Justice in the Service of Empire: The Military-Native Administration in Russia’s Caucasus, 1860-1917”

Speaker 3: Yoichi Yajima (Nara Women’s University, Japan) “Islamic Courts and Russian Courts in Russian Turkestan”

Speaker 4: Naoko Kuwahara (Fukuyama City University, Japan) “The Institutionalization of Islam, Shariah and the Shariah Court in Colonial Malaya”

16:30 – 18:30 Session 2-1 “Interpretations, Practice, and Politics of Modern Halal Matters”

Convenor: Yukari Sai (Waseda University, Japan)

Speaker 1: Md Nasrudin Bin Md Akhir (University of Malaya, Malaysia) and Siti Rohaini Kassim (University of Malaya, Malaysia) “New Paradigms for Halal Compliance: A Case for ‘Halal Executives’”

Speaker 2: Shin Yasuda (Teikyo University, Japan) “Redefining *Halal* in Japan: Bridging Host and Guest Values in the Japanese Tourism Industry”

Speaker 3: Yukari Sai (Waseda University, Japan) “Halal Food Regulation and Consumption in China”

Discussant/Chairperson: Florence Bergeaud-Blackler (Institut de Recherche et d'Etude sur le Monde Arabe et Musulman (IREMAM), Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), France)

16:30 – 18:30 Session 2-2 “Rethinking Jerusalem as the Crossroads of the ‘East’ and ‘West’”

Convenor: Akira Usuki (Japan Women's University, Japan)

Speaker 1: Ali Qleibo (Al-Quds University, Palestine) “El-Khader/Mar Jiries: The Triumph of Order over Chaos”

Speaker 2: Mi-Jung Hong (Dankook University, Korea) “Palestine Mandate and Zionists Project in the British Strategy of the Middle East”

Speaker 3: Nur Masalha (St. Mary's University, U.K.) ““Facts on the Ground”: Israeli Biblical Archaeology and the Palestinian Heritage of al-Quds (Jerusalem)”

Speaker 4: Yoshihiro Yakushige (Osaka City University, Japan) “Uchimura Kanzo's Perception of Nations and Jerusalem”

Discussant 1: Eiji Nagasawa (The University of Tokyo, Japan)

Discussant 2: Aiko Nishikida (Tokyo University of Foreign Studies, Japan)

第 2 日 9 月 12 日 (土)

9:30 - 11:30 Session 3-1 “Soviet-era Memories in Central Asia”

Convenor: Hisao Komatsu (Tokyo University of Foreign Studies, Japan)

Speaker 1: Timur Dadabaev (University of Tsukuba, Japan) “Dialogue of Past and Present in Remembering Soviet Past”

Speaker 2: Guljanat Kurmangaliyeva Ercilasun (Gazi University, Turkey) “Soviet Legacy in Memories: Pros and Cons according to Oral History Studies in Kyrgyzstan and Kazakhstan”

Speaker 3: İlhan Şahin (Istanbul 29 Mayıs University, Turkey) “Religious and Belief Rituals among the Kyrgyz in Light of Recollections”

Discussant 1: Susanne Fehlings (Universität Tübingen, Germany)

Discussant 2: Alexander Bukh (Victoria University of Wellington, New Zealand)

9:30 - 11:30 Session 3-2 “Redefining the Total Structure of Sufism”

Convenor/Chairperson: Masayuki Akahori (Sophia University, Japan)

Convenor: Yasushi Tonaga (Kyoto University, Japan)

Speaker 1: Yasushi Tonaga (Kyoto University, Japan) “Sufism as Mysticism: Development in and Debates on the *Fanā*’ Theory”

Speaker 2: Naoki Yamamoto (Kyoto University, Japan) “The Challenge of Taşawwuf in the 16th-Century Ottoman Empire: İmâm Birgivî's Concept of Islamic Reform”

Speaker 3: Alexandre Papas (Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), France) “*Tugh*: A

Nexus between Sufism and Popular Cult in Central Asia”

Discussant: Thierry Zarcone (Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), France)

13:00 - 15:00 Session 4-1 “Renovation and New Waves in Islamic Socio-economic Institutions: *Waqf*, *Zakat*, and Microfinance”

Convener/Discussant: Yasushi Kosugi (Kyoto University, Japan)

Speaker 1: Shinsuke Nagaoka (Kyoto University, Japan) “The Relationship between Islamic Finance and Traditional Economic Institutions in Singapore: Revitalization of *Waqf* and Its Potential to Transcend the Financialization of Islamic Economics”

Speaker 2: Nur Indah Riwayatanti (State Polytechnic Malang, Indonesia) “What Role Islamic Microfinance Institutions Can Play in Socio-economic Development in Indonesia?”

Speaker 3: Mohammad Soleh Nurzaman (University of Indonesia) “Evaluating the Impact of Productive-based Zakat by Human Development Index at Household Level: An Empirical Finding”

13:00 - 15:00 Session 4-2 “Christians in the Middle East: Language, Homeland, and Identity”

Convenor: Hiroko Miyokawa (Sophia University, Japan)

Speaker 1: Hiroko Miyokawa (Sophia University, Japan) “Revival of the Coptic Language and Pharaonism”

Speaker 2: Shabo Talay (Freie Universität Berlin, Germany) “Lingusitic Genocide: The Case of Aramaic during the Sayfo of 1915”

Speaker 3: Naures Atto (University of Cambridge, U.K.) “Diaspora Assyrians and the Perceptions of Homeland”

Discussant: Hidemi Takahashi (The University of Tokyo, Japan)

Chairperson: Cyril Veliath (Sophia University, Japan)

15:05 – 15:55 Poster Session

16:00 - 18:00 Session 5-1 “Transformation of Islamic Tales in Modern Southeast Asia: Local and

enor: Midori Kawashima (Sophia University, Japan)

Speaker 1: Yumi Sugahara (Osaka University, Japan) “Transformation of the *Isra’ Mi’raj* Story in Modern Southeast Asia”

Speaker 2: Akashi Moteki (Sophia University, Japan) “The *Commentary* of *Aḥmad al-Dardīr* concerning the Story of the *Mi’rāj* of the Prophet by Najm al-Dīn al-Ghayṭī”

Speaker 3: Pramono (Andalas University, Indonesia) “The Poetical Polemics on *Mawlid* in Minangkabau: Transcendental Values and Local Culture”

Speaker 4: Midori Kawashima (Sophia University, Japan) “Tales of the Hereafter and Morality for Women: Reshaping Maranao Texts in Mindanao, the Philippines, from the 1930s to 1970s”

Discussant: Edwin Wieringa (Universität zu Köln, Germany)

Chairperson: Kazuhiro Arai (Keio University, Japan)

16:00 - 18:00 Session 5-2 “Rethinking the Pre-modern Islamic States”

Convenor: Kazuhiro Shimizu (Kyushu University, Japan)

Speaker 1: Kazuhiro Shimizu (Kyushu University, Japan) “The Color Black under the Abbasid Caliphate”

Speaker 2: Ayumi Yanagiya (Toyo Bunko (The Oriental Library), Japan) “Domestic Caliphs in 14th-century Maghreb and al-Andalus: An Understanding of “Caliph” by Intellectual Ibn Khaldun and His Contemporaries”

Speaker 3: Jun'ichi Taniguchi (Kyoto Women's University, Japan) “The Worldview of the Bahri Mamluks as Shown in Diplomatic Correspondence”

Discussant: Essam Fahim (Lahore University of Management Sciences, Pakistan)

Chairperson: Kentaro Sato (Hokkaido University, Japan)

18:15 - 18:45 Closing Remarks

②日本学術会議公開シンポジウム「亀裂の走る世界の中でー地域研究からの問い」

日時：2015年10月3日(土) 13:00～17:00

場所：早稲田大学大隈小講堂

主催：日本学術会議地域研究委員会地域基盤整備分科会・多文化共生分科会、早稲田大学イスラーム地域研究機構

共催：地域研究コンソーシアム(JCAS)、地域研究学会連絡協議会(JCASA)、京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)、NIHUプログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点(TIAS)

概要：本シンポジウムでは、西崎文子氏（東京大学）による趣旨説明のあと、内藤正典氏（同志社大学）による基調報告「イスラームからみた「亀裂」のあり方」がなされた。それを承けて、宮島喬氏（お茶の水女子大学、ヨーロッパ）、武内進一氏（アジア経済研究所、アフリカ）、中條猷氏（桜美林大学、アメリカ）、大串和雄氏（東京大学、ラテンアメリカ）、宮崎恒二氏（東京外国語大学、東南アジア）、外村大氏（東京大学、東アジア・日本）によるパネル・ディスカッションが行われ、それぞれの地域における亀裂や暴力が紹介された。地域間の対比や関連性も検討され、亀裂の暴力化を防ぐ方策についても議論された。

（長谷部圭彦）

プログラム：

総合司会 桜井啓子（日本学術会議第一部連携会員、早稲田大学教授）

第1部

趣旨説明 西崎文子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

基調報告 内藤正典（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授）「イスラームからみた『亀裂』のあり方」

第2部 パネル・ディスカッション「地域からの視点」

司会 貴志俊彦（日本学術会議第一部連携会員、京都大学地域研究統合情報センター教授）

ヨーロッパ：宮島喬（日本学術会議第一部連携会員、お茶の水大学名誉教授）

アフリカ：武内進一（日本学術会議第一部連携会員、日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター長）

米国：中條献（桜美林大学人文学系教授）

ラテンアメリカ：大串和雄（日本学術会議第一部連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）

東南アジア：宮崎恒二（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究科教授、副学長）

東アジア・日本：外村大（東京大学大学院総合文化研究科教授）

総合討論

閉会の辞 小松久男（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授）

③イスラーム地域研究若手研究者の会

概要：2015年度は計7回の研究会を開催した。そのうち1回は特別企画として1月例会において「ロシア・中国におけるムスリム・マイノリティと国家—20世紀政治変動期における多文化共生の実践とその課題」を東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所と共催しシンポジウム形式で研究会を行った。ムスリムがマイノリティとして存在するロシア、中国を対象にその歴史的な問題を多角的に検証した。会場では立ち見がでるほどの多くの聴衆を集め、同地域の研究に対する関心の高さがうかがわれた。。また、通常の例会では、本年度はアラビア科学史の研究発表1件を除き、16世紀以降のオスマン朝、19世紀の中央アジアに関する研究発表が集中した。同地域、時代の史資料の豊富さを背景に、イスラーム地域研究を参画し集約的に研究を進めた中堅研究者の指導学生による発表が増えたことに大きく起因すると考えられ、着実にイスラーム地域研究の成果が次世代の研究者育成の成果に結びついていることを感じさせた。また、各回ともコメンテーターによるより広い視野からの的確な批判と質問により参加者を含めた活発な議論、意見交換が行われ、報告者を含めた若手の研究者にそれぞれの研究をより発展させる意欲を持たせることに成功した。

（吉村武典）

各例会の詳細は以下の通り

5月例会

日時：5月23日（土） 14:00～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス120-4号館405・6教室

報告者：小野瑞絵（北海道大学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻スラブ社会文化論専修・博士課程）

題目：「北コーカサスにおける青年ジャマート思想の変遷—イデオログの言説分析を中心に」

コメンテーター：飯塚正人（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長・教授）

6月例会

日時：6月27日（土） 14:00～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス120-4号館4階405・406会議室

報告者：長沼秀幸（東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻・博士課程）

題目：「19世紀前半ロシア帝国オレンブルグ県のカザフ遊牧民統治—行政区画間の境界線に関する一考察」

コメンテーター：濱本真実（日本学術振興会・特別研究員）

7月例会

日時：6月21日（土） 14:00～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス120-4号館4階405・406会議室

報告者：山本佳奈（同志社大学大学院文学研究科・博士後期課程）

題目：「16世紀オスマン帝国の支配組織運営の作法：ルトフィー・パシャ『宰相の書』における軍人系大宰相の視点から」

コメンテーター：松尾有里子（お茶の水女子大学・非常勤講師）

10月例会

日時：10月24日（土） 14:00～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス120-4号館4階405・406会議室

報告者：渡邊真代（東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士後期課程）

題目：「アラビア数学における「大きさ」概念について：エウクレイデス作品で用いられるmegethosの訳語miqdārとqadrを通じての考察」

コメンテーター：野元晋（慶應義塾大学言語文化研究所教授）

11月例会

日時：11月28日（土） 14:00～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス120-4号館4階405・406会議室

報告者：阿久津 侑里氏（千葉大学大学院人文社会研究科前期課程修了）

題目：「暴力・婚姻にみるズィンミー：16世紀末オスマン朝下ブルサの法廷台帳（A153）を史料として」

コメンテーター：阿部 尚史氏（東京大学大学院総合文化研究科特任助教）

1月例会

シンポジウム「ロシア・中国におけるムスリム・マイノリティと国家：20 世紀政治変動期における多文化共生の実践とその課題」

日時：2016年1月9日(土) 13:00～19:00

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階マルチメディアセミナー室 (306)

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA研)

共催：イスラーム地域研究・若手研究者の会、中国ムスリム研究会、科学研究費補助金若手研究 (B)「19 世紀後半ロシア帝国統治下ムスリム社会の家族社会史的研究」(研究代表者：磯貝真澄、課題番号：24720327)

プログラム：

13:00-13:10

開会の辞・挨拶 太田 信宏 (東京外国語大学 AA 研)

趣旨説明 長沼 秀幸 (東京大学大学院)

セッションⅠ 【ソ連・ロシアとその周縁】

司会：海野 典子 (東京大学大学院)

13:10-13:40 磯貝 真澄 (京都外国語大学)

「ソ連初期ヴォルガ・ウラル地域におけるウラマー、ムスリム・コムニスト、東洋学者」

13:40-14:10 桜間 瑛 (日本学術振興会特別研究員)

「異民族同化の先兵か、啓蒙の聖人か？」

—現在の非ロシア人から見る N.イリミンスキーの宣教活動への評価と民族意識—

14:10-14:40 松前 もゆる (盛岡大学)

「体制転換後のブルガリアにおけるマイノリティ政策とムスリムの生活戦略

—イスラーム、ナショナリズム、トランスナショナリズム—

14:40-15:10 野田 仁 (早稲田大学)

「ムスリムか遊牧民か？—清末のカザフ遊牧民統治—

15:10-15:30 休憩

セッションⅡ 【中華民国・中華人民共和国とその周縁】

司会：矢久保 典良 (慶應義塾大学大学院)

15:30-16:00 中西 竜也 (京都大学)

「日中戦争期中国ムスリムとウンマ」

16:00-16:30 小野 亮介 (慶應義塾大学大学院)

「匪賊、闖入者、エージェント候補としての新疆カザフ難民—中国、インド、アメリカの視点から—

16:30-17:00 澤井 充生（首都大学東京）

「『愛国愛教』を叫ぶムスリムたち—現代中国の宗教政策と清真寺の自律性」

17:00-17:20 休憩

セッションⅢ 【総合部会】

司会：長沼 秀幸

17:20-18:00 コメント

吉澤 誠一郎（東京大学）、鶴見 太郎（埼玉大学）

18:00-18:50 質疑応答、総合討論

18:50-19:00 総括コメント、閉会の辞：長沼 秀幸

2月例会

日時：2月27日（土） 14:00～17:30

場所：早稲田大学120-4号館405・406会議室

報告者：河野敦史（中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻 博士課程後期課程（日本学術振興会特別研究員DC2））

題目：「ワリー・ハーンの侵入事件（1857年）とヤルカンド」

コメンテーター：秋山徹（早稲田大学イスラーム地域研究機構 研究助手）

(2)研究グループの活動

①2015 年度第 1 回イスラームとジェンダー研究会

日時：2015 年 7 月 31 日（金） 18:00～19:30

場所：早稲田大学 120-4 号館 4 階 405 会議室

報告者：山崎和美（横浜市立大学准教授）

報告タイトル：「近代イランの女性知識人による教育推進活動」

概要：ガージャール朝末期からパフラヴィー初期にかけ、イランの女性知識人たちは近代的な女子教育を推進するため尽力した。西洋の近代的な諸制度や思想との遭遇、イラン立憲革命、レザー・シャーの即位などが彼女らの活動を後押しする一方、男女の空間分離・性的名誉などの伝統的な社会規範も根強く残存しており、シャリーア厳守を強調する保守的な人々からの反発を受けた。このような状況の中、女性知識人たちはいかにしてイラン社会に女子教育を普及させようとしたのか、当時の歴史史料をふんだんに用いつつ、説明がなされた。約 30 名の出席者からは、女子教育のカリキュラムの内容、史料の中での語りがどのように一般化できるのか、あるいはトルコとイランの女子教育の比較など、様々な観点から、活発な議論が展開された。

（貫井万里）

②東洋文庫特別講演会

日時：2015 年 9 月 10 日(木) 17:00～19:00

場所：東洋文庫 7 階会議室

講演者： ヴラディミール・ボブロフニコフ (Institute of Oriental Studies, Moscow)

講演題目：“Godless Imagination of Islam” in the Inter-War Soviet Posters, 1918-1940”

主催：公益財団東洋文庫

共催：イスラーム地域研究早稲田大学拠点／東京大学拠点／東洋文庫拠点

概要：

※詳細については東洋文庫拠点の報告を参照。

③第 7 回コプト・イスラーム物質文化公開研究会 『エジプト・イスラーム美術の諸相』

日時：2015 年 10 月 26 日(月) 15:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階第 1 会議室

共催：東京大学東洋文化研究所班研究「イスラーム美術の諸相」

概要：今回はエジプトのイスラーム美術をテーマに二つの研究発表が行われた。最初に大原美術館所蔵のイスラーム陶器片のコレクションの内容と意義に関する発表を受け、エジプトのイスラーム陶器の特徴および考古学的発掘資料との比較検討を行った。次に文献および絵画資料などに基づきアラビアン・ナイトの成立の問題と新たな見解が示され、多角的な検討を行った。

(真道洋子)

プログラム：

「大原美術館所蔵のフーケ・コレクション、イスラーム陶器片概要」

枡屋友子（東京大学東洋文化研究所・教授）

「エジプトのアラビアン・ナイトとその表象世界」

小林一枝（早稲田大学国際教養学部・講師）

④Farhad Atai 氏来日講演会

日時：2015 年 12 月 2 日(水) 18:00～20:00

場所：早稲田大学 11 号館 710 教室

講演者：ファルハド・アターイー（テヘラン大学・教授）

講演題目：“The Changing Political Dynamics in the Middle East; Iran and the Region”

概要：講演者のアターイー氏は、国際関係論、特にイランと周辺諸国（主に中央アジア諸国）との関係を専門とするイラン・テヘラン大学の教授である。本講演では、「変化する中東の政治力学：イランと周辺諸国」と題して、近現代イランの外交史と、イランと周辺諸国との外交関係の現状および展望について解説がなされた。核協議の合意で注目を集めているイランの話だけに、多くの学生が聴講し、講演

後の質疑応答では活発な議論が交わされた。

(西村淳一)

⑤Farhad Atai 氏来日セミナー

日時：2015 年 12 月 4 日(金) 18:00～20:00

場所：早稲田大学 120-4 号館 405・406 会議室

講演者：ファルハド・アターイー (テヘラン大学・教授)

講演題目：「大自然への逃避－イランの都市に住む若者たちによる野外散策」

概要：本セミナーは、国際関係論を専門としつつ、イランの若者文化にも造詣が深いファルハド・アターイー氏 (テヘラン大学) が、イランの都市在住の若者の屋外での活動を紹介したものである。同氏は、自ら撮影された多くの画像や動画を提示しながら、車での移動、川べりや山でのレクリエーション、屋外での食事など、若者の屋外活動を紹介した。質疑応答では、こうした活動における男女の性差や、若者の間の経済的格差などが活発に議論された。

(長谷部圭彦)

⑥2015 年度第 2 回イスラームとジェンダー研究会

日時：2014 年 12 月 7 日(月) 18:00～19:30

場所：早稲田大学 120-4 号館 4 階 405 会議室

報告者：阿部尚史 (東京大学大学院総合文化研究科特任助教)

報告タイトル：「カージャール朝期の婚姻契約」

概要：オスマン朝下の地域における家族・女性史研究に比して、カージャール朝下のイランについては、この分野に関して、いわゆるシャリーア (イスラーム法) 法廷文書をはじめとする文書史料を用いた研究は乏しい。そこで、主として 19 世紀を対象に、イランの婚姻契約の概要と実際の婚姻文書の特徴、また離婚・相続との関係について、実際の法廷文書の分析を基に報告がなされた。本報告は、1930 年代にイランで民法が成立する以前の時代を対象としており、前近代のイランの法制度や家族制度の一端を明らかにする貴重な報告であった。他方、1930 年代に法典化された近代的な民法と前近代の「伝統的」とされる法の連続性も指摘された。また、当時の貴族の女子が嫁入り道具 (嫁資) として、婚家に持っていった詳細な財産目録なども紹介され、法律と実際の運用状況や当時の人々の生活を理解する上で、シャリーア文書が非常に有用であることが判明した。それと同時に、現代におけるイランの婚姻や家族関連法と、その運用実態を研究するための豊富なヒントを与えてくれる報告となった。

(貫井万里)

⑦『全国マスジド（モスク）代表者会議』有識者懇談会—文化の翻訳を考える

日時：2016年1月29日（金） 13:30～17:00

場所：早稲田大学国際会議場（中央図書館棟）3階 市島記念会議室

概要：今年度は非公開の「有識者懇談会」と銘打って実施した。参加者は、各地のモスクで活動経験を有する、日本人改宗ムスリム6名と主催者側を含め、10名弱である。非ムスリム社会との関係を踏まえながら「文化の翻訳」をテーマとして、①次世代ムスリムの教育や人間形成、②ハラール認証、③地域・非ムスリム社会との関係構築や異文化間理解に関する課題と将来像について議論をおこなった。参加者は日本社会、ムスリム・コミュニティ双方の視点から上記テーマに対する取り組みや意見の交換、問題意識の共有を行った。会議録は2016年度に刊行予定である。

（岡井宏文・小野亮介）

⑧アーヤトッラー・エッテマーディー師来日セミナー

日時：2016年2月10日（水） 14:00～16:00

場所：京都大学総合研究2号館4階第1講義室（AA401）

講演者：アーヤトッラー・アミール・セイエド・ハサン・エッテマーディー師（カーシャーン・ダール・アル・エルメ・イスラーミー宗教学院長）

講演題目：「ゴム宗教学院法学上級課程における教授/学習方法：改善の動向と未来の展望」

概要：講演者のエッテマーディー師は、シーア派・イスラーム法学者の立場から、イランのイスラーム宗教学院における教育システムについて、また特にダルセ・ハーレジと呼ばれる上級課程における教育の特徴 — 例えば教科書等を用いた教師から生徒への一方的な教育ではなく、教師と生徒の議論による双方向的な教育が採用されていること等 — と最近の動向 — インターネットが積極的に利用されていること等 — について、詳細にかつわかりやすく解説した。50分程度の講義の後、1時間を越える質疑応答が行われ、イランの宗教教育の現状を知る非常に貴重な機会となった。

（西村淳一）

⑨第8回 コプト・イスラーム物質文化研究会

日時：2016年2月20日（土） 14:00～17:00

場所：国士舘大学世田谷キャンパスメープル・センチュリー・ホール5階第1会議室

共催：国士舘大学イラク古代文化研究所、東京大学東洋文化研究所班研究「イスラーム美術の諸相」

概要：コプト博物館の設立および国立化をめぐる動きの中で20世紀初頭のコプト・キリスト教徒の俗人エリートたちが自らの宗教文化をエジプトという国民国家との関係の問題について検討した。次に、アレクサンドリアの後背地域にあるヘレニズム村落（コーム・アル=ディバーウ遺跡）の歴史環境および考古学的調査の報告に基づき、デルタ地域のビザンツ時代までの経済活動や村落の消滅の問題を議論した。

（真道洋子）

プログラム：

「コプト博物館に見るコプト・キリスト教徒の宗教文化とナショナル・アイデンティティ」

三代川寛子（人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員）

「エジプト・地中海沿岸のヘレニズム村落調査—コプト・イスラーム研究との接点—」

長谷川奏（早稲田大学総合研究機構客員教授）

⑩イブン・ファドル・アッラー・ウマリー原典講読会（全11回）

日時：2015年4月18日（土）、5月30日（土）、6月20日（土）、7月26日（日）、9月26日（土）、10月31日（土）、11月28日（日）、12月20日（土）、2016年1月24日（日）、2月14日（日）、3月6日（日） 各回とも13：00～18：00

場所：京都女子大学J校舎3階J303教室、同J-311、龍谷大学大宮学舎南翼101教室

概要：本年度のイブン・ファドル・アッラー・ウマリー原典講読会は、昨年度に引き続き『高貴なる用語の解説』第2章の訳注作成を進めた。今年度読解した範囲には、マドラサ教師、さまざまな学者、各種医者、占星術師、ユダヤ教徒の長などに対する「指示部分」が収録されている。その読解を通して、これらの職について具体的な知見を得た。また、第5回IAS国際会議において、この書物の分析から明らかになるマムルーク朝の世界観について代表者の谷口が発表し、中世イスラーム国家研究に寄与した。

（谷口淳一）

⑪『アラブ・イスラーム哲学における唯物論的諸傾向』読書会（全3回）

日時：2015年7月11日（土）14:00～18:00、10月17日（土）14:00～18:00、12月19日（土）14:00～18：00

場所：早稲田大学120-4号館3階4-309-2会議室

概要：昨年度に引き続き、第一部「哲学的見方の発生以前」の部分の読解・討論を進め、第二章「イスラーム出現期」をめぐる叙述の最終節「d.思想の弁証法、知識と信仰の関係」の検討を行なった。イスラームにおける「知」と信仰の関係、啓示と合理的思弁との間の緊張関係が指摘される一方で、イジュティハードという手法や、クルアーンやハディースに見られる「理性賛美」的傾向をどう捉えるかという問題、また弁論が発達する一方で詩の停滞が見られたことの意味が検討された。ついで第三章「正統カリフ時代」の読解・検討に進み、「a. 社会的闘争の噴出」「b. リッダの諸戦争」の読解・討論を行なった。預言者ムハンマド没後に噴出した闘争の社会・経済的背景、「階級的」要因が検討される共に、闘争がどのような宗教的形態をとって展開したかが、「カリフ位」の性格の捉え方をめぐる問題、また「シェーラー」（合議）の意味をめぐる論争を中心に検討された。ついでリッダの性格の検討、これを基本的に反動的な社会内容を持つ「反革命戦争」と見る分析が展開された。総じてこれまでの叙述同様、初期イスラーム史をめぐる著者の詳細・具体的な知識と、マルクス主義的な素養との相互作用から生み出される仮説が刺激的であると共に、著者がシーア派のバックグラウンドを持つことが、「カリフ位」や「シェーラー」

ーラー」の性格をめぐる理解をどのように規定しているかも興味深く、今後さらに考察すべき論点と言える。なお、本年度の参加者は以下の通り：栗田禎子、長沢栄治、阿久津正幸、小林春夫、清水学、水島多喜男、鈴木規夫、早川英明。

(栗田禎子)

⑫イブン・ハルドゥーン自伝読書会（全10回、合宿2回）

日時：2015年4月4日(土)、5月2日(土)、6月6日(土)、7月4日(土)、7月31日(金)～8月2日(日)、
10月3日(土)、11月7日(土)、12月5日(土)、12月26日(土)～28日(月)、2016年1月11日
(月)、2月12日(金)、3月18日(金)

場所：早稲田大学120-4号館4-309-2会議室、早稲田大学伊豆川奈セミナーハウス

担当者：橋爪烈、原山隆広、吉村武典、高野太輔、佐藤健太郎、茂木明石、中村妙子、柳谷あゆみ

概要：昨年度に引き続き、毎月1回の定例読書会および年2回の合宿読書会を実施し、担当者が作成した訳稿の検討を進めた。今年度の検討箇所の中には、カイロでマドラサ教授職に就いた際の初回講義の原稿が引用されており、14世紀の教育の一端をうかがい知ることができる。また、マムルーク朝アミールたちの政争に関する記述は、『歴史序説』で展開されるアサビーヤ論を前提としており、彼の歴史哲学とその応用という観点からも興味深い。

一方、夏季及び冬期の合宿を中心に、既に大意を確認した訳稿の再検討もおこなった。ここには、『歴史序説』執筆直後に仕えたチュニスのハフス朝宮廷でのことや、エジプトに移住してカーディー職に就いたことなどが記されている。その成果の一部は、本年度末に『イスラーム地域研究ジャーナル』8号に掲載した。

(佐藤健太郎)

⑬「イブン・スィーナー『治癒の書』研究会」（全2回）

日時：2015年7月26日(日)14:00～18:00（第65回）、
2015年11月15日(日)14:00～18:00（第66回）

場所：早稲田大学120-4号館3階4-309-2会議室

概要：これまでの研究会を経て出来上がってきた訳文の精緻化を目的として形而上学第1巻第5章の検討を行った。この箇所はイブン・スィーナーの存在論における要所の一つで、西洋思想を含めた哲学史に絶大な影響を及ぼしているだけに、慎重かつ多面的な議論がなされた。この検討をもとに『地域研究ジャーナル』に発表する原稿の執筆分担が話し合われた。コアメンバーの他にギリシア哲学や科学史などを専門とする研究者が新たに参加した。

(小林春夫)

⑭回儒の著作研究会（全2回）

日時：2015年12月25日（金）～12月28日（月）、2016年2月18日（木）～2月21日（日）

場所：日本大学文理学部青木隆研究室

概要：劉智『天方性理』の読解・翻訳・注釈・解説の検討を行った。今回の研究会では、巻4の全体帰真図説と、それに深く関わる巻1・大用渾然図説、真理流行図説の訳文確定に時間をあてた。劉智哲学の根幹となる巻1の、形而上世界の説明と、ジャーミーの『ラワイフ』との対応が再度検討され、劉智による『ラワイフ』の漢語訳『真境昭微』が超訳などではなく、絶妙に翻訳されていること、そしてその知見が『天方性理』に反映されつつも、中国の伝統的哲学の文脈でも（とくに『中庸』がクローズアップされる）それは理解できると劉智が思考していたことが明らかになった。

（佐藤実）

3. 海外派遣・調査

(1)拠点全体としての活動（総括事業）

該当なし。

(2)研究グループ

①トルコ共和国調査

出張期間：2016年2月15日（月）～2月29日（月）

出張先：イスタンブール

出張者：長谷部圭彦（早稲田大学イスラーム地域研究機構次席研究員）

概要：早稲田拠点の研究課題「イスラームの知と文明」を、オスマン帝国を事例に検討すべく、帝国の首都であったイスタンブールに二週間滞在し、文書館や図書館において資料を収集した。首相府オスマン文書館では、「知と文明」を伝達する営みである「教育」に関する、未刊行の手書きの文書史料を収集した。スレイマニエ図書館では、19世紀に他の州に先駆けて教育改革がなされたドナウ州（現ブルガリア）の年鑑を複写した。イスラーム研究センターでは、重要な先行研究を複写した。また、書店・古書店ではトルコ語の研究書を購入した。

（長谷部圭彦）

4. 外国人研究者の招聘

(1)拠点全体としての活動（総括事業）

該当なし。

(2)研究グループ

該当なし。

5. 資料収集

該当なし。

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔論文〕計（18）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
桜井啓子 (拠点代表)	巻頭「人間文化研究機構（NIHU）プログラム・イスラーム地域研究第二期終了に寄せて」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	1-2
深見奈緒子 (研究協力者)	「ミフラーブ紀行」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	3-11
	インドの中世イスラーム建築史—2015年夏のデリー調査—	NIHU「地域間連携研究の推進事業」（IAS-INDAS 連携事業）『南味の都市と建築に見るイスラームの諸相』		2016	1—39
Naoko Fukami (研究協力者)	Bhadreshwar, from the medieval port city to modern town, Gujarat, India	Islam in Global Perspective		2016	印刷中
海野 典子	「中国ムスリムの「清真」意識と自他認識——20世紀初頭の河北地域におけるハラール問題と「回」「漢」関係」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	12-24
石田友梨 (京都大学拠点構成員)	「イスラーム研究におけるデジタル・ヒューマニティの活用に向けて——シャー・フリーウッラー『ハラマインの師達の瞳孔』に基づく17-18世紀ハラマインの学者ネットワーク分析」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	25-36
西村淳一 (研究分担者)	「日本における預言者ムハンマド画に関する覚書」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	37-53
桜井啓子 (拠点代表)・ フマユン・コビル (研究協力者)	「バングラディッシュの十二イマーム・シーア派——来歴と現状」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	54-63
中村 妙子 (研究協力者)・ 柳谷あゆみ (研究協力者)・ 橋爪烈 (研究協力者) (訳・注) 佐藤健太郎 (研究分担者)・ 五十嵐大介 (研究協力者) (註)	「イブン・ハルドゥーン自伝 8」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	64-91

佐藤 秀信・ 森田 豊子 (研究協力者)	「イラン家族保護法 (2013 年 4 月 9 日成立)」に関する覚書	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	92-95
森田 豊子 (研究協力者) (訳・註)、 佐藤 秀信・ 貫井 万里 (研究協力者)・ 細谷 幸子・ 山崎 和美 (註)	「イラン家族保護法 (2013 年 4 月 9 日成立)」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	96-106
訳・註 小林 春夫 (研究協力者)・ 加藤 瑞絵・ 倉澤 理・ 矢口 直英	「イブン・スィーナー著『治癒』形而上学訳註 (第一巻第五章)」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	107-117
松本 隆志	書評「バラズリー著、花田宇秋訳『諸国征服史』」イスラーム原典叢書シリーズ、全 3 巻、岩波書店、2012 年	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	118-120
秋山 徹 (研究協力者)	トピック『イスラーム圏で働く——暮らしとビジネスのヒント』(桜井啓子編、岩波書店、2015 年)の刊行に寄せて	『イスラーム地域研究ジャーナル』	8	2016	121-123
Kazue Hosoda (研究協力者)	“Globalization of Religious Norms and Practices: Halal Food Japanese Cuisine in Israel: Between Kosher and Organic”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>		2016	5-10
Kiyohiko Hasebe (研究分担者)	“Educational and Bureaucracy Reforms under Imperial Rules at the Dawn of the Modern Era: Case Studies of the Ottoman Empire, the Qin Dynasty and Iran Legislation for Compulsory Education in the Ottoman Empire”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>		2016	31-33
Tetsu Akiyama (研究協力者)	“The Dynamics of Multiculturalism Islam’s Influence on the Behavioral Patterns of Central Eurasian Nomads: The Case of the Kyrgyz Nomads”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>		2016	44
Satoshi Katsunuma (東京大学拠点研究協力者)	“What Do Prisoners Work For?: Prison Reform and Social Change in Colonial Egypt”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>		2016	44-47
Naoko Fukami (研究協力者)	“Bhadreshwar, from a medieval port city to a modern town, Gujarat, India”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>		2016	62-74

Sadashi Fukuda (研究協力者)	“State, Society and Multiculturalism Indian Merchants and British Protection in 19-20th Centuries’ Muscat –The Muscat Order in Council and British Consular Jurisdiction–”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>		2016	89-93
---------------------------	---	--	--	------	-------

〔図書〕計（４）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
岡井宏文 (研究協力者)・ 店田廣文 (研究分担者)・ 小島宏 (研究協力者)	「地域コミュニティとマスジドの将来像」第6回全国マスジド（モスク）代表者会議の記録 2014年2月9日	早稲田大学アジアムスリム研究所・多民族多世代社会研究所・イスラーム地域研究機構		2015	45
	「ヤングムスリムの将来設計—学ぶ・はたらく・生きる」第7回全国マスジド（モスク）代表者会議の記録 2015年1月31日	早稲田大学アジアムスリム研究所・多民族多世代社会研究所・イスラーム地域研究機構		2015	61
早稲田大学イスラーム地域研究機構	『イスラーム地域研究ジャーナル』	早稲田大学イスラーム地域研究機構	8	2016	168
Takayuki Yoshimura (研究協力者) , Satoshi Katsunuma (研究協力者) eds.	<i>Islam and Multiculturalism: Islam in Grobal Prespective</i>	早稲田大学イスラーム地域研究機構		2016	100

〔学会発表〕計（１２）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
Tetsu Akiyama (研究協力者)	“Why Did a Nomadic Hero Go To Hajj?: On the Islamic Dynamism of Russian Central Asia ”	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.2	New York University, Abu Dhabi Branch
小野亮介 (研究協力者)	「匪賊、闖入者、エージェント候補としての新疆カザフ難民—中国、インド、アメリカの視点から」	2015年度フィールドネット・ラウンジ企画 ロシア・中国におけるムスリム・マイノリティと国家、イスラーム地域研究若手研究者の会1月例会特別シンポジウム	2016.1.9	東京外国語大学

Ryosuke Ono (研究協力者)	“Abdürreşit İbrahim's Final Years in Tokyo (1938-1944): The Ungodly Japanese Intention to Make Him an Islamic Saint”	若手研究者討論会	2016.1.23	早稲田大学
Satoshi Katsunuma (研究協力者)	“What Do Prisoners Work For?: Prison Reform and Social Change in Colonial Egypt ”	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.2	New York University, Abu Dhabi Branch
Yukari Sai (研究協力者)	“Halal Food Regulation and Consumption in China”	National institutes for Humanities of Japan (NIHU) Program for Islamic Area Studies (IAS) Fifth International Conference, Tokyo 2015 “New Horizons in Islamic Area Studies: Asian Perspectives and Global Dynamics”	2015.9.11	東京・上智大学
	“Halal Food and Muslim-Friendly Services in Taiwan”	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.1	New York University, Abu Dhabi Branch
Jun'ichi Taniguchi (研究協力者)	“The Worldview of the Bahri Mamluks as shown in Diplomatic Correspondence”	The Fifth International Conference of the National Institutes for the Humanities of Japan (NIHU) Program for Islamic Area Studies (IAS)	2015.9.12.	Sophia University, Tokyo
Kiyohiko Hasebe (研究分担者)	"Legislation of Compulsory Education in the Ottoman Empire "	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.2	New York University, Abu Dhabi Branch
深見奈緒子 (研究協力者)	「カイロ・イスラーム芸術博物館の建築史的意義と現状報告」	第5回コプト・イスラーム物質文化公開研究会	2015.6.12	東京・早稲田大学
Naoko Fukami (研究協力者)	“Bhadrashwar, from the medieval port city to modern village, Gujarat, India”	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.3	New York University, Abu Dhabi Branch
Sadashi Fukuda (研究協力者)	"Indian Merchants and British Protection in 19-20th Centuries' Muscat "	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.3	New York University, Abu Dhabi Branch
Kazue Hosoda (研究協力者)	“Japanese Cuisine in Israel: Between Kosher and Organic ”	International Conference on Islam in Global Perspective	2015.11.1	New York University, Abu Dhabi Branch

〔講演、市民講座〕計（ 10 ）件

発表者名	講演 演 題	講演、市民講座等名	講演年月日	講演場所
秋山 徹 (研究協力者)	「メッカを目指す遊牧英雄: 中央アジア近代史から」	公開講座「イスラームを知る」	2015.5.28	東京・早稲田大学エクステンションセンター中野校
岡井宏文 (研究協力者)	「モスクから見る現代日本のイスラームコミュニティ」	公開講座「イスラームを知る」	2015.6.10	東京・早稲田大学エクステンションセンター中野校

砂井紫里 (研究協力者)	「食からみるイスラーム」	公開講座「イスラームを知る」	2015.4.23	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
桜井 啓子 (拠点代表)	「シーア派からみた現代中東世界」	公開講座「イスラームを知る」	2015.4.9	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
鈴木 恵美 (研究協力者)	「「アラブの春」の現在:エジプトを事例に」	公開講座「イスラームを知る」	2015.5.14	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
西村 淳一 (研究分担者)	「預言者ムハンマドとその時代」	公開講座「イスラームを知る」	2015.6.4	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
野田 仁 (研究協力者)	「シルクロードとイスラーム:その歴史と現代における役割」	公開講座「イスラームを知る」	2015.4.23	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
福田 安志 (研究協力者)	「現代のイスラームと経済」	公開講座「イスラームを知る」	2015.4.16	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
吉村 貴之 (研究協力者)	「ロシア・旧ソ連の「イスラーム復興」と「宗教紛争」」	公開講座「イスラームを知る」	2015.6.18	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校
吉村 武典 (研究分担者)	「イスラームの歴史的都市の現在:「町々の母」カイロの変遷」	公開講座「イスラームを知る」	2015.5.21	東京・早稲田大学 エクステンション センター中野校

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（13）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
板垣雄三・ 阿久津正幸 (研究協力者) (共著)	「イスラームにおけるスピリチュアリティと平和」	鎌田東二企画・編 『スピリチュアリティと平和』		2015.4	102-132
太田（塚田） 絵里奈 (研究協力者)	後期マムルーク朝有力官僚の実像（二）—ザイン・アッ＝ディーン・イブン・ムズヒルの公務と慈善—	『史学』	84(1-4)	2015	135-180
小野亮介 (研究協力者)	『『新トルキスタン』誌におけるゼキ・ヴェリディ・トガンの文化観とその背景』	『史学』	84	2015	181-209
Ryosuke Ono (研究協力者)	Zeki Velidi Togan'ın Türkiye'deki "1. Göçü"nün Sona Erişi: Alimerdan Bey Topçubaşı'na Yazdığı Mektuplar (1932-1933)	Россия и Восток: труды X всероссийского съезда востоковедов Уфа, 7-10 октября 2015г.	1	2015	416-418

後藤絵美 (研究協力者)	「近代」に生きた女性たち ——新しい知識や思想と家庭 生活のはざまで言葉を紡ぐ	水井万里子・杉浦 未樹・伏見岳志・ 松井洋子 編 『世 界史のなかの女性 たち』	1	2015	165-178
上山一・臼杵悠 (研究協力者)	「イスラム銀行利用者による 金融商品の利用動機と継続的 取引の決定要因——ヨルダンの 事例から——」	『アジア経済』	56 (4)	2016	2-27
上山 一 (研究協力者)	「エジプトのマクロ経済動向 と政策課題について」	中東協力センター ニュース	11 月号	2015	21-30
Sai Yukari and Johan Fischer (研究協力者)	'Muslim food consumption in China: Between qingzhen and halal'	Halal Matters: Islam, Politics and Markets in Global Perspective		2015	160-174
Kazuaki Sawai (研究協力者)	The Great Istanbul Earthquake of 1509 and Subsequent Recovery	Mediterranean World	XXII	2015	29-42
店田廣文 (研究分担者)	滞日ムスリム・コミュニティ と日本社会	歴史地理教育	840 号	2015	20-27
谷口淳一 (研究協力者)	中世イスラーム国家の官僚手 引き書——アッバース朝からマ ムルーク朝へ——	歴史と地理	684 号	2015	26-32
西村淳一 (研究分担者)	「12 世紀ホラーサーン地方の 一アーリムに関する研究の現 状と展望 — アブー・サード・ アブドゥルカリーム・アッサ ムアーニーについて — 」	『西南アジア研 究』	83	2015	34-54
深見奈緒子 (研究協力者)	イスラーム芸術博物館	パピルス	7-8 月号	2015	34-38

〔図書〕計（10）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
後藤絵美・鶴飼敦 子著、羽田正監修 (研究協力者)	『輪切りで見える！ パノラマ世 界史④ 大きく動き出す世界』	大月書店	1	2015	40
桜井啓子（編） (拠点代表)	『イスラーム圏で働く——暮らし とビジネスのヒント（岩波新 書）』岩波新書 1562	岩波書店		2015	240
Masooda Bano and SAKURAI Keiko (拠点代表) eds.	<i>Shaping Global Islamic Discourses: The Role of Al-Azhar, Al-Medina and Al-Mustafa</i>	Edinburgh University Press	1	2015	232
MIURA, Toru & SATO, Kentaro ed. (研究分担者)	<i>The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries</i>	Tokyo: Toyo Bunko	1	2015	295
澤井一彰 (研究協力者)	『オスマン朝の食糧危機と穀物供 給—16 世紀後半の東地中海世界 —』	山川出版社	1	2015	303

長谷部圭彦 (第7章担当) (研究分担者) 川村肇、荒井明夫 編	『就学告諭と近代教育の形成—勸 奨の論理と学校創設—』	東京大学出版 会	1	2016	576 (185-214)
長谷部圭彦 (研究分担者) 水井万里子他編	『女性から描く世界史—17～20 世 紀への新しいアプローチ—』	勉誠出版	1	2016	印刷中
深見奈緒子・ 山田協太・ 内山愉太 (研究協力者)	『地球環境とメガシティ第1巻』 第2章 メガ都市とその出現経緯	東京大学出版 会	1	2016	印刷中
	『地球環境とメガシティ第2巻 メガ都市と都市地域生態圏—複数 経路の進化』	東京大学出版 会	2	2016	印刷中
森田豊子 (第4章担当) (研究協力者) 初瀬龍平、松田哲、 戸田真紀子編著	『国際関係のなかの子どもたち』	晃洋書房		2015	280 (76-88)

〔学会発表〕計（18）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
阿久津正幸 (研究協力者) ・ フセイン・ ザナティー (共同報告)	エジプト・ミニア市における 初等教育実験：母国語（標準 アラビア語）環境と外国語（英 語）習得技術の観点から	日本中東学会第31 回大会	2015.5.17	京都・同志社大学 今出川キャンパス
岡井宏文 (研究協力者)	「日本のムスリム・コミュニ ティと地域社会」	「宗教と社会」学会 「現代社会におけ る移民と宗教」プロ ジェクトシンポジ ウム 地域社会における 「多文化共生」と宗 教	2015.11.7	静岡・静岡大学浜 松キャンパス
小野亮介 (研究協力者)	Z.V.トガンの第一次トルコ亡 命の終焉—A.M.トプチュバ ショフ宛書簡三通を手がかり に（1932-1933）—	2015 年度三田史学 会東洋史部会例会	2016.1.16	慶應義塾大学
	「人種主義・トゥラン主義裁 判事件」半年前のゼキ・ヴェ リディ・トガン：未刊行論文 「第二次世界大戦とトルコ 性」（1943 年）の検討	日本オリエント学 会第57回大会	2015.10.18	北海道大学
	Zeki Velidi Togan'ın Türkiye'deki "1. Göçü"nün Sona Erişi: Alimerdan Bey Topçubaşı'na Yazdığı Mektuplar (1932-1933)	X Всероссийский съезд востоковедов: Россия и Восток	2015.10.8	ロシア・バシコル トスタン自治共和 国立図書館

	“Turkestan Seen from an Émigré Turcologist: Zeki Velidi Togan, Yeni Türkistan, and His Letters (1927-1932)”	スラブ・ユーラシア研究センター2015年度夏期国際シンポジウム・若手研究者セッション「目的地としてのロシアとソ連:20世紀前半の移動するムスリム知識人」	2015.7.29	北海道大学
後藤絵美 (研究協力者)	「イスラームをめぐる世論の形成—20世紀初頭エジプトのヴェール論争を事例に」	日本中東学会	2015.5.17	京都・同志社大学
	“Europeanization or Globalization? A Question of Fashion in Nineteenth- and Twentieth-Century Asia.”	<i>Symposium “Linking Cloth-Clothing Globally: 18-20th Century Mapping”</i>	2015.8.7	東京・東京大学
佐藤健太郎 (研究分担者)	「17世紀チュニジアのモリスコ」	第39回地中海学会	2015.6.21	札幌・北海道大学
砂井紫里 (研究協力者)	「清真とハラールのゆらぎ: 清真の制度化とおよび中国福建省のムスリムと非ムスリムの食実践」	日本文化人類学会 第49回研究大会	2015.5.30	大阪国際交流センター
	“Being There: Mosque, Restaurants, and Cultural Landscapes in Non-Muslim Hui Community”	East Asian Anthropology Association Annual Meeting	2015.10.4	国立政治大学(台湾)
	「アジア四カ国のムスリム対応レストランをめぐる状況の比較—イスラーム地域研究の視点から—(福島康博氏との共同発表)」	第30回日本観光研究学会全国大会	2015.11.29	高崎経済大学
	「台湾における「ムスリムフレンドリー」環境整備」	日本マレーシア学会第24回研究大会	2015.12.13	立教大学
西村淳一 (研究分担者)	「中世イスラーム世界のウラマーの「よそ者」観—12世紀以前の人名録史料を手掛かりに—」	史学会 第113回大会	2015.11.15	東京・東京大学
深見奈緒子 (研究協力者)	「中世イスラーム建築からみた地中海世界—エジプトを中心に」	中世建築研究会	2015.6.13	東京・東京大学
	「ミフラーブにおけるランプ文様の変遷:西アジアからモルディブへ」	第57回オリエント学会大会	2015.10.18	北海道・北海道大学
	“18 Megacities from the Viewpoint of Its History and Region”	INTERNATIONAL POLICY FORUM ON URBAN GROWTH AND CONSERVATION	2015.10.2	Tehran • Iran University of Science and Technology

吉村武典 (研究分担者)	「14 世紀後半の 맘루크 朝同時代史料—イブン・ハビーブ著『トルコ人の王朝における連なる真珠』写本をめぐって」	第 57 回オリエント学会大会	2015.10.18	北海道・北海道大学
-----------------	--	-----------------	------------	-----------

〔講演、市民講座〕計（26）件

発表者名	講演 演 題	講演、市民講座等名	講演年月日	講演場所
阿久津正幸 (研究協力者)	バイトゥル・アハド・モスク落成記念に寄せて(招待講演)	Opening Ceremony: Bait-ul-Ahad The Japan Mosque 2015	2015.11.21	愛知県津島市・ザ・ジャパン・モスク
岡井宏文 (研究協力者)	「現代に生きるイスラム教—信徒人口が世界第1位となる日」	市民大学講座 オリニピックまでに理解する イスラム社会と文化の魅力	2015.4.23	平塚市中央公民館
	「もしイスラム国家に暮らしたら—なぜ豚肉を食べない？戒律に込められた意味」	市民大学講座 オリニピックまでに理解する イスラム社会と文化の魅力	2015.5.7	平塚市中央公民館
	「日本で体感するイスラム文化—知って納得、イスラム教徒へのマナーとおもてなし」	市民大学講座 オリニピックまでに理解する イスラム社会と文化の魅力	2015.5.14	平塚市中央公民館
	「日本最大のモスクを訪問！」	市民大学講座 オリニピックまでに理解する イスラム社会と文化の魅力	2015.5.21	平塚市中央公民館
	「近畿・中部地方のモスクと地域社会」	平成27年度近畿・中部地区宗教法人事務担当者研修会	2015.6.18	大阪府咲洲庁舎 38階会議室
	「日本の中の多様性—日本の中のイスラム社会から考える」	国際情報「経済」アジア共同体の構想にむけて —より広くアジアを知ろう—	2015.11.16	帝京平成大学
	「日本のマシジドと地域社会」	日本のマシジド	2015.12.26	東京ジャーミイ
	「日常生活に見るムスリムの喜怒哀楽と食事」(前野直樹氏と共同で担当)	南大塚地域文化創造館 平成 27 年度冬の文化カレッジ「世界の食文化～アジア イスラームの食文化～」	2016.3.3	東京・南大塚地域文化創造館
小野亮介 (研究協力者)	「神を畏れぬ者たちが創りし聖者：晩年のアブデゥルレシト・イブラヒム(1938-1944)」	日本トルコ文化交流会第55回セミナー	2016.3.17	東京・新東京ビル
後藤絵美 (研究協力者)	「信仰や信条による差別やハラスメントの防止と対策—イスラーム教への理解を出発点として」	九州大学箱崎文系地区ハラスメント防止セミナー	2015.11.4	福岡・九州大学

	「映画にうつる社会～エジプト映画『678』を中心に」	日本学術振興会カイロ研究連絡センター「現代中東研究会」	2016.2.4	エジプト・カイロ・
砂井紫里 (研究協力者)	「食卓からみるイスラーム社会」	金沢大学公開講座「イスラーム世界の歴史と文化 III～生活に根ざした宗教」	2015.10.25	金沢・金沢大学サテライト・プラザ
	「プレゼンテーション 大学での取り組み紹介」	JAPAN HALAL EXPO 2015 セミナー 大学関係者向け特別企画「ムスリム留学生の受け入れ拡大と環境整備」	2015.11.26	千葉・幕張メッセ
	「宗教と食」	平成 27 年度 文化庁委託事業 ちば多文化協働プロジェクト(公益財団法人千葉市国際交流協会) 多文化理解セミナー 2015 第 3 回	2015.12.11	千葉・ちば国際コンベンションビューロー
	「ムスリム学生の視点から」	東京工業大学「ぐるなび」食の未来創成寄付講座 第三回 食のハラール性に関する国際シンポジウム 「食のハラールの原点: 宗教実践としてのハラールとインバウンドビジネス」	2016.2.3	東京・東京工業大学
	「ムスリムの食卓と中華世界」	南大塚地域文化創造館 平成 27 年度冬の文化カレッジ「世界の食文化～アジア イスラームの食文化～」	2016.3.10	東京・南大塚地域文化創造館
	「陸と海がつなぐ美味しいごはん」	南大塚地域文化創造館 平成 27 年度冬の文化カレッジ「世界の食文化～アジア イスラームの食文化～」	2016.3.17	東京・南大塚地域文化創造館
佐藤健太郎 (研究分担者)	古文書から見る過去の都市空間 ～モロッコの古都フェスの横丁と郊外	北海道大学大学院文学研究科公開講座『空間に遊ぶ ～遠近、横丁そして世界』	2015.5.27	札幌・北海道大学
澤井一彰 (研究協力者)	「トルコの歴史と遊牧民の暮らし」	キリムの魅力・トルコと周辺の伝統織物	2015.11.14	姫路・書写の里美術工芸館
店田廣文 (研究分担者)	日本におけるムスリム・コミュニティの現状と課題	日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に	2015.10.17	東京・駒沢大学

		関する分科会主催 歴史教育シンポジウ ム「イスラームをどう 教えるか」		
長谷部圭彦 (研究分担者)	「イスラームの歴史と現在」	川口ロータリークラ ブ定例会	2015.4.23	川口・そごう川口 店
	「イスラームの歴史と現在」	川口異業種交流プラ ザ定例会	2015.7.23	川口・川口市立中 央ふれあい館
	「近世の西アジア世界」	神奈川県高等学校教 科研究会社会科部会 歴史分科会「近世アジ ア世界をどう教える か」	2015.8.4	鎌倉・鎌倉学園
	「トルコの教育事情－教科書 から見えてくるトルコの〈いま〉－」	第 22 回世界の教科書 展	2015.10.31	越谷・文教大学
吉村武典 (研究分担者)	「初めて学ぶイスラーム～ム ハンマドの生涯とイスラーム の教え」	公益財団法人早稲田 奉仕園 連続講座「今 だから知りたいイス ラームと世界の動き」 第 1 回	2015.7.13	早稲田奉仕園
	「地中海・イスラーム世界の 歴史と現代」	東小金井市 自主学 習グループ「クリスタ ル」平成 27 年度市民 が作る自首講座「世界 を知る」	2015.11.27	東小金井市公民館 本館
	「イスラムの歴史と文化」	所沢市民大学第 23 期	2016.1.20, 27	所沢市生涯学習セ ンター

〔メディアへのインタビュー、コメント掲載〕計（１）件

発表者名	インタビュー・コメント	掲載誌	年月日
砂井紫里 (研究協力者)	各種認証特集「ハラル（ハラール）認証最新動向 活況を呈すインバウンドと、苦戦するアウトバウ ンド」にてインタビュー記事掲載	隔月刊専門誌『I.B ヘルスケア』（デー タマックス）	2015.11

東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

代表：菊地達也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

中心テーマ 『イスラームの思想と政治：比較と連関』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
菊地 達也	東京大学大学院人文社会系研究科准教授	研究拠点代表 (研究の総括、近現代における政治・社会思想の形成と動態)
小松 久男	次世代人文学開発センター客員教員、 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)
長沢 栄治	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学東洋文化研究所教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
臼杵 陽	次世代人文学開発センター客員教員、 日本女子大学文学部教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
飯塚 正人	次世代人文学開発センター客員教員、東京外国語 大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想 の形成と動態)
新免 康	次世代人文学開発センター客員教員、 中央大学文学部教授	研究分担者 (近現代におけるウイグル人知識人 の思想と政治的活動に関する研究)
ティムール・ ダダバエフ	次世代人文学開発センター客員教員、 筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の 記憶)
河原 弥生	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、 次世代人文学開発センター研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想 の形成と動態)

研究グループ：「近現代中東・中央ユーラシアの思想と政治」

（研究グループメンバー）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
菊地 達也	東京大学大学院人文社会系研究科准教授	研究拠点代表 (研究の総括、近現代における政治・社会思想の形成と動態)
小松 久男	次世代人文学開発センター客員教員、 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の 記憶)

長沢 栄治	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学東洋文化研究所教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
飯塚 正人	次世代人文学開発センター客員教員、東京外国語 大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
新免 康	次世代人文学開発センター客員教員、 中央大学文学部教授	研究分担者 (近現代におけるウイグル人知識人 の思想と政治的活動に関する研究)
ステファン・ A・ドウドワ ニヨン	フランス国立科学研究センター	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
ティムール・ ダダバエフ	次世代人文学開発センター客員教員、 筑波大学大学院人文社会科学研究所准教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の 記憶)
臼杵 陽	次世代人文学開発センター客員教員、 日本女子大学文学部教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
河原 弥生	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、 次世代人文学開発センター研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
松本 弘	大東文化大学国際関係学部教授	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
池田美佐子	名古屋商科大学コミュニケーション学部教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
間 寧	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ長	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
青山 弘之	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
菅瀬 晶子	国立民族学博物館助教	研究分担者 (パレスチナ問題)
森 まり子	跡見学園女子大学文学部准教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
錦田 愛子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
濱本 真実	日本学術振興会特別研究員 (RPD)、ジョージ・ワ シントン大学欧露ユーラシア研究所客員研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
サリー・ ハナフィー	バイルート・アメリカン大学教授	研究分担者 (パレスチナ問題)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
バフティヤル・ババジャノフ	ウズベキスタン東洋学研究所主任研究員	近現代における政治・社会思想の形成と動態
アフタンディル・エルキノフ	ウズベキスタン国立大学教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
イルハン・シャーヒン	イスタンブル 5 月 29 日大学教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
グルジャナト・クルマンガリエフ	トルコ・ガズィー大学准教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
今堀 恵美	聖心女子大学非常勤講師	ソ連解体後のムスリム社会の変容に関する調査・研究
宇山 智彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶／中東・イスラーム諸国の民主化
岡 奈津子	アジア経済研究所研究員	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
小沼 孝博	東北学院大学文学部准教授	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
木村 暁	筑波大学人文社会科学研究科特任研究員	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
坂井 弘紀	和光大学表現学部教授	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
澤田 稔	富山大学人文学部教授	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
塩谷 哲史	筑波大学人文社会系助教	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
清水由里子	次世代人文学開発センター客員研究員	近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究
長縄 宣博	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター准教授	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究

野田 仁	早稲田大学高等研究所准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
吉田世津子	四国学院大学社会学部教授	ソ連解体後のイスラム社会の変容に関する調査・研究
吉村 貴之	早稲田大学イスラーム地域研究機構主任研究員 (早稲田大学拠点研究協力者)	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
今野 泰三	大阪市立大学院文学研究科都市文化研究センター・ドクター研究員	パレスチナ問題
高岩 伸任	一橋大学非常勤講師	パレスチナ問題
鶴見 太郎	埼玉大学教養学部准教授	パレスチナ問題
濱中 新吾	山形大学地域教育文化学部准教授 (上智大学拠点研究協力者)	パレスチナ問題
勝沼 聡	早稲田大学イスラーム地域研究機構／研究助手	近現代における政治・社会思想の形成と動態
斉藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	近現代における政治・社会思想の形成と動態
佐々木 紳	成蹊大学文学部助教	近現代における政治・社会思想の形成と動態
福田 義昭	大阪大学外国語学部講師	近現代における政治・社会思想の形成と動態
阿久津正幸	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター研究員 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
伊賀 司	京都大学東南アジア研究所機関研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
石黒 大岳	日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
井上あえか	就実大学人文科学部教授	中東・イスラーム諸国の民主化
大足 恭平	青山学院大学情報科学研究センター助手 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
北澤 義之	京都産業大学外国語学部教授 (上智大学拠点構成員)	中東・イスラーム諸国の民主化
吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化

小林 周	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科研究員 (上智大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
坂梨 祥	財団法人日本エネルギー経済研究所中近東研究 センター主任研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
鈴木 恵美	早稲田大学イスラーム地域研究所研究員／早稲 田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
須田 将	上智大学外国語学部非常勤講師	中東・イスラーム諸国の民主化
立花 優	北海学園大学法学部非常勤講師	中東・イスラーム諸国の民主化
地田 徹朗	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助 教	中東・イスラーム諸国の民主化
辻上奈美江	東京大学大学院総合文化研究科特任准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
中川 恵	羽衣国際大学現代社会学部教授	中東・イスラーム諸国の民主化
福富 満久	一橋大学大学院社会学研究科准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
堀抜 功二	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研 究センター研究員 (京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
前田 弘毅	首都大学東京都市教養学部准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
村上 拓哉	公益財団法人中東調査会研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
見市 建	岩手県立大学総合政策学部准教授 (上智大学拠点構成員)	中東・イスラーム諸国の民主化
湯浅 剛	広島市立大学広島平和研究所教授	中東・イスラーム諸国の民主化
吉岡 明子	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研 究センター主任研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
若桑 遼	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究 科地域研究専攻博士後期課程 (上智大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
渡邊さやか	明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程	中東・イスラーム諸国の民主化

【2015 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

研究事業の拠点は、事業の始動以来、東京大学文学部アネックス内において 3 室のスペースを確保していたが、2014 年度より赤門総合研究棟に移転し、多様な研究資料をそこに集積しつつ、内外の研究者に利用の便を図っている。研究の進捗状況や研究集会などに関する情報は、専用のウェブ上 (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokyo-ias/>) で常に提供されている。

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

なし

(2) 研究グループの活動

① パレスチナ班第 1 回研究会／『オスロ合意から 20 年』論集合評会

日時：2015 年 5 月 24 日(日) 14:00～17:20

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：昨年度刊行した今野泰三・鶴見太郎・武田祥英編『オスロ合意から 20 年—パレスチナ／イスラエルの変容と課題』(NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、2015 年) の合評を行い、より本格的な論集に発展させていくための課題について討論した。

(鶴見太郎)

プログラム

評者 1：立山良司 (防衛大学校名誉教授、日本エネルギー経済研究所客員研究員)

評者 2：臼杵陽 (日本女子大学教授)

② 中東・イスラーム諸国の民主化研究班第 1 回研究会

日時：2015 年 6 月 20 日(土) 14:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：吉岡報告では、「イスラーム国」侵攻後のクルディスタンの状況を詳説するとともに、2015 年 3 月にスレイマニヤでイラク・スレイマニヤ・アメリカン大学が主催した Suleimani Forum 2015 への参加について、2014 年以降悪化している治安及び経済状況を報告した。また、クルディスタン地域の「独立」として考えられるオプション及びその課題を指摘した。松本報告では、イエメン北部を拠点とするホーシー派の展開を示して、関連する諸勢力の意図、イエメン政治の態様及び今後の見通しを分析した。ホーシー派が 2014 年 2 月以降、首都や諸州に進出しているのは、連邦制導入に向けた自治権・勢力圏の拡大・確保を企図したものと論じた。イランの関与やサウジアラビア主導の空爆を含め、すべてのアクタ

ーには具体的な目的や計画がないように見えるとして、情勢が好転する要素は見受けられないと指摘した。

(新谷美央)

プログラム

報告1: 吉岡明子 (日本エネルギー経済研究所中東研究センター) 「イラク・クルディスタン出張報告: 「イスラーム国」の進撃とクルドの将来」

報告2: 松本弘 (大東文化大学) 「イエメン・ホーシー派の展開」

③パレスチナ班第2回研究会

日時: 2015年6月27日(土) 13:00~18:00

場所: 東京大学東洋文化研究所 3階大会議室

概要: エフラート・ベン=ゼエヴ報告は、英国委任統治政府がパレスチナの土地をどのような意図で地図に示したのかを、地図に記載されている項目などから考察した。こうした地図を用いることで、シオニズムによるユダヤ人国家の建設が「奇跡的な偶然」によるものではなく用意周到に進められていたことを1930年代に地図作成に関わったユダヤ人からの聞き取りから明らかにした。アラブの指導者たちが地図を利用するのは1940年代に入ってからで、ユダヤ人勢力に遅れをとったことがその後の歴史を決定づけたのだと論じた。鈴木報告は、イスラエルの経済政策と比較するものとしての南アフリカのバントゥースタン政策に関して、パス法、労働力、白人主義という項目ごとにその内容を歴史的に概観した。

(細田和江)

プログラム

報告1: エフラート・ベン=ゼエヴ (Efrat Ben-Ze'ev) (関西学院大学客員講師) "Why do maps matter? The British Mandate Cartography of Palestine"

報告2: 鈴木隆洋 (同志社大学グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程) "The Bantustan system: Pass Laws, Labour Reservoir, Whiteness"

④中東・イスラーム諸国の民主化研究班第2回研究会

日時: 2015年7月5日(日) 14:00~18:00

場所: 東京大学東洋文化研究所 3階大会議室

概要: 辻上報告では、サルマン新国王への政権交代と現在のサウジアラビアの地域情勢が論じられた。2003~05年以降、部分的には民主化が促進されたものの、2001年の9・11テロ以降、民主化は停滞している。2011年「アラブの春」波及以降は、「安全保障」や「対テロ」を名目に言論統制が進み、さらに、2015年1月サルマン国王就任以降は、一部王族への権力集中が見られるようになっており、王族内の非民主化も懸念されていることが解説された。小林報告では、2011年に起こった反体制・民主化運動後の

リビアの情勢について、混乱の原因を内部と外部の両面から整理した。政治プロセスの停滞、民兵組織の暴力化による治安悪化等の内部要因と、国連主導の平和構築・紛争調停の停滞、国境地域における管理の脆弱化等の外部要因が複雑に絡まり合っており、リビアの安定化を阻害していることが指摘された。

(渡邊さやか)

プログラム

報告1：辻上奈美江（東京大学）「サルマン新国王と地域情勢」

報告2：小林周（慶應義塾大学）「政変後リビアの情勢不安定化：内部要因と外部要因の整理から」

⑤パレスチナ班第3回研究会／ガザ攻撃1周年・映画とシンポジウムの集い【ガザは今どうなっているのか】

日時：2015年7月20日(月) 13:00～18:00

場所：東京大学経済学部 研究科棟 第1教室

概要：2014年夏のイスラエルによるガザ地区攻撃をめぐって、映像資料とその解説を通じて、パレスチナ問題の現在を考える議論が行われた。映像資料に関して土井監督から説明があり、現地NGOの二団体の活動報告が手島氏と金子氏によって行われ、研究者の立場から臼杵陽氏がシリア・イラク情勢との関係、錦田氏がイスラエルの国内情勢などについて解説した。多数の参加者があり、活発な質疑・議論が行われた。

(長沢栄治)

プログラム

13:00 【映画上映】最新作「ガザ攻撃 2014年夏」（監督・土井敏邦／124分）

15:30 【シンポジウム】

＜一部＞ ガザの現状報告

報告1：手島正之（パレスチナ子どものキャンペーン）「ガザの現状」

報告2：金子由佳（日本国際ボランティアセンター）「ガザ・パレスチナ、NGOとしてできること」

報告3：ラジ・スラーニ（パレスチナ人権センター代表）（映像出演）

＜二部＞ 解説（中東情勢とパレスチナ・イスラエル）

解説1：臼杵陽（日本女子大学）「シリア、イラク情勢のパレスチナ・イスラエルへの影響」

解説2：錦田愛子（東京外国語大学）「ガザ攻撃後のパレスチナとイスラエルの動向」

＜三部＞ 討論「ガザに私たちは何ができるのか」

司会：土井敏邦

＜四部＞ 質疑応答

⑥第39回中央ユーラシア研究会／東洋文庫特別講演会

日時：2015年9月10日(木) 17:00～19:00

場所：(財) 東洋文庫 7 階会議室

講演者：Vladimir Bobrovnikov (Institute of Oriental Studies, Moscow)

演題："Godless Imagination of Islam" in the Inter-War Soviet Posters, 1918-1940 [英語・通訳なし]

概要：コーカサス研究を専門とするヴラディミール・ボブロフニコフ氏による報告は、戦間期のソ連のポスターを画像で辿りつつ、当該時期におけるイスラームについて考察するものだった。報告は、動画や写真を交えてわかりやすく構成され、非常に興味深いものだった。報告後は活発な討議が行われた。

(河原弥生)

⑦パレスチナ班第 4 回研究会

日時：2015 年 9 月 17 (木) 15:00～17:00

場所：東京大学東洋文化研究所 第一会議室

講演者：Ali Qleibo (Professor, Al-Quds University, Palestine)

演題：The Tree of Abraham: The Sacred in Palestinian Culture

概要：本報告は、カナーン人の豊穡神バアル信仰や女神アシーラトへの信仰が、形を変えつつ現在のパレスチナにおける聖者信仰などに息づいていることを指摘するものであった。特に、パレスチナのベツレヘム周辺で家屋に掲げられる聖ゲオルギオスとバアルの連続性について述べ、竜退治の伝説に豊穡神としての干ばつや水害と闘う姿が認められると指摘した。また氏は、パレスチナ暫定自治政府はこうした歴史的な多様性を裏付けるようなものに関心を払わず、また歴史の語りがナクバやイスラーム黎明期以前にさかのぼらない点に批判的に言及した。

(鈴木啓之)

⑧中東・イスラーム諸国の民主化研究班第 3 回研究会

日時：2015 年 9 月 22 日(火) 14:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：ムーサー報告は、エジプトにおける「アラブの春」政変の前後からムルシー政権崩壊までの時期において、政治的中心・宗教権威・イスラミストの三者間の不確かな関係とその推移について論じた。とりわけ、宗教権威としてのアズハルのウラマーが、ムバラク大統領退任後の政治的中心の弱体化を受けて、総体として従来からの政治的中心との双方向のクライエンテリズム関係を維持あるいは回復する方向で動き、憲法制定時を含めムルシー政権下でイスラミストと命運を一にする選択を避けた経緯と背景について説明を提示した。ファルハ報告は、「アラブの春」政変後、民主化の進展の代わりに宗派集団間の対立が顕在化していることについて、アラブ・イスラーム社会の内部要因と外部要因について議論を提示した。宗派対立については、宗派集団の残存をかけた防衛的な行動と位置づけ、中東の様々な宗派集団の内部要因を真っ向から否認したり、実際に見て取れる外部からの扇動のみに帰すことなく、内部と外部の要因をそれぞれ認め、それらに向き合うことなしに宗派対立や宗派集団間紛争の根絶は困難

であると論じた。

(松永泰行)

プログラム

報告 1: ムハンマド・ムーサー Mohammed Moussa (東京外国語大学・日本学術振興会外国人特別研究員)
"The Political Centre and Religion in Contemporary Egypt"

報告 2: マーク・ファルハ Mark Farha (Georgetown University) "Internal and External Sources of Sectarianism in the Arab World"

⑨内陸アジア史学会 2014 年度大会

日時: 2015 年 10 月 31 日(土) 13:00~17:00

場所: 京都外国語大学 1 号館 7 階 小ホール

主催: 内陸アジア史学会

共催: NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

概要: 今年の大会から研究報告は公募制となり、新進気鋭の四人の若手研究者による報告がおこなわれた。比較的新しい時代の研究であったが、いずれも丹念な一次史料の分析に基づく緻密な考察であった。後半の松田孝一氏による講演は、長年の研究に裏打ちされた内容豊かなものであり、大いに啓発されるものであった。全体として、中央ユーラシアという広大な歴史空間の中での地域間比較の必要性和有効性を喚起するまたとない機会となった。

(河原弥生)

プログラム

<研究発表>

伴真一郎 (大谷大学・嘱託研究員) 「甲種本『華夷訳語』にみる明朝の内陸アジア統治理念——洪武朝のモンゴル政策と関連して——」

塩野崎信也 (京都大学・教務補佐) 「ロシア帝国の「イラン・ナショナリスト」アーフンドザーデの帰属意識」

ボルジギン・ブレン (布日額) (京都大学・博士課程) 「『モンゴリン・ソニン・ビチク』新聞の発行の経緯と実態——史料「モンゴル語の新聞発行する件 1906-1916」(ロシア歴史文書館)を手掛かりに——」

上村明 (東京外国語大学・非常勤講師) 「彼らはなぜアルタイを越えたのか?——1930 年アルタイ・オリアンハイ人の「集団逃亡」について——」

<公開講演>

松田孝一 (大阪国際大学・名誉教授) 「モンゴル帝国史の研究と調査 40 年」

⑩パレスチナ班第 5 回研究会

日時：2014 年 11 月 18 日(水) 17:00～19:00

場所：東京大学東洋文化研究所 第一会議室

概要：本報告は、第一次インティファダ（1987 年）、第二次インティファダ（2000 年）との比較のもとで、2015 年現在のヨルダン川西岸地区およびガザ地区で見られる蜂起の状況に分析を加える興味深いものであった。第一次インティファダの特徴としては、偶発的に始まった点、多くの人々が参加した点、非暴力の蜂起であった点、指導部が形成された点が、第二次インティファダに関しては、偶発的ではなかった点（トップダウン型の組織活動があった点）、暴力が使用された点が指摘された。そして、現状の西岸・ガザの蜂起状態について概観し、指導部と抵抗のインフラの双方が存在しないため、この蜂起は長期化しないと分析した。そのうえで、将来の見通しは厳しく、数年以内にガザ地区に対する新たな戦争の可能性も否定できないと指摘した。

（鈴木啓之）

プログラム

趣旨説明：趣旨説明：鈴木啓之（日本学術振興会・特別研究員 PD）

報告：ヨースト・ヒルターマン（Joost Hiltermann）（ベルギー国際危機グループ（ICG）中東北アフリカ研究部長）"Israel and Palestine: Heading to a Third Intifada?"

⑩パレスチナ班第 6 回研究会

日時：2015 年 11 月 29 日(日) 13:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 第一会議室

概要：小阪報告は在米ユダヤ人を代表する組織の一つアメリカ・ユダヤ人委員会（AJC）をとりあげ、主に建国前後における委員会とアメリカ政府やイスラエルとの関係について論じた。AJC はアメリカの主流社会への同化路線をとる非シオニスト団体であり、彼らは当初より出身国と現住国（アメリカ）への二重忠誠批判を懸念し、イスラエルへの「帰還」呼びかけに反発を示してきた。彼らの活動はイスラエル・ロビーの活動の萌芽と位置づけられる。本報告はこれらの事象をトランスナショナル・ヒストリーの視点から提示したのが特徴である。鈴木報告は、1985 年に PLO とヨルダンのフサイン国王との間で締結された、ヨルダンとパレスチナの同盟関係をめぐるアンマーン合意の意義について、パレスチナの内政とその後の和平交渉との関係において、文書集や自伝の記述をたどることにより詳細に考察したものであった。質疑では、同盟関係をイスラエルの唱えるヨルダン・オプションとの関係で捉えるべき、という指摘や、1982 年のベイルート撤退以後の PLO 内での人の動きなどについて議論が交わされた。

（錦田愛子）

プログラム

報告 1：小阪裕城（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程）「イスラエル建国直後のアメリカ・ユダヤ人委員会(AJC)の対外活動 1948-1951」

報告 2：鈴木啓之（日本学術振興会・特別研究員 PD）「PLO とヨルダンの同盟：被占領地との関係の新

展開、1982～1987 年」

⑫国際学術会議 "Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations"

日時：2015 年 12 月 18-19 日

場所：東洋文庫 2 階講演室（12 月 18 日）、東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室（12 月 19 日）

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、日本学術振興会科学研究費・基盤研究(B)・

研究課題「19～20 世紀中央ユーラシアにおける越境と新疆ムスリム社会の文化変容に関する研究」、東北学院大学アジア流域文化研究所「新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究」プロジェクト（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）、中央大学政策文化総合研究所プロジェクト「日本とユーラシア社会：海洋と大陸の歴史・文化」

概要：本国際学術会議は、中国の枠内にある一方で、多数のテュルク系ムスリムを居住者として含む新疆という独特な地域に焦点を当て、隣接するムスリム地域との間の移動と交流を視野に置きつつ、多角的な視点から、前近代より現代に至るまでの当該地域の社会・文化の歴史的な変容について検討することを目的として開催された。米国、オーストラリア、台湾、カザフスタンなど世界各地より専門研究者が参加し、日本人研究者を含む 12 の発表がなされた後、活発な議論が行われた。

（新免康）

プログラム

12 月 18 日

Opening Remarks (12:45–13:00)

Session 1 (13:00–15:00)

Chair: David Brophy (The University of Sydney)

Rian Thum (Loyola University) “Moghul Relations with the Mughals: Economic, Political, and Cultural”

Onuma Takahiro (Tohoku Gakuin University) “Political Power and Caravan Merchants at the Oasis Towns in Central Asia: A Case of Altishahr in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”

Matthew W. Mosca (University of Washington) “Cišii’s Writings and Their Context: An Unofficial Source among Networks of Officials”

Session 2 (15:15–17:15)

Chair: Naganawa Norihiro (Hokkaido University)

Rune Steenberg (Columbia University) “Qing Policies and Close Marriage: Transforming Kinship in Kashgar”

Noda Jin (Waseda University) “The Crossing of Imperial Borders and “International” Conflict Resolution between Russian Turkestan and Qing-ruled Xinjiang”

Unno-Yamazaki Noriko (University of Tokyo / Harvard-Yenching Institute) “Cooperation and Opposition: The Relationship between Turkic Muslims and Chinese-speaking Muslims in the Early Twentieth Century”

12 月 19 日

Session 3 (9:30–11:30)

Chair: Sugawara Jun (Tokyo University of Foreign Studies)

Eric T. Schluessel (Harvard University) “Confucian Schools and the Interpreter Class in Late-Qing Xinjiang”

David Brophy (The University of Sydney) “Representations of Class, Subjecthood, and Ethnicity in a Continental Treaty Port: Gabdulgaziz Munasib’s Taranchi Girl (1918)”

Joshua L. Freeman (Harvard University) “The Curious Career of Mister Mansur: A Uyghur Bolshevik in Xinjiang, 1935–1946”

Session 4 (12:45–14:45)

Chair: Shinmen Yasushi (Chuo University)

Zhe Wu (Academia Sinica) “Beijing’s Policy Drift toward Ethnic Issues in Xinjiang, Early 1950s to Early 1960s”

Niccolò Pianciola (Lingnan University) “Migrations from China to Soviet Central Asia, 1949–1976”

Kolodziejczyk-Tanaka Aleksandra Maria (Waseda University) & Tanaka Amane (Aichi University) “The Structure and Content of China’s Counterterrorism Policy: The Case of Uyghur Islamist Terrorism”

General Discussion (15:00–16:45)

Chair: Uyama Tomohiko (Hokkaido University)

Discussants: Ablet Kamalov (“Turan” University)

Closing Remarks (16:45–17:00)

⑬第 40 回中央ユーラシア研究会／東洋文庫特別講演会

日時：2016 年 1 月 23 日(土) 16:00～18:00

場所：(財) 東洋文庫 2 階講演室

講演者：Tokhir Kalandarov (ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所／北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)

演題：Памирские исмаилиты: между прошлым и будущим [ロシア語、通訳：宇山智彦]

概要：タジキスタンの山岳バダフシャン自治州出身で、モスクワで活躍する民族学者による本報告は、パミールの諸民族のイスラーム教イスマーイル派としての信仰の実態について、主にソ連崩壊後の宗教復興・改革、未来観という観点から紹介するものであった。日本では知られるところの少ない報告内容に、出席者からはパミールの人々の独自の習慣などについて多くの質問が寄せられ、活発な議論がなされた。

(河原弥生)

⑭パレスチナ班第 7 回研究会

日時：2016 年 2 月 23 日(火) 13:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：今野報告は、いわゆる「入植地問題」を、「狭義の入植地問題」と「広義の入植地問題」に類型化し、先行研究にこの観点から分析を加える興味深いものであった。平岡報告は、マルティン・ブーバー、ゲルション・ヴァイレル、アヴィエゼル・ラヴィツキーという、それぞれ出自と世代の異なる3人の現代ユダヤ人思想家の「神権政治」に関する議論を考察するものであった。会場からは、直近のイスラエル・パレスチナの思想的状況について、各々の「ユダヤ人思想家」が置かれた政治状況や、そこで想定されていた「国家」の内実の歴史的変化といった側面に関して、多くの疑問や意見が出され、活発な討論が交わされた。

(鈴木隆洋・役重善洋)

プログラム

報告1：平岡光太郎（同志社大学・研究開発推進機構・研究企画課／一神教学際研究センター・特別研究員）「現代ユダヤ思想における統治理解について－神権政治を中心に－」

報告2：今野泰三（大阪市立大学院都市文化研究センター研究員）「入植地問題とパレスチナ／イスラエルの和平」

⑩日本中央アジア学会年次大会公開パネル・セッション「現代中央アジアへの域外からの関与：影響と課題」

日時：2016年3月27日(日) 14:00～17:30

場所：KKR 江ノ島ニュー向洋・大会議室「相模」

主催：日本中央アジア学会

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

概要：現代中央アジアに対する周辺諸国からの関与について、中国および南アジアそれぞれからの影響、また水資源管理への援助に着目した分析が行われた。（予定）

(新免康)

プログラム

モデレーター、趣旨説明、司会：湯浅剛（広島市立大学）

三船恵美（駒澤大学）「中国からのアプローチ：中国の『一帯一路』構想における中央アジア」

井上あえか（就実大学）「パキスタン政治の変化と域内国際関係」

齋藤竜太（筑波大学大学院／ウズベキスタン科学アカデミー歴史学研究所）「ウズベキスタンの水資源管理への援助活動」

討論者：清水学（ユーラシア・コンサルタント）、稲垣文昭（慶應義塾大学）

3. 研究打ち合わせ会

①パレスチナ班研究打ち合わせ会

日時：2015年12月3日(木) 17:30～19:00

場所：日本女子大学目白キャンパス百年館 7 階史学科会議室

出席者：鶴見太郎、今野泰三、臼杵陽、錦田愛子、田浪亜央江、武田祥英、鈴木啓之

概要：『オスロ合意から 20 年：パレスチナ／イスラエルの変容と課題』論集を発展させた形での論集刊行に向け、提案者の鶴見、今野より、「宗教」というキーワードを軸に議論を展開したいとの提案がなされた。検討の結果、より執筆者を増加し、多様な論点を提示するために、「統治」という新たなキーワードが提示された。刊行予定日は 2016 年度中を検討している。

(鶴見太郎)

4. 外国人研究者の招聘

(1) 研究グループの活動

① Eric T. SCHLUESSEL

所属：Harvard University (アメリカ)

期間：2015 年 12 月 15 日～2015 年 2 月 21 日

活動概要：12 月 18-19 日に開催された国際学術会議 "Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations" において、“Confucian Schools and the Interpreter Class in Late-Qing Xinjiang”の題目で報告をおこなった。

(新免康)

① Zhe Wu

所属：Academia Sinica (台湾)

期間：2015 年 12 月 16 日～2015 年 12 月 21 日

活動概要：12 月 18-19 日に開催された国際学術会議 "Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations" において、“Beijing’s Policy Drift toward Ethnic Issues in Xinjiang, Early 1950s to Early 1960s”の題目で報告をおこなった。

(新免康)

5. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔図書〕計（3）件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
Marsil N. FARKHSHATO V, ISOGAI Masumi and Ramil M. BULGAKOV (eds.)	<i>"My Biography" of Riḍā' al-Dīn b. Fakhr al-Dīn (Ufa, 1323 A.H.) with an Introductory Essay and Indexes</i> (Central Eurasian Research Series No. 11)	TIAS: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology		2016	122
David Brophy and Onuma Takahiro (研究協力者) (eds.)	<i>The Origins of Qing Xinjiang: A Set of Historical Sources on Turfan</i> (Central Eurasian Research Series No. 12)	TIAS: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology		2016	288
SHIMIZU Yuriko (研究協力者)	<i>The Autograph Manuscript of Muḥammad Amīn Bughra's Sharqī Turkistān Tārīkhi, I</i>	TIAS: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo		2016	510

〔学会発表〕計（9）件

発表者名	発表標題	学会等名	発表年月日	発表場所
臼杵陽 (研究分担者)	「シリア、イラク情勢のパレスチナ・イスラエルへの影響」	パレスチナ班第3回研究会	2015.7.20	東京大学経済学部
松本 弘 (研究分担者)	「イエメン・ホーシー派の展開」	中東・イスラーム諸国の民主化研究班第1回研究会	2015.6.20.	東京大学東洋文化研究所
錦田 愛子 (研究分担者)	「ガザ攻撃後のパレスチナとイスラエルの動向」	パレスチナ班第3回研究会	2015.7.20	東京大学経済学部
Onuma Takahiro (研究協力者)	"Political Power and Caravan Merchants at the Oasis Towns in Central Asia: A Case of Altishahr in the Seventeenth and Eighteenth Centuries"	国際学術会議 "Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations"	2015.12.18.	東洋文庫
Noda Jin (研究協力者)	"The Crossing of Imperial Borders and "International" Conflict Resolution between Russian Turkestan and Qing-ruled Xinjiang"	国際学術会議 "Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations"	2015.12.18.	東洋文庫
今野 泰三 (研究協力者)	「入植地問題とパレスチナ／イスラエルの和平」	パレスチナ班第7回研究会	2016.2.23.	東京大学東洋文化研究所
小林 周 (研究協力者)	「政変後リビアの情勢不安定化：内部要因と外部要因の整理から」	中東・イスラーム諸国の民主化研究班第2回研究会	2015.7.5.	東京大学東洋文化研究所
辻上 奈美江 (研究協力者)	「サルマン新国王と地域情勢」	中東・イスラーム諸国の民主化研究班第2回研究会	2015.7.5.	東京大学東洋文化研究所

吉岡 明子 (研究協力者)	「イラク・クルディスタン出張報告:「イスラーム国」の進撃とクルドの将来」	中東・イスラーム諸国の民主化研究班第1回研究会	2015.6.20.	東京大学東洋文化研究所
------------------	--------------------------------------	-------------------------	------------	-------------

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計 (68) 件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
菊地 達也 (研究代表者)	「現代ドゥルーズ派の自己表象」	塩尻和子(編著)『変わるイスラーム社会:宗教と紛争の実像』明石書店		2016 予定	132-157
小松 久男 (研究分担者)	「歴史のなかの中央アジア:ゼンギーアタからの眺望」	『国際問題』	647	2015	6-15
	「トイとイスラーム:歴史と現在」	『ロシア・ユーラシアの経済と社会』	999	2015	2-17
Eiji Nagasawa	“mustaqbal anzama mā ba’d al-isti‘mār fī al-waṭan al-‘arabī (The Future of Post-Colonial Regimes in the Arab World)” in Arabic	<i>Iqāfāt</i> (Bulletin of the Arab Association of Sociology)	31-32	2015	134-40
	“ta’ammulāt ḥawla al-takhṭīṭ li-sīnārīyūhāt muḥtamala fī al-sharq al-awsaṭ (Some Reflections on Scenario Planning for the Middle East)” in Arabic	<i>Mediterranean World</i>	XXII	2015	169-82
長沢 栄治 (研究分担者)	「革命から四年後のエジプト」	『小日本』	23	2015	16-18
KAWAHARA Yayoi (研究分担者)	“The development of the Naqshbandiyya-Mujaddidiyya in the Ferghana Valley during the nineteenth and twentieth century”	Thierry Zarcone, Arthur Buehler, Ekrem Isin eds., <i>Journal of the History of Sufism</i> , Jean Maisonneuve Successeur: Paris	6	2015	139-186
新免 康 (研究分担者)	「ウルムチの歴史的変容と「洋行街」」	妹尾達彦編『都市と環境の歴史学』汲古書院		2016 予定	未定
	「清代「回部王公」の現代」	梅村坦編『中央ユーラシアへの現代的視座』中央大学出版部		2016 予定	未定
松本 弘 (研究分担者)	「イエメン・ホーシー派の展開」	酒井啓子編『途上国における軍・政治権力・市民社会』晃洋書房		2016 予定	112-129
池田美佐子 (研究分担者)	「エジプト公教育の苦悩—「植民地」支配から教育格差まで」	塩尻和子編『変わるイスラーム社会...宗教と紛争の実態』明石書店		2016 予定	未定
森 まり子 (研究分担者)	「建国期のイスラエル内閣閣議議事録 史料紹介と予備的考察(三)——『暫定政府会合議事録』第2~3巻(1948年6月1日~6月16日)に見る第一次停戦受諾とイスラエル国境・アラブ難民帰還問題をめぐる論議——」	『東京大学東洋文化研究所紀要』	169	2016 予定	未定

	「イスラエル極右の脱「周縁」——カハネからリーベルマンに至る水脈と欧米・中東の多文化共生社会の挫折——」	『中東研究』	525	2016	75-86
錦田 愛子 (研究分担者)	第2章「パレスチナ・ディアスポラ—繰り返される移動」	臼杵陽編『パレスチナを知るための60章』明石書店		2016	23-26
	第37章「シリア・レバノンのパレスチナ人—安全と未来を求めて」	臼杵陽編『パレスチナを知るための60章』明石書店		2016	240-243
	「ヨルダン王制の安定性—国王の権威を支える諸要素—」	『アジア経済研究所報告書』		2016	未定
今堀恵美 (研究協力者)	「社会主義とイスラームの狭間で—ポスト社会主義後ウズベキスタンにおける豚の流通をめぐる調査報告」	『ポスト社会主義以後のスラブ・ユーラシア世界—比較民族誌的研究』		2016 予定	143-168
	「「見えない」仕事、「見せない」仕事—ウズベキスタンの刺繍業における男性性」	『仕事の人類学』		2016 予定	25-46
Uyama Tomohiko (研究協力者)	“The Contribution of Central Eurasian Studies to Russian and (Post-)Soviet Studies and Beyond”	<i>Kritika: Explorations in Russian and Eurasian History</i>	vol. 16, no. 2	2015	331-344
	“Repression of Kazakh Intellectuals as a Sign of Weakness of Russian Imperial Rule: The Paradoxical Impact of Governor A.N. Troinitskii on the Kazakh National Movement”	<i>Cahiers du Monde russe</i>	vol. 56, no. 4	2016 予定	未定
宇山 智彦 (研究協力者)	「新「グレートゲーム」時代の中央アジア：その主体性と客体性」	『外交』	vol. 34	2015	13-20
	「ユーラシア近代帝国論へのいざない」	宇山智彦編『ユーラシア近代帝国と現代世界』ミネルヴァ書房		2016	1-20
	「周縁から帝国への「招待」・抵抗・適応：中央アジアの場合」	同上		2016	121-144
	「帝国・地域大国・小国」	同上		2016	237-256
	「中央アジア諸国からみた国際環境の変化と対応：ロシアの政治的・軍事的影響力と中国の経済進出」	『国際問題』	第647号	2015	16-27
	「権威主義ロシアの「帝国」化の賭け：旧ソ連諸国統合・反米主義・対中接近」	村上勇介編『BRICs 諸国のいま：2010年代世界の位相』京都大学地域研究統合情報センター	CIAS Discussion Paper No. 57	2016 予定	11-15
岩崎一郎・宇山 智彦	「近現代：中央アジア——19～21世紀」	水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会		2015	246-262, 344-354

岡 奈津子 (研究協力者)	「「帰還民」へのまなざし——カザフスタンの在外カザフ人呼び寄せ政策と現地社会」	山根聡・長縄宣博編『越境者たちのユーラシア(シリーズ・ユーラシア地域大国論5)』ミネルヴァ書房		2015	135-157
	「市場経済化後のカネとコネ——カザフスタンの人々の暮らしはどう変わったのか」	アジ研ワールド・トレンド	238	2015	51-57
Natsuko Oka (研究協力者)	“Informal payments and connections in post-Soviet Kazakhstan”	<i>Central Asian Survey</i>	34(3)	2015	330-340
小沼孝博 (研究協力者)	「トルファン・オアシス社会の分断——清とジュンガルの狭間で——」	『歴史と地理』	686	2015	1-14
木村 暁 (研究協力者)	「マンギト朝政権の対シール派聖戦とメルヴ住民の強制移住」	守川知子(編)『移動と交流の近世アジア史』		2016 予定	59-85
Satoru Kimura (研究協力者)	“Doktor Karimova va Yaponiya”	Toshkent davlat sharqshunoslik instituti huzuridagi Sharq qo‘lyozmalari markazi, Saodat kimyosin izlab...		2015	27-29
坂井 弘紀 (研究協力者)	「英雄叙事詩とシャマニズム」	『和光大学表現学部紀要』	15 号	2015	34-54
	「中央ユーラシアと日本の民話・伝承の比較研究のために」	『和光大学表現学部紀要』	16 号	2016 予定	未定
澤田 稔 (研究協力者)	「『タズキラ・イ・ホージャガン』日本語訳注(3)」	『富山大学人文学部紀要』	第 63 号	2015	33-57
	「『タズキラ・イ・ホージャガン』日本語訳注(4)」	『富山大学人文学部紀要』	第 64 号	2016	81-106
塩谷 哲史 (研究協力者)	「回顧と展望 内陸アジア(二)」	『史学雑誌』	124-5	2015	261-266
Naganawa Norihiro (研究協力者)	“A Civil Society in a Confessional State? Muslim Philanthropy in the Volga-Urals Region”	<i>Russia's Home Front, 1914-1922</i>	Book 2 : The Experience of War and Revolution	2016	未定
吉村 貴之 (研究協力者)	「「アルメニア問題」に析出する国際政治～トルコ・アルメニア関係、周辺諸国と欧米の関与」	『中東研究』	524 号	2015	41-51
	「2つの帝国とアルメニア人～民族運動に及ぼす地域大国の磁場」	山根聡・長縄宣博共編『越境者たちのユーラシア』、ミネルヴァ書房		2015	105-132
	「アルメニア人の名前」	『世界の名前』(岩波新書)		2016 予定	未定
	「ナゴルノ・カラバフ紛争における『敵の肖像』」	私市正年編『アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状』ワーキングペーパー、上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター		2016	91-98

今野 泰三 (研究協力者)	「パレスチナ暫定自治政府とハマース——なぜパレスチナ人はハマースを支持するのか——」	『パレスチナを知るための 60 章』(明石書店)	—	2016	未定
	「「テロ」の本当の被害者は誰か——「自衛」としてのエルサレム・インティファダー——」	『ミフターフ』(パレスチナの平和を考える会会報)	第 42 号	2016	8-9
TSURUMI Taro (研究協力者)	“Jewish Liberal, Russian Conservative: Daniel Pasmanik between Zionism and the Anti-Bolshevik White Movement”	<i>Jewish Social Studies</i>	21(1)	2015	151-180
鶴見 太郎 (研究協力者)	「ロシア・シオニズムの亡命」	『ユダヤ・イスラエル研究』	29	2015	44-53
佐々木 紳 (研究協力者)	「オスマン帝国の歴史と近世」	清水光明編『「近世化」論と日本』		2015	270-277
	「近代オスマン帝国における救済の複合性：募金活動の現場から」	『歴史学研究』	933	2015	13-22, 77
福田 義昭 (研究協力者)	「昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象(1)——東京・朝鮮篇」	『アジア文化研究所研究年報』(東洋大学アジア文化研究所)	第 50 号 (2015)	2016	未定
板垣雄三、阿久津正幸 (研究協力者)(共著)	「イスラームにおけるスピリチュアリティと平和」鎌田東二企画・編『スピリチュアリティと平和』	『ビインブ・ネット・プレス』		2015	102-132
伊賀 司 (研究協力者)	「2014 年のマレーシア—保守的なイスラームの拡大と航空機事故」	『アジア動向年報 2015』		2015	381-408
	「ポスト・マハティール期マレーシアにおける SNS の政治的影響力」	『国際協力論集』	23(2)	2016	85-108
井上あえか (研究協力者)	「書評：中野勝一著『パキスタン政治史—民主国家への苦難の道』明石書店、2014 年」	『アジア経済』	56 巻 4 号	2015	128-131
	「パキスタン政治の変化と軍の役割」	酒井啓子編『途上国における軍・政治権力・市民社会』		2016 予定	95-111
坂梨 祥 (研究協力者)	「イラン核合意の成立と IS 対策への影響」	『海外事情』	Vol.63, NO.9	2015	43-56
TSUJIGAMI, Namie (研究協力者) and Koji HORINUKI (研究協力者)	“Japan in the Gulf: Between Intra-Bureaucratic Politics and Inter-Asian Rivalry”	<i>The Emerging Middle East-East Asia Nexus</i>		2015	85-93
堀抜 功二 (研究協力者)	「2022 年 FIFA ワールドカップに揺れるカタール——贈収賄問題および外国人労働者問題の政治経済リスク——」	『JIME 中東動向分析』	14 巻 4 号	2015	1-18
村上 拓哉 (研究協力者)	「湾岸諸国による新たな積極行動主義——体制転換の脅威と対テロ政策の拡大——」	川上高司編『「新しい戦争」とは何か』ミネルヴァ書房		2016	225-241

	「湾岸地域における新たな安全保障秩序の模索——GCC諸国の安全保障政策の軍事化と機能的協力の進展——」	『国際安全保障』	第43巻第3号	2015	43-57
	「サウジアラビアとイランの「冷戦」——「権力闘争」か「宗派対立」か」	『中東研究』	第523号	2015	42-52
湯浅 剛 (研究協力者)	「中央アジア・カフカス 18世紀～現代」	柴宜弘編『地図で読む世界史』実務教育出版		2015	46-47
	「ユーラシア複合危機の中のイランとロシア」	『中東研究』(中東調査会)	第525号	2016	24-28
	「安全保障の基本はなにか」	『まなぶ』(労働大学出版センター)	第707号	2016	39-42
	「グローバル政治の焦点としてのウクライナ紛争：国家性・地域機構・地政学」	『広島平和研究』(広島市立大学・広島平和研究所)	第3巻	2016	未定
吉岡 明子 (研究協力者)	「モスル陥落から1年——「イスラム国」と戦うイラクの地上部隊——」	『中東動向分析』	14/3	2015	1-14
	「イラクの石油生産は過去最高レベルへ—南部生産拡大への2つのカギと、北部生産が直面する2つの課題—」	『中東協力センターニュース』	2015/6	2015	21-34
	「イラクの現状と将来」	平成26年度外務省外交・安全保障調査研究事業(総合事業)「グローバル戦略課題としての中東—2030年の見通しと対応—」	-	2015	23-30

〔図書〕計(8)件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
錦田愛子(研究分担者)(編著)	『移民／難民のシティズンシップ』	有信堂高文社		2016	256
宇山智彦(研究協力者)・藤本透子(編著)	『カザフスタンを知るための60章』	明石書店		2015	384
宇山智彦(研究協力者)(編著)	『ユーラシア近代帝国と現代世界』	ミネルヴァ書房	シリーズ・ユーラシア地域大国論4	2016	280
坂井弘紀(研究協力者)(翻訳)	『アルパムス・バトゥル』	平凡社		2015	339
山根聡、長縄宣博編(研究協力者)	『越境者たちのユーラシア』(シリーズ・ユーラシア地域大国論5)	ミネルヴァ書房		2015	233
小澤実、長縄宣博編(研究協力者)	『北西ユーラシアの歴史空間』	北海道大学出版会		2016 予定	338

中川恵（研究協力者）（共編著）	『難民キャンプの内幕：西サハラ紛争とティンドゥフ』	日本評論社		2015	216
中川恵（研究協力者）（共編著）	<i>Le livre gris du terrorisme</i>	Jean-Cyrille Godefroy		2015	284

〔学会発表〕計（54）件

発表者名	発表標題	学会等名	発表年月日	発表場所
菊地 達也 （研究代表者）	「『媒介者』としてのシーア派イマーム」	第61回宗教史研究会	2015.6.13.	東洋英和女学院大学大学院（港区）
	「イスラム教シーア派の起源」	宗教間対話研究所第97回月例研究会	2015.11.27.	東京グランドホテル（港区）
	「11世紀ドゥルーズ派の集団移動：エジプトからシリアへ」	東京大学中東地域研究センター(UTCMS)公開シンポジウム	2016.1.30.	東京大学駒場キャンパス（目黒区）
Eiji Nagasawa （研究分担者）	“The Second Arab Discovery of Japan: Professor Raouf Abbas and His Studies on Modern Japan”	日本学術振興会カイロ研究連絡センター創立30周年記念シンポジウム	2016.1.16	カイロ大学、ギーザ、エジプト
長沢栄治 （研究分担者）	「アズハルと2011年エジプト革命」	公開講演会「文明の変革期における宗教の役割」	2015.5.30.	新宿区、東京都、東京国際大学早稲田キャンパス
飯塚 正人 （研究分担者）	「ISILはイスラームではないのかー近現代イスラーム思想史から考える」	日本学術会議サイエンスカフェ	2015.7.24.	文部科学省
池田 美佐子 （研究分担者）	「エジプト公教育の苦悩ー「植民地」支配から教育格差まで」	日本教育学会第74回大会シンポジウム「戦争と子ども・教育-戦後70年を教育学としていかにうけとめるか-」	2015.8.29.	御茶の水女子大学
森 まり子 （研究分担者）	“How to Teach the Concept of “Modernity” in Undergraduate History Education: Challenges in the Global Era”	International Symposium “Teaching History in Universities: Visions, Approaches and Themes”	2015.11.25.	カタール大学 Department of Humanities, College of Arts and Sciences
錦田 愛子 （研究分担者）	「再難民化する難民たちー中東から北欧を目指すアラブ系住民の移動」	日本政治学会	2015.10.11.	千葉大学
Ken SHIMIZU and Aiko NISHIKIDA （研究分担者）	“Arab migrants-refugees from Swedish foreign policy’s perspective”	Researching the Middle East Fieldwork, Archives, Issues, and Ethics	2015.6.8.	Exeter University
Hamamoto Mami （研究分担者）	“Muslims in Early Modern Russia: Recent Research Trends”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.4.	神田外語大学
	“The Tatar Yoke in the historiography in Japan”	International Conference “Cultural, Economic, Technological Contacts and Interaction between Japan and the Tatar World: Past and Present”	2015.10.19.	東海大学湘南キャンパス

	“Strange Parallels in the Context of Russian History”	International Workshop: Creating Global History from Southeast Asian Perspectives for Celebrating Professor Victor Lieberman’s Age of 70	2015.12.15.	大阪大学
濱本真実 (研究分担者)	「ロシア・中央アジア・新疆間のムスリム・ネットワーク・タタール商人の活動を中心に」	シンポジウム「通商・巡礼・亡命：17 世紀～20 世紀初頭の中央ユーラシアにおける超境界活動」	2016.3.12.	早稲田大学
宇山 智彦 (研究協力者)	「帝國的プロセスとしてのロシア・ソ連史：比較と関係性の視点から」	ソビエト史研究会 2015 年度年次研究大会	2015.6.13.	専修大学サテライトキャンパス
	「1916 年反乱は革命の前触れだったのか：大戦期中央アジア社会の活発化と断裂」	ロシア史研究会 2015 年大会（共通論題）	2015.10.11.	早稲田大学
	「新しい「帝国」時代の中央アジア国際関係」	中央ユーラシア調査会公開シンポジウム「ユーラシアにおける中露の角逐と中央アジア」	2016.1.22.	東海大学校友会館
UYAMA Tomohiko (研究協力者)	“Understanding the Kazakh Autonomy of the Alash Orda Multidisciplinarily: Enlightenment, Post-Imperial Citizenship, and International Contexts”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.4.	神田外語大学
	“Perspectives of Japan-China Cooperation in Central Asia”	2015 China Xinjiang Development Forum	2015.8.18.	新疆迎賓館
	“Transborder Cultural and Historical Relations between Xinjiang and the Central Asian Countries”	CASS Forum: The Cooperation of the Neighboring Area with the Perspective of Chinese “One Belt One Road” Strategy	2015.8.21.	中国社会科学院
	“Ukraine, Kazakhstan, and China’s “One Belt, One Road” Project”	9th Europe-Ukraine Forum	2016.1.25.	Andel’s Hotel Łódź
OKA Natsuko (研究協力者)	“Informal payments, connections and monetization of personal relations under Kazakhstan's capitalism”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.7.	神田外語大学
	“Informal payments in Kazakhstan's educational institutions”	International Conference "Welfare state and collective action in Central Asia"	2015.5.18.	KIMEP University, Almaty, Kazakhstan
小沼 孝博 (研究協力者)	「18 世紀前半におけるトルファン社会の分断—エミン・ホージャ台頭の背景—」	第 52 回野尻湖クリルタイ〔日本アルタイ学会〕	2015.7.28.	長野県信濃町藤屋旅館
	「清朝と新疆のムスリム臣民—相互認識と対話—」	東北アジア研究センター 20 周年記念シンポジウム「東北アジア—地域研究の新たなパラダイム」	2015.12.6.	仙台国際センター会議棟小会議室 3
	「18 世紀前半のトルファン：ジュンガルの東辺／清の西辺」	2016 年国際ワークショップ「ジュンガルに関する歴史研究最前線」	2016.1.23.	京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター（羽田記念館）

木村 暁 (研究協力者)	「18 世紀ブハラ年代記『ハンへの贈り物』について：史料論と王権論からの略考」	平成27年度九州史学会大会	2015.12.13.	九州大学
SHIOYA Akifumi (研究協力者)	“Reading the Khivan Archive: A History of Water Management in Central Asia”	IMARES (International MA in Russian and Eurasian Studies) Workshop Series	2015.11.10.	European University at Saint Petersburg
	“The Last Days of the Caravan: The Dynamics of Trade Between Orenburg and Central Asia in the Nineteenth Century”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.5.	神田外語大学
塩谷哲史 (研究協力者)	「18-20 世紀ロシア＝中央アジア間の隊商交易とカザフの牧畜」	東北アジア研究センター共同研究シンポジウム「モンゴルとカザフにおけるモノの域外流通と域内流通」	2016.2.20.	東北大学東北アジア研究センター
	「中央ユーラシアの農牧接壌地帯からみた近代世界」	比較地域体系研究会	2016.1.31.	明治大学
NAGANAWA Norihiro (研究協力者)	“Russia’s Place in Global Muslim Connections, ca. 1800-1930: Sufism, Nationalism, and Anti-Imperialism”	2015 Summer International Symposium of the Slavic-Eurasian Research Center, “Russia and Global History”	2015.7.30.	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
	“An Imperial Pathway: Karim Khakimov in the Southern Urals, Turkestan, and Iran (1919-1921)”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.8.	神田外語大学
長縄 宣博 (研究協力者)	「宗教行政と公共圏：ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの銃後」	ロシア史研究会 2015 年度大会共通論題	2015.10.11.	早稲田大学
吉村 貴之 (研究協力者)	「二つのナショナリズム～1965 年のアルメニア人虐殺 50 周年追悼集会（英語による）」	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.4.	神田外語大学
TSURUMI Taro (研究協力者)	“Russian Jews after the Imperial Collapse, East and West”	“Russia and Global History” スラブ・ユーラシア研究センター夏期シンポジウム	2015.7.31.	北海道大学
	“Jewish Nationalism in the Russian Language”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.5.	神田外語大学
Satoshi Katsunuma (研究協力者)	“The development of reformatories in interwar Egypt”	Middle Eastern Societies (1918-1939): Challenges, Changes and Transitions	2015.10.17.	中東工科大学（トルコ、アンカラ）
	“What do prisoners work for?: prison reform and social change in colonial Egypt”	Islam in Global Perspective	2015.11.2.	ニューヨーク大学アブダビ校（アラブ首長国連邦、アブダビ）
佐々木 紳 (研究協力者)	「中東／イスラームの正義：理念と歴史、そして相対化」	成蹊大学アジア太平洋研究センター研究プロジェクト研究会	2016.2.21.	成蹊大学

福田 義昭 (研究協力者)	「神戸とトルコ・タタール人 —エルトゥール号事件から 第二次世界大戦後まで」	Uluslararası Ertuğrul'un İzinde Deniz Kuvvetleri ve Diplomasi Sempozyumu (国 際シンポジウム「エルトゥ ール号と海軍外交」)	2015.9.16.	Deniz Müzesi, Beşiktaş, İstanbul.
	「昭和期の日本文学における 在日ムスリムの表象」	日本中東学会第 31 回年次 大会	2015.5.18.	同志社大学
阿久津正幸 (研 究協力者)、フセ イン・ザナティ ー	「エジプト・ミニア市におけ る初等教育実験：母国語（標 準アラビア語）環境と外国語 （英語）習得技術の観点から」	日本中東学会第 31 回年次 大会	2015.5.17.	同志社大学
阿久津正幸 (研究協力者)	「バイトゥル・アハド・モスク 落成記念に寄せて」	Opening Ceremony: Bait-ul-Ahad The Japan Mosque 2015	2015.11.21.	愛知県津島 市・ザ・ジャパ ン・モスク
IGA Tsukasa (研究協力者)	“Media and political transformation under competitive authoritarianism: Malaysian and Cambodian cases”	Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) Conference 2015	2015.12.12.	Kyoto
	“Political scandals and societal accountability in contemporary Malaysia: the role of new media and opposition parties in democratizing society”	Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) Conference 2015	2015.12.12.	Kyoto
	“Political Scandals and Social Accountability in Contemporary Malaysia: The Role of New Media and Opposition Parties in Democratizing Society”	The Second Conference of the Association for Asian Studies (AAS) in Asia at Academica Sinica	2015.6.23.	Taipei (Taiwan)
坂梨 祥 (研究協力者)	「イラン革命の衝撃と「宗派 主義」：「イスラームの革命」 か「シーア派の革命」か」	日本中東学会第 31 回年次 大会	2015.5.16.	同志社大学
立花 優 (研究協力者)	「体制変動とエリートの連続 性：バラ革命前後のグルジア」	日本比較政治学会	2015.6.27.	上智大学
Yu TACHIBANA (研究協力者)	“How to Rule a Country: A Statistical Analysis of Presidential Decree Making in South Caucasus Republics”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.4.	神田外語大学
堀抜 功二 (研究協力者)	「レンティア国家における君 主体制の正統性と忠誠の役割 —UAE と『アラブの春』を 事例に」	日本比較政治学会	2015.6.28.	上智大学
Hirotake Maeda (研究協力者)	“Girogi Saakadze’s Revolt in 1625 and an Iranian Bureaucrat’s Perception”	<i>The First International Kartvelological Congress</i>	2015.11.11.	Georgian Academy of Sciences
村上 拓哉 (研究協力者)	“Oman's Foreign Policy in the Crisis; Neutralism, Alliance and Mediation Diplomacy”	日本国際政治学会	2015.10.31.	仙台国際セン ター
Takeshi Yuasa (研究協力者)	“Institutionalization of Russian-led Integration Process and Central Asia”	ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari	2015.8.4.	神田外語大学

上智大学研究機構 イスラーム研究センター
代表：私市正年（上智大学総合グローバル学部教授）

中心テーマ 『イスラーム近代と民衆のネットワーク』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 （担当研究テーマ）
私市 正年	上智大学総合グローバル学部・教授	研究拠点代表 （総括・イスラーム運動）
川島 緑	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 （東南アジア・政治運動）
赤堀 雅幸	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 （近現代聖者信仰）
新井 和広	慶應義塾大学商学部・准教授	研究分担者 （東南アジア・中東交流史）
岩崎えり奈	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 （エジプト・チュニジア社会経済）
小林 寧子	南山大学外国語学部・教授	研究分担者 （東南アジア・イスラーム法）
澤江 史子	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 （トルコ・現代政治社会論）
高橋 圭	上智大学アジア文化研究所・客員所員	研究分担者 （近現代タリーカ）
登利谷正人	上智大学イスラーム研究センター・特別研究員	研究分担者 （アフガニスタン近現代史）
三代川寛子	人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員、 上智大学アジア文化研究所・客員所員	研究分担者 （アラブ世界・近現代政治史）
横田 貴之	日本大学国際関係学部・准教授	研究分担者 （アラブ世界・近現代政治思想）
北澤 義之	京都産業大学外国語学部・教授	拠点構成員 （アラブ世界・近現代政治史） （東京大学拠点研究協力者）

菅原 由美	大阪大学大学院言語文化研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・宗教運動)
高岡 豊	公益財団法人中東調査会・上席研究員	拠点構成員 (アラブ世界・政治運動)
服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教授	拠点構成員 (東南アジア・教育)
見市 建	岩手県立大学総合政策学部・准教授	拠点構成員 (東南アジア・イスラーム運動)
三沢 伸生	東洋大学社会学部・教授	拠点構成員 (前近代タリカ)
茂木 明石	上智大学アジア文化研究所・客員所員	拠点構成員 (前近代聖者信仰)
森本 一夫	東京大学東洋文化研究所・准教授	拠点構成員 (預言者一族崇敬)
アレクサンドル・パパス	CNRS (国立科学研究センター)・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
サリ・アガスティン	上智大学神学部・教授	研究分担者 (南アジア・エスニック紛争)
シリル・ヴェリヤト	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 (南アジア・宗教対立)
ズビール・アールス	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)

研究グループ：「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

(研究グループ メンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
私市 正年	上智大学総合グローバル学部・教授	研究拠点代表 (総括・イスラーム運動)
川島 緑	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 (東南アジア・政治運動)
赤堀 雅幸	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 (近現代聖者信仰)

新井 和広	慶應義塾大学商学部・准教授	研究分担者 (東南アジア・中東交流史)
岩崎えり奈	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (エジプト・チュニジア社会経済)
小林 寧子	南山大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・イスラーム法)
澤江 史子	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 (トルコ・現代政治社会論)
高橋 圭	上智大学アジア文化研究所・客員所員	研究分担者 (近現代タリーカ)
登利谷正人	上智大学イスラーム研究センター・特別研究員	研究分担者 (アフガニスタン近現代史)
三代川寛子	人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員、 上智大学アジア文化研究所・客員所員	研究分担者 (アラブ世界・近現代史)
横田 貴之	日本大学国際関係学部・准教授	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治思想)
北澤 義之	京都産業大学外国語学部・教授	拠点構成員 (アラブ世界・近現代政治史) (東京大学拠点研究協力者)
菅原 由美	大阪大学大学院言語文化研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・宗教運動)
高岡 豊	公益財団法人中東調査会・上席研究員	拠点構成員 (アラブ世界・政治運動)
服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教授	拠点構成員 (東南アジア・教育)
見市 建	岩手県立大学総合政策学部・准教授	拠点構成員 (東南アジア・イスラーム運動)
三沢 伸生	東洋大学社会学部・教授	拠点構成員 (前近代タリーカ)
茂木 明石	上智大学アジア文化研究所・客員所員	拠点構成員 (前近代聖者信仰)
森本 一夫	東京大学東洋文化研究所・准教授	拠点構成員 (預言者一族崇敬)

アレクサンドル・パパス	CNRS（国立科学研究センター）・研究員 （フランス）	研究分担者 （中央アジア・スーフィズム）
サリ・アガステイン	上智大学神学部・教授	研究分担者 （南アジア・エスニック紛争）
シリル・ヴェリヤト	上智大学総合グローバル学部・教授	研究分担者 （南アジア・宗教対立）
ズビール・アルース	アルジェ大学 CREAD・教授（アルジェリア）	研究分担者 （アラブ世界・社会運動）

（研究グループ 海外共同研究者）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
アレクサンドル・パパス	CNRS（国立科学研究センター）・研究員 （フランス）	研究分担者 （中央アジア・スーフィズム）
オマン・ファトゥラフマン	ジャカルタ・イスラーム大学・上級研究員 （インドネシア）	研究協力者 （東南アジア・イスラーム文献学）
エルファン・ヌルタワブ	ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学 ・講師（インドネシア）	研究協力者 （東南アジア・イスラーム文献学）
アルース・ズビール	アルジェ大学 CREAD・教授（アルジェリア）	研究分担者 （アラブ世界・社会運動）

（研究グループ 研究協力者）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
荒井 康一	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	トルコ政治社会学
石黒 大岳	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	湾岸産油国の政治改革、 イスラーム政党の活動 （東京大学拠点研究協力者）
今井 真士	文教大学・非常勤講師	権威主義体制下の政党政治
岩坂 将充	同志社大学高等研究教育機構・准教授	現代トルコ政治研究
小山田紀子	新潟国際情報大学情報文化学部・教授	植民地期フランス・アルジェリア 関係とイスラーム

粕谷 元	日本大学文理学部・准教授	トルコ現代史
加藤 恵実	笹川平和財団/笹川中東イスラム基金・研究員	開発学（イエメン、サウジアラビア、教育改革、人権）、近代アラブ文学
金谷 美紗	公益財団法人中東調査会・研究員	エジプト現代政治、民主化、比較政治学
吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部・准教授	ヨルダンの政治、カタールと GCC 諸国（東京大学拠点研究協力者）
金 信遇 (キム・シンウー)	上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻博士前期課程	チュニジア現代政治
幸加木 文	元・ファーテヒ大学（トルコ）	トルコ地域研究・現代トルコ政治社会および政教関係、イスラーム運動
小林 周	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 後期博士課程	現代リビア政治・サハラ地域ガバナンス現代トルコ政治社会および政教関係、イスラーム運動
小村 明子	上智大学アジア文化研究所・客員所員	日本におけるイスラーム史
齋藤 秋生子	上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻博士前期課程	リビアと安全保障
清水 雅子	上智大学グローバル・スタディーズ研究科・特別研究員（PD）	比較政治学（権威主義体制、執政制度）、中東現代政治（パレスチナ現代政治）
清水 学	元・帝京大学経済学部・教授 (有) ユーラシア・コンサルタント	中央アジア・経済
白谷 望	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	モロッコ現代政治
鈴木 啓之	日本学術振興会・特別研究員（PD） 日本女子大学・学術研究員	パレスチナの民族主義運動
関 佳奈子	上智大学総合グローバル学部・特別研究員	モロッコ近代史

鷹木 恵子	桜美林大学リベラルアーツ学群人文学系 ・教授	文化人類学、社会開発
高橋 雅英	外務省 国際情報統括官組織 専門分析員	モロッコにおけるイスラーム運動
田中 友紀	九州大学大学院比較社会文化学府国際社会 博士後期課程	リビア政治
ダルウィッシュ・ ホサム	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	中東政治、エジプト政治、比較政 治学
飛内 悠子	日本学術振興会・特別研究員（PD）大阪大学	人類学・スーダン国内避難民 北部スーダンの教育人類学
中村 遥	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士後期課程	アルジェリア・フランス史
貫井 万里	公益財団法人日本国際問題研究所・研究員	イラン地域研究 (早稲田大学拠点研究協力者)
野中 葉	慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員（訪問）	現代インドネシアのイスラーム運 動（京都大学拠点研究協力者）
葉狩 真悠子	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・ソサエティークラスター修士課 程	シリアを中心とした中東地域研 究、シリア紛争の客観的・主観的 要因
濱中 新吾	山形大学地域教育文化学部・准教授	比較政治学・中東現代政治 (東京大学拠点研究協力者)
福永 浩一	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士後期課程	20世紀エジプトにおける政治運動
フランシクス・ザ ベリウス・プルハ スタント	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士後期課程	インドネシアにおけるイスラムの 組織
堀場 明子	笹川平和財団・主任研究員 上智大学アジア文化研究所・客員所員	インドネシア地域研究、 紛争分析、平和構築
眞城 百華	上智大学総合グローバル学部・准教授	エチオピア、エリトリア、アフリ カ研究、国際関係学
溝渕 正季	名古屋商科大学・専任講師	中東地域研究、国際安全保障論、 シリア・レバノン現代史
山本 沙希	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 ジェンダー学際研究専攻・博士後期課程	アルジェリア地域研究

吉田 敦	千葉商科大学人間社会学部・准教授	アフリカ・北アフリカ経済
若桑 遼	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	チュニジア近現代史
渡邊 祥子	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	マグリブ近代史
青山 亨	東京外国語大学言語文化学部・教授	イスラームとジャワ土着文化のインターフェース：土着神話、聖者信仰、宮廷儀礼
アダム・タイイ ブ・アクマド	元・上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	フィリピンにおけるムスリム・ヒストリオグラフィー
エルファン・ヌル タワブ	ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学・講師	東南アジア・イスラーム文献学
小河 久志	常葉大学社会環境学部・講師	タイにおけるイスラーム復興
オマン・ファトラ フマン	ジャカルタ・イスラーム大学・上級研究員	東南アジア・イスラーム文献学
木下 博子	九州大学 日本エジプト科学技術連携センター	東南アジアと中東のネットワーク (京都大学拠点研究協力者)
塩崎 (久志本) 裕子	マレーシア国際イスラーム大学 言語マネージメント学部・助教	文化人類学・マレー世界におけるイスラーム的知の伝達
塩崎 悠輝	日本学術振興会・特別研究員(PD)	東南アジアのイスラーム法
塩谷 もも	島根県立大学短期大学部・准教授	文化人類学、インドネシア研究
山口 元樹	日本学術振興会・特別研究員(PD)	近代インドネシア・イスラーム史
石田 友梨	早稲田大学アジア太平洋研究センター・助手	イスラーム改革思想 (京都大学拠点研究協力者)
内山 明子	兵庫県立北摂三田高等学校・非常勤講師	現代イラン女性の社会参加 (京都大学拠点研究協力者)
遠藤 春香	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院研究生	シャアラーニーの聖者論 (京都大学拠点研究協力者)
岡戸 真幸	上智大学言語教育研究センター・非常勤講師	地域研究、文化人類学、 社会的ネットワーク論、移動 (京都大学拠点研究協力者)

加藤 瑞絵	上智大学・非常勤講師	イスラーム思想史 (京都大学拠点研究協力者)
鎌田 繁	東京大学東洋文化研究所・教授	シーア派イスラーム思想 (京都大学拠点研究協力者)
荻谷 康太	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教	西アフリカのイスラーム (京都大学拠点研究協力者)
川本 正知	奈良産業大学経済学部・教授	中央アジア史 (京都大学拠点研究協力者)
後藤 明	東京大学・名誉教授	前近代聖者信仰 (京都大学拠点研究協力者)
小牧 幸代	高崎経済大学地域政策学部・教授	社会人類学(南アジア・ムスリム社会) (京都大学拠点研究協力者)
近藤 文哉	上智大学グローバル・スタディーズ研究科地域研究博士前期課程	人類学・中東におけるマウリド (京都大学拠点研究協力者)
斎藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授	社会人類学、モロッコ研究、ムスリム聖者信仰、タリーカなど (東京大学拠点、京都大学拠点研究協力者)
坂井 信三	南山大学人文学部・教授	西アフリカのイスラーム (京都大学拠点研究協力者)
澤井 真	日本学術振興会・特別研究員(PD) 東京大学	宗教学・初期スーフィズム、神秘主義方法論 (京都大学拠点研究協力者)
篠田 知暁	名古屋大学法学研究科・非常勤講師	シャリーフ王朝期モロッコにおける諸社会集団の形成と変容 (京都大学拠点研究協力者)
高尾賢一郎	上智大学アジア文化研究所・客員所員	現代シリアにおけるシャイフ・アフマド・クフターローのイスラーム理解、スーフィズム思想 (京都大学拠点研究協力者)
ダニシマズ・イデ ィリス	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・助教	トルコにおけるスーフィズム、スーフィーによるクルアーン解釈 (京都大学拠点研究協力者)

外川 昌彦	広島大学大学院国際協力研究科・准教授	文化人類学（南アジアのイスラーム研究） （京都大学拠点研究協力者）
栃堀（所）木綿子	日本学術振興会・特別研究員(PD) 東京外国語大学	アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリーの思想 （京都大学拠点研究協力者）
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教	中国イスラーム史 （早稲田大学拠点、 京都大学拠点研究協力者）
西山 愛美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程	現代トルコにおけるタリーカ （京都大学拠点研究協力者）
二宮 文子	青山学院大学文学部史学科・准教授	中世インド文化史 （京都大学拠点研究協力者）
藤井 千晶	大阪大学大学院言語文化研究科・招聘研究員	地域研究・東アフリカのイスラーム （京都大学拠点研究協力者）
二ツ山達郎	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程	人類学、チュニジア、バラカ、樹木 （京都大学拠点研究協力者）
丸山 大介	防衛大学校人文社会科学群・准教授	イスラームの聖者論と聖者信仰 （京都大学拠点研究協力者）
守川 知子	北海道大学大学院文学研究科・准教授	イラン・イスラーム史 （京都大学拠点研究協力者）
森山 央朗	同志社大学神学部神学科・准教授	歴史（10～12世紀マシュリク地域におけるハディース学者の社会的・文化的活動） （京都大学拠点研究協力者）
矢島 洋一	奈良女子大学文学部人文社会学科・准教授	スーフィズム史 （早稲田大学拠点、 京都大学拠点研究協力者）
安田 慎	帝京大学経済学部観光経営学科・講師	現代シーア派と聖者廟参詣 （京都大学拠点研究協力者）

山本 直輝	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科一貫制博士課程	16～18 世紀オスマン朝期のスーフィズム (京都大学拠点研究協力者)
吉田 京子	東京大学大学院人文社会系研究科 アジア文化研究専攻イスラム学講座・助教	初期シーア派思想 (京都大学拠点研究協力者)
若松 大樹	国立ヒッタイト大学文理学部・助教	現代トルコにおけるアレヴィー集団のオジャク（タリーカ）・聖者 (京都大学拠点研究協力者)
和崎 聖日	京都大学地域研究統合情報センター・研究員	中央アジア地域研究、人類学 (京都大学拠点研究協力者)

【2015 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

2015 年度は以下のような整備を行った。

- ・ 本研究プロジェクトの推進するために設立された上智大学「イスラーム研究センター」を恒常的な研究拠点として整備していくため、2013 年 4 月より継続して、本学予算でイスラーム研究センター付きの特別研究員 1 名（登利谷正人、研究分担者）を配置した。
- ・ 本研究プロジェクトの推進に「上智大学カイロ研究センター」を活用すべく努めた。エジプトの現在の政治状況のため、常駐の派遣員を置くことができなかったが、同センター責任者の赤堀雅幸（研究分担者）の他、岩崎えり奈（研究分担者）のエジプト渡航時にセンターを利用するとともに、センターの維持運営について方策を練った。
- ・ 2013 年度に早稲田大学と上智大学との間で「イスラーム地域研究に関する学術協定」（大学間連携等による共同研究）を締結した。それに基づき、2014 年度から早稲田拠点との連携の下、「アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状」研究会を運営し、2015 年度は研究会 3 件、招聘講演会を 2 件開催し、1 冊の研究成果を出版した。
- ・ 学部・学科・研究所レベルで「イスラーム地域研究」プログラムの研究会案内や出版物案内を積極的に行うなど、活動内容の広報活動を行った。
- ・ 研究活動・事務局運営は、市谷キャンパスの本プロジェクト専用室を拠点として実施した。人間文化研究機構地域研究推進センター研究員および上智大学イスラーム研究センター特別研究員はこの事務局にて勤務するほか、個人の研究用スペースとして中央図書館内に研究室（共用）が貸与された。
- ・ 人材養成については、PD、RA などの増員、PD 研究員の受け入れ、大学院生のプロジェクトへの参加要請など積極的に行い、また若手研究者自身による研究会の運営を支援した。
- ・ 成果報告については、SIAS Working Paper Series のほか、上智大学アジア文化研究所の刊行物を通して発表した。さらに、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻における大学院教育との連携を前進させることができた。
- ・ イスラーム原典叢書シリーズ（岩波書店）の一冊として、2014 年の上巻に続いて『ムスリム同胞団の思想—ハサン・バンナー論考集—』下巻を刊行した。
- ・ 海外の研究機関および研究者との交流については、JICA との協力などのような上智大学が進めている国際連携強化の流れと連携しつつ、また世界各地に存するイエズス会研究機関のネットワークへの積極的な接続を図ることで研究活動の国際化を促進した。
- ・ 一次資料の公開体制の整備に関しては、第 1 期に収集した東南アジア・キターブ・コレクション（約 1800 タイトル）は上智大学アジア文化研究所図書室で公開されており、電子版カタログも研究所ホームページで公開されている。また、同研究所と連携して内外の研究者による資料の積極的利用を推進した。
- ・

2.研究・教育活動

(1)拠点全体としての活動

①第5回 NIHU イスラーム地域研究国際会議（東京 2015）

"New Horizons in Islamic Area Studies - Asian Perspectives and Global Dynamics"

日時：2016 年 9 月 11 日（金）～9 月 12 日（土）

場所：上智大学四谷キャンパス 12 号館

共催：NIHU プログラム「イスラーム地域研究」早稲田大学拠点、上智大学拠点、
国際交流基金、上智大学

概要：早稲田大学拠点作成の東京国際会議報告書を参照。

(2)研究グループの活動

①「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」第1回研究会

「現代中東政治を読む―「アラブの春」から「イスラム国」まで―」

日時：2015 年 6 月 26 日（金）17:30-19:30

場所：上智大学四谷キャンパス中央図書館 9 階 L-921 会議室

共催：上智大学総合グローバル学部、日本比較政治学会

概要：私市氏の基調講演では、最初にアラブの春からイスラム国への大きな流れに関する説明があり、この問題には国際政治、中東地域の事情、イスラーム思想の変化という諸側面があると指摘された。続いて、前嶋氏によるアメリカの対中東政策の分析、金谷氏による現代エジプト政治の分析、澤江氏による現代トルコ政治の分析が続いた。

（金信遇・三代川寛子）

プログラム：

17:30-17:35 岸川毅（上智大学） 趣旨説明

17:35-18:15 私市正年（上智大学）

基調講演「イスラム国の出現と中東・北アフリカ地域の変容」

18:20-19:00 コメント

前嶋和弘（上智大学） 「アメリカの視点から」

金谷美紗（中東調査会） 「エジプトの視点から」

澤江史子（上智大学） 「トルコの視点から」

19:00-19:30 ディスカッション

②「東南アジアのキターブ比較研究」第1回研究会

日時：2015 年 7 月 11 日（土）13:30-18:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 6 階 2-615A 会議室

概要：本研究会は、民衆的要素に注目しつつ、東南アジア各地のイスラーム物語の変化や地域による違いを検討し、イスラーム世界と連動しつつ、地域固有の文脈で展開されるイスラームのダイナミズムを明らかにすることを目的として開催された。菅原報告は、マレー語とジャワ語のイスラ・ミッラージュ物語の写本や刊本を検討し、近現代東南アジアにおけるイスラーム物語の変容をあとづけた。茂木報告は、インドネシアで人気のある、アフマド・ダルディールによるミッラージュ物語の注釈（アラビア語）をとりあげ、著者ダルディールと注釈の内容を紹介した。川島報告は、マラナオ語の『来世の報せ』を紹介し、テキストの時代的变化を検討した。報告や討論を通じて、基礎的情報を共有し、今後の共同研究の課題を明らかにすることができた。（川島緑）

プログラム：

13:30-13:40 新井和広（慶應義塾大学）司会挨拶

13:40-14:40 菅原由美（大阪大学）

「近現代東南アジアにおけるイスラ・ミッラージュ物語の変容—パターンニー版を中心に—」

14:50-15:50 茂木明石（上智大学）

「アフマド・ダルディールとイスラ・ミッラージュ物語」

16:00-17:00 川島緑（上智大学）

「南部フィリピン、ラナオ地方における『来世の報せ』(Khabarol Akhirat)の
来歴と変容に関する予備的研究—1930-70年代を中心に—」

17:15-18:00 青山亨（東京外国語大学）

コメント

③「スーフィズム・聖者信仰」第1回研究会

日時：2015年7月19日（日）13:30-18:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館6階 2-615A 会議室

共催：SIAS/KIAS、

科研費基盤B「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（代表：東長靖）

概要：山本氏の発表では、オスマン朝期のアラブ人神学者・思想家の神学思想、特にイブラーヒーム・クーラーニー（1690年没）とアブドゥルガニー・ナーブルスィー（1731年没）の思想について、二ツ山氏の発表では、オリーブグッズ、クルアーン装飾具、クルアーンカレンダーを事例に、物質と象徴体系の二元論を超えた、民衆のイスラームの信仰実践の理解はどのように可能かという点が議論された。

（近藤文哉・三代川寛子）

プログラム：

13:30-13:45：開会の挨拶

13:45-15:45 山本直輝（京都大学）「前近代オスマン朝における神学のイブン・アラビー的展開

ーアブドゥルガニー・ナーブルスィーの自由意志理解」

コメント：鎌田繁（東京大学・教授）、竹下政孝（東京大学・名誉教授）

15:45-16:00 休憩

16:00-18:00 ニツ山達朗（京都大学）「イスラームの信仰実践に物質はどのように関わるか

ーチュニジアにおけるオリーブと室内装飾具の事例からー」

コメント：大川真由子（神奈川大学・助教）

④「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」第2回研究会

「アラブ政変後のイスラーム運動の現在」

日時：2015年7月19日（日）13:00-17:30

場所：上智大学四谷キャンパス2号館5階 510会議室

概要：2011年のアラブ政変後の中東各国のイスラーム主義運動は、一定の枠組みの中で理解することが可能なのか、という問題関心の下、アラブ政変後のモロッコ・エジプト・シリアにおけるイスラーム主義勢力の政治的役割の変容、および現況が報告された。

まず白谷望氏は、モロッコのイスラーム主義勢力が、国王と win-win 関係を構築していることを報告した。一方金谷美紗氏は、モロッコと同じく一時は政権の座についたエジプト・ムスリム同胞団がどのように周辺化し、暴力化していったのかその過程を説明した。最後に高岡豊氏により、シリアのイスラーム武装勢力について詳細な現状報告がなされた。全体討論では、これらの報告事例に何か共通項はあるのかとの議論が交わされた。（田中友紀）

プログラム：

13:00-13:20 私市正年（上智大学）趣旨説明

13:25-14:25 白谷望（上智大学）

「モロッコにおける国王とイスラミスト政権の『win-win 関係』の模索」

14:30-14:45 休憩

14:45-15:45 金谷美紗（中東調査会）

「政変後エジプトにおけるイスラーム主義運動の分裂：周辺化と暴力化」

15:50-16:50 高岡豊（中東調査会）

「アラブの春の後に来た問題：「過激な」武装勢力と「穏健な」武装勢力」

17:00-17:30 ディスカッション

⑤講演会 “Transforming the Culture of “Giving” in Indonesia: the Middle Class Muslim, Crisis and Philanthropy”

日時：2015 年 10 月 23 日（金）17:30-19:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 6 階 2-615A 会議室

共催：上智大学アジア文化研究所

概要：1990年代末の経済危機以降、インドネシアでは宗教的動機に裏づけられた“与える文化”が再活性化した。ムスリム中間層が資金を集め、いくつもの慈善団体を設立して、生活困窮者救済のためのプログラムを実施するようになった。イスラーム慈善団体はその活動範囲が地理的に広がると同意に、活動戦略も変わってきたが、何よりも「体系化」と「専門化」を志向するようになった。しかも、一時的な弱者救済ではなく「社会変革」をめざし、「エンパワーメント」のためのプログラム（奨学金、技術研修等）を行うようになった。中には、政党や政治的志向性の強い団体が勢力拡大のために活動するケースも多々あるが、それも含めて、イスラーム慈善団体は宗教言説を社会福祉と結び付けて展開させつつある。

（小林寧子）

プログラム：

Dr. Hilman Latief (Director, Board of Research, Publication and Community Development.

Muhammadiyah University of Yogyakarta, Indonesia)

“Transforming the Culture of “Giving” in Indonesia: the Middle Class Muslim, Crisis and Philanthropy”

Chairperson: Prof. Kobayashi Yasuko (Nanzan University)

⑥第 4 回東南アジア・キターブ比較研究国際ワークショップ

“Concepts Concerning the Hereafter and Supernatural in Malay Manuscripts and Javanese Pre-Islamic Iconography”

日時：2015 年 10 月 25 日（日）13:00-18:30

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 6 階 2-615A 会議室

概要：久志本報告は、ラニリ著マレー語写本『アクバル・アーキラ』の構成を、来世に関するその他のマレー語テキストと比較検討するとともに、これらのテキストにおける預言者ムハンマドによる「とりなし」の観念を検討し、その多様性を指摘した。ヤフヤ報告は、呪術や占いに関するマレー語写本の挿画を網羅的に検討し、先イスラーム期の図像との共通点が多くみられることを指摘した。青山報告は、ジャワのプラバナン寺院にある、インド起源のラーマーヤナ物語を題材とする浮き彫りの図像を分析し、インド由来の観念であるモクサ——魂の肉体からの解放と天界への旅——の表象に古代ジャワの死生観が反映されていることを指摘した。

（川島緑）

プログラム：

Dr. Kushimoto Hiroko (International Islamic University of Malaysia)

“Description of the Day of Judgement and the Prophet’s Intercession in Malay Manuscripts:

al-Raniri's 'Akhbar Akhirah' and Related Texts”

Dr. Farouk Yahya (The School of Oriental and African Studies, University of London)

“Magic and Divination in Malay Illustrated Manuscripts”

Prof. Aoyama Toru (Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo)

“Death, Reincarnation, and Moksha in the Ramayana Reliefs in Prambanan Temple”.

Discussant: Prof. Edwin Wieringa (University of Cologne, Germany)

⑦第1 回合宿研究会「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」

日時：2015 年 11 月 7 日（土）～11 月 8 日（日）

場所：山喜旅館（伊東市）

概要：第1 部では、リビアの近現代政治史の報告が2 件あり、斎藤報告ではリビアにおける部族をどう分析するかが議論され、小林報告では混迷を極める現在のリビア政治情勢の整理が行われた。第2 部では、「イスラーム地域研究」第2 期の活動のまとめとして刊行予定である『中東研究のテーマと理論』の執筆内容のすり合わせと同時に、政治学・経済学・社会学・地域研究の4 アプローチから見た中東研究の現在が議論された。

（三代川寛子）

プログラム：

2015 年 11 月 7 日（土）

12:30-12:40 開会挨拶：私市正年（上智大学）

12:40-13:00 自己紹介

第1 部：リビア政治の歴史と現状

13:00-14:30 斎藤秋生子（上智大学）「カッザーフィー政権リビアにおける部族政策」

コメント：高岡豊（中東調査会）

14:40-16:10 小林周（慶応大学）「政変後のリビアにおける政治対立構造とイスラーム主義」

コメント：金谷美紗（中東調査会）

第2 部：「中東研究のテーマと理論」

16:20-17:50 1. 政治学的アプローチ

問題提起：浜中新吾（山形大学）

討論：石黒大岳（アジア経済研究所）、荒井康一（上智大学）

18:00-19:15 夕食

19:30-21:00 2. 経済学的アプローチ

問題提起：松尾昌樹（宇都宮大学）

討論者：今井真士（文教大学）、清水学（元・帝京大学）

2015 年 11 月 8 日（日）

- 9:00-10:30 3. 社会学的アプローチ
問題提起：溝渕正季（名古屋商科大学）
討論：横田貴之（日本大学）、浜中新吾（山形大学）
- 10:40-12:10 4. 地域研究的アプローチ
問題提起：鈴木啓之（日本学術振興会）
討論：北澤義之（京都産業大学）、三代川寛子（上智大学）
- 12:10-12:30 私市正年 閉会の挨拶

⑧シンポジウム

「「アラブの春」から「イスラム国」へー無秩序と混乱の広がる中東・北アフリカの現状ー」

日時：2015 年 12 月 5 日（金）14:00-17:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 5 階 401 会議室

概要：4 名の発表では、現在の中東政治におけるイスラーム主義勢力の立ち位置について報告がなされた。岩崎報告では、ノーベル平和賞を受賞した「チュニジア国民対話カルテット」の背景と、西部の山岳地帯におけるイスラーム主義勢力の伸長について、鈴木報告ではエジプトのムスリム同胞団と議会選挙について、高岡報告ではイスラーム主義勢力に外国から資源を供給するシステムについて、澤江報告ではクルド人問題・難民問題を抱えるトルコに対してシリア内戦が与える影響について報告がなされた。

（三代川寛子）

プログラム：

- 14:00-14:10 私市正年（上智大学）：司会挨拶
- 14:15-14:45 岩崎えり奈（上智大学）：チュニジアについて
- 14:50-15:20 鈴木恵美（早稲田大学）：エジプトについて
- 15:25-15:55 高岡豊（中東調査会）：シリアについて
- 16:00-16:30 澤江史子（上智大学）：トルコについて
- 16:30-17:00 討論

⑨The Third SIAS / KIAS – CNRS International Joint Seminar

日時：2016 年 1 月 31 日（日）13:00-18:00

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内総合研究 2 号館 4 階会議室（AA447）

共催：SIAS/KIAS、CNRS

科研費基盤 B「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（代表：東長靖）

概要：京都大学拠点の報告を参照。

プログラム：

13:00-13:20 Opening Remarks

13:20-14:00 Quentin GIROUD (CNRS)

“Zikr and Sema Rituals of the Contemporary Ussaki-Halveti Sufi Order of Turkey”

14:00-14:40 Kie INOUE (Tokyo University)

“Ruzbihan Baqli Shirazi's Theory of Love”

14:55-15:35 Rachida CHIH (CNRS)

“Sufism in the Early Modern Period: Ahmad al-Qushshashi (d. 1661) and the "Medinese School””

15:35-16:15 Daisuke MARUYAMA (National Defense Academy of Japan)

“The Meaning of "al-Wasita" (Intermediary): The Different Interpretations between Sufis and Salafis in Contemporary Sudan”

16:30-17:10 Thierry ZARCONE (CNRS)

“The Gazelle of Ahmad al-Tijani: Researches about a 'New Hagiography' and a Devotional Image”

17:10-17:40 Discussion

17:40-18:00 Closing Remarks

⑩Workshop Attached to the Third SIAS / KIAS – CNRS International Joint Seminar,

"TRADITION AND TRANSFORMATION IN THE PAST AND PRESENT"

日時：2016年2月1日（月）10:00-15:40

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内総合研究2号館4階会議室（AA447）

共催：SIAS/KIAS、Kyoto University Asian Studies Unit (KUASU)

科研費基盤B「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（代表：東長靖）

概要：京都大学拠点の報告を参照。

プログラム：

10:00-10:20 Opening Session

10:20-10:50 ISHIKAWA Kido (Kyoto University)

“The Comparative Study on Parables of Birds between ‘Aṭṭār and Predecessors”

10:50-11:20 YAMAMOTO Naoki (Kyoto University)

“Duality without Conflicts: Multiplex Interpretation of Islam according to ‘Abd al-Ghanī al-Nābulusī”

11:20-11:50 KONDO Fumiya (Sophia University)

	“Analyzing the Description Based on the Quantitative and Qualitative Analysis: Egyptian 'Mawlid' Observed by the Nineteenth Century British People”
11:50-13:00	Lunch
13:00-13:30	YAMAZAKI Satoru (Kyoto University) “Social Organization of Arab Alevis in Contemporary Turkey: Through the Case of EHDAV in Antakya, Hatay”
13:30-14:00	SAITO Akiko (Sophia University) “Tribal Policy and its Transformation in Libya under the Qadhafi Regime”
14:00-14:30	Antony SUSAIRAJ (Sophia University) “Vivekananda’s Understanding of Islam: Its Implications on His Idea of Universal Religion”
14:30-15:00	FUTATSUYAMA Tatsuro (Kyoto University) “Islamic Religious Practices with Tree: A Case Study of Olive in Contemporary Tunisia”
15:00-15:10	Coffee Break
15:10-15:30	General Comments
15:30-15:40	Concluding Session

⑩「東南アジアのキターブ比較研究」第2回研究会

日時：2016年3月4日（金）13:00-17:30

場所：上智大学四谷キャンパス2号館6階2-615A会議室

概要：第1部の菅原・茂木報告では、Patani版がマレー語に主として訳しているのは、Dardir版の中のガイティエの記述の部分であることが判明した。第二部のウェリンハ報告は、預言者のミラージュについてのマレー語の詩の分析を通じて、Haji Adamが革新派（ワッハーブ）に対して伝統的な立場をいかに擁護したかを考察したものであった。

（茂木明石、三代川寛子）

プログラム：

司会：川島緑（上智大学）

13:00-15:00 菅原由美（大阪大学）・茂木明石（上智大学）

「ミラージュ物語比較研究：Daud Patani版と Ahmad al-Dardir版の比較」

（発表言語 日本語）

15:15 - 17:30 Prof. Edwin Wieringa (University of Cologne, Germany;

Guest professor of ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies)

"Haji Adam's 1926 Malay Poem about the Prophet's Ascension: A Polemical Anti-Wahhabi
Defense of Traditionalist Islam" (In English)

コメント：青山亨（東京外国語大学）

⑫講演会"The Place and Role of Abdullah Bosnawi in the Quadrilingual Written Heritage of
Bosnia-Herzegovina in Oriental Languages"

日時：2016年3月8日（火）13:30-15:30

場所：上智大学四谷キャンパス2号館6階2-615A会議室

共催：SIAS/KIAS、上智大学アジア文化研究所、

科研費基盤B「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（代表：東長靖）

概要：今回の講演では、ボスニア出身の思想家ボスナヴィーの生涯についての新たな発見が示された。

それにとどまらず、アラビア語、オスマン語、ペルシア語、アラビア文字表記の4言語が併用されてきたボスニアにおける知的言語の使用状況や、ボスニア出身のオスマン朝知識人が帝国の中でどのような活躍し、同時に故郷であるボスニアとどのようにつながっていたのかについての解説など、当該地域のムスリム思想家・神秘家について現地出身者ならではの視点から多くの知見が得られた。同じくボスナヴィーを専門とする東長靖氏の他、多くの専門家が出席し、概論的な水準から高度に専門的な内容まで議論は広範囲に及んだ。

（赤堀雅幸）

プログラム：

Prof. Ahmed Zildzic (The University of Sarajevo)

"The Place and Role of Abdullah Bosnawi in the Quadrilingual Written Heritage of Bosnia-Herzegovina in Oriental Languages" (In English)

⑬講演会"Framing Islam/Muslims"

日時：2016年3月8日（火）16:00-18:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館6階2-615A会議室

共催：SIAS/KIAS、上智大学アジア文化研究所、

科研費基盤B「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（代表：東長靖）

概要：ムニール・ジワ氏は、米国におけるイスラーム観やムスリムが置かれた状況に関して人類学的な考察を施すことを専門として活発に活動している。今回の講演においては、社会学におけるフレーミング理論を援用して、多彩な角度からこの数年の新しい状況の展開について紹介、分析を加えていく内容であった。質疑応答も具体的な事象についてのものから、フレーミング理論適用の妥当性や人類学における認識と記述の限界をめぐるものまで多彩な話題についてなされ、また米国におけるイスラーム観に感心をもつ研究者以外の聴衆からの質問もなされた。

(赤堀雅幸)

プログラム：

Prof. Munir Jiwa (the Graduate Theological Union in Berkeley)

“Framing Islam/Muslims” (In English)

⑭講演会 “The Islamic Trend Movements in the Arab Region: Historical Trajectory and the Imperatives of Political Reality”

日時：2016年3月9日（水）17:30-19:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館5階 2-507 会議室

共催：上智大学・アジア文化研究所、上智大学・早稲田大学・大学間連携等による共同研究「アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状」研究会

概要：アルース氏は、本講演で、中東・北アフリカの紛争地におけるスンナ派イスラーム主義組織の構造とイデオロギーに関して、歴史的経緯を踏まえながらマクロな視点から概観した。アルース氏は、ムスリム同胞団のイデオロギーによる世代間分裂、成立当初は政治参加に消極的であったサラフィー主義組織が2011年の「アラブの春」以降、エジプトとチュニジアにおいて政党を結成し、直接政治に参加するようになった経緯と要因、そして現在シリアとイラクで伸長している「イスラーム国」がカリフ制に基づく国家建設を志向するようになった背景を解説した。

(斎藤秋生子)

プログラム：

Prof. Zoubir Arous (Algiers University)

“The Islamic Trend Movements in the Arab Region: Historical Trajectory and the Imperatives of Political Reality” (In English)

Discussant：Prof. Yoshiyuki Kitazawa (Kyoto Sangyo University)

⑮第2 回合宿研究会「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」

日時：2016年3月26日（土）～3月27日（日）

場所：私学共済の宿・敷島館（湯河原）

概要：『ムスリム同胞団の思想』下巻刊行に合わせて、編者である横田氏が、同書の同胞団研究における意義と重要性、今後の研究への貢献の可能性などを議論した。また、福永氏は同書に掲載された論考を基にバンナーの思想および主張内容を明らかにし、さらにその現代エジプトのムスリム同胞団の活動に対する影響を議論した。福永氏の発表に対して、バンナーの思想については、当時の文脈に照らし合わせて分析することが重要であるとの指摘がなされた。

(三代川寛子)

プログラム：

2016 年 3 月 26 日（土）

14:00-15:15 横田貴之（日本大学）「ハサン・バンナーの資料翻訳の意義と重要性について」

15:30-16:45 福永浩一（上智大学）「現代イスラーム主義運動におけるバンナー思想の影響力」

18:00-19:00 夕食

19:00-20:00 総合討論 1「イスラーム運動研究の現状と課題」

横田貴之（日本大学）、福永浩一（上智大学）、石黒大岳（アジア経済研究所）

高岡豊（中東調査会）、金谷美紗（中東調査会）、清水雅子（上智大学）

2016 年 3 月 27 日（日）

9:00-11:00 総合討論 2「イスラーム運動研究の今後の展望」

私市正年（上智大学）、横田貴之（日本大学）

3. 海外派遣・調査

(1) 拠点全体としての活動

なし

(2) 研究グループの活動

①モロッコでの調査、資料収集

出張期間：2015 年 9 月 15 日（火）～10 月 15 日（木）

出張先：モロッコ（王立図書館、ムハンマド 5 世大学、アハワイン大学）

出張者：白谷望（上智大学）

概要：本出張では主に、(1) 2011 年 11 月の国政選挙で政権を獲得したイスラーム主義政党「公正開発党」の政治運営の実態に関する調査と、(2) モロッコ王制の政治体制の安定性を支える要因の 1 つである宗教的・伝統的儀礼の実施状況に関する資料調査を行った。また、ムハンマド 5 世大学やアハワイン（al-Akhawayn）大学で、現地研究者との意見交換を行った。

（白谷望）

②トルコでの調査、資料収集

出張期間：2016 年 1 月 14 日（木）～1 月 21 日（木）

出張先：トルコ統計局、国立図書館、水利庁

出張者：荒井康一（上智大学）

概要：昨年 2 度の総選挙を経験し、テロ問題でも揺れるトルコにて、統計局、水利庁、国立図書館、古書店街などを訪問し、最新の状況について資料・情報収集を行った。収集したデータからは、マイノリティの票が与党から野党へかなり流れていたことが明らかになった。（荒井康一）

③イギリスでの調査、資料収集

出張期間：2015 年 3 月 11 日（金）～3 月 18 日（金）

出張先：イギリス（大英図書館、国立公文書館、ロンドン市内のモスク）

出張者：赤堀雅幸（上智大学）

概要：ロンドン中央モスク、ファズル・モスク、シャイフ・ニザーム・センター、イスマリーイー・センターなど、モスクおよびイスラーム関連の組織を訪問し、聞き取り調査を行った。また、大英図書館で文献調査を実施し、在英ムスリム、特にスーフィー団体の組織及び活動についてデータを収集した。

（赤堀雅幸）

④アルジェリアでの調査、資料収集

出張期間：2016 年 3 月 15 日（火）～3 月 24 日（木）

出張先：アルジェリア（アルジェ大学 CREAD、国立図書館）

出張者：私市正年（上智大学）

概要：アールス・ズビール教授と、アルジェリアのイスラーム運動に関する意見交換を行った。特にアラブ政変後のアルジェリアにおけるイスラーム政党の低調の背景に、1990 年代のテロリズムの広がりとそれに対する権力による徹底的弾圧がもたらした「社会の解体」と国民の「非政治化」という特殊な政治社会状況が横たわっているということを理解した。

アルジェ国立図書館にて、フアード・カーシミー氏の協力を得て、アルジェリア民族運動と民衆に関する資料、『ルーフ』紙の分析を行った。その結果、FLN 公式歴史観とは異なり、ザーウィヤの青年たちが早くから革命的民族運動の思想を身につけていたことが明らかになった。

（私市正年）

4.外国人研究者の招聘

(1)拠点全体としての活動

なし

(2)研究グループの活動

①ティエリー・ザルコンヌ氏およびアレクサンドル・パパス氏招聘

（国際会議参加および出版関連打ち合わせ）

所属（国籍）：フランス国立科学研究センター/CNRS（フランス）

期間：2015 年 9 月 17 日（木）～9 月 18 日（金）

活動概要：スーフィズム・聖者崇拜関連の英語論集に関する打ち合わせのため、

他の執筆者らと意見交換を行った。

（Thierry Zarcone, 三代川寛子）

②久志本裕子氏招聘（第4回東南アジア・キターブ比較研究国際ワークショップ）

所属（国籍）：マレーシア国際イスラーム大学言語マネジメント学部・助教（日本）

期間：2015年10月23日（金）～10月28日（水）

活動概要：10月25日に上智大学イスラーム研究センター主催のワークショップ「第4回東南アジア・キターブ比較研究国際ワークショップ：マレー写本と前イスラーム期ジャワ図像学にみる来世と超自然の観念」にて、“Description of the Day of Judgement and the Prophet’s Intercession in Malay Manuscripts: al-Raniri’s ‘Akhbar Akhirah’ and Related Texts”の題目で研究成果を報告した。

（久志本裕子）

5.資料収集

これまでの東南アジア・キターブ研究を継続し、ジャウィ文字で書かれたイスラーム書である「キターブ」のに関する研究書の整理を行った。また、これまで収集した東南アジア全域にわたって流通するキターブを用いて、東南アジアにおけるイスラーム・ネットワークの研究を進めるとともに、上智大学中央図書館にキターブ・コレクションを設け、蔵書をカタログ化することにより、東南アジア・キターブの研究拠点の形成を進めた。

また、以前から継続して行っているスーフィズム関連の研究書、学術雑誌の収集も進めた。

主要な資料は次のとおり。

①資料名 レバノンのイスラーム主義思想に関する翻訳書

- ・形態：刊本
- ・冊数：12冊
- ・資料内容：アラビア語で書かれたイスラーム主義思想の和訳
- ・収集目的：イスラーム主義組織の思想、活動指針の在り方を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市ヶ谷キャンパス研究棟5階511号室）
- ・収集方法：株式会社現代思潮新社より直接購入
- ・収集期間：2015年4月16日

②資料名 キターブ資料

- ・形態：刊本
- ・冊数：1冊

- ・資料内容：17 世紀のアチェで執筆された普遍史の第 1 巻
- ・収集目的：17 世紀の東南アジアにおけるイスラーム的歴史観を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学アジア文化研究所図書室（中央図書館 6 階 L-612 号室）
- ・収集方法：株式会社穂高書店を通して購入
- ・収集期間：2015 年 6 月 29 日

③資料名 スーフィズム関連学術雑誌、研究書

- ・形態：刊本
- ・冊数：16 冊
- ・資料内容：スーフィズム・聖者信仰・神秘主義関連
- ・収集目的：スーフィズム関連の研究の最新の動向を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市ヶ谷キャンパス研究棟 5 階 511 号室）
- ・収集方法：有限会社 Book House Network 通して購入
- ・収集期間：2015 年 7 月 15 日、10 月 28 日、11 月 25 日、12 月 18 日、
2016 年 2 月 24 日、3 月 7 日

6.研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔図書〕計（2）件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
小林寧子（編著） （研究分担者）	『アジアのムスリムと近代（3）— 植民地末期の出版物から見た思想状 況—』 (SIAS Working Paper Series No. 26)	上智大学イスラ ム研究センター	26	2016	108
Yumi Sugahara (ed.) （拠点構成員）	<i>Comparative Study of Southeast Asian Kitabs (4): Local and Global Dynamism in Transformation of Islamic Tales.</i> (SIAS Working Paper Series No. 27)	上智大学イスラ ム研究センター	27	2016	110

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（43）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
私市正年 （拠点代表）	「イスラーム急進派をめぐる政治地理 学的変化—中東・北アフリカ・サハラ 地域が直面するあらたなテロリズム」	『サハラ地域にお けるイスラーム急 進派の活動と資源 紛争の研究—中東 諸国とグローバ ル アクターとの相互 連関の視座から —』		2015	1-14
	「開発援助と市民社会」	平成27年度外務 省ODA評価『モ ロッコ国別評価 （第三者評価）報 告書』		2016	123-127
川島 緑 （研究分担者）	「東南アジア・キターブ・コレクショ ン」	『上智アジア学』	33	2015	157-162
デイル・F・アイ ケルマン著、 赤堀雅幸（訳） （研究分担者）	「大塚和夫の人と学問」	『社会人類学年 報』	41	2015	99-114
Fumiko Sawae （研究分担者）	“Post-Islamist Advocacy on Gender in Turkey: The Capital City Women’s Platform”	Susumu Nejima ed., <i>NGOs in the Muslim World: Faith and Social Services</i> . Routledge		2015	87-101
澤江史子 （研究分担者）	「ポスト世俗主義とポスト・イスラム 主義の時代のトルコ」	『現代宗教2016』		2016	ウェブ上に公開 19 p.
三代川寛子 （研究分担者）	「20世紀初頭におけるコプト・キリス ト教徒のファラオ主義とコプト語復興 運動—イクラウディユース・ラビーブ の『アイン・シャムス』の分析を中心 に—」	『オリエント』	58-2	2016/3	印刷中

横田貴之 (研究分担者)	「エジプト・ムスリム同胞団の「挫折」—ポスト・イスラーム主義からの一考察」	『国際安全保障』	43-3	2015	29-42
	「スィーサー政権下のエジプトの諸課題—治安回復で高い支持率を得るも、経済・財政政策に不安」	『インテリジェンス・レポート』	79	2015	39-48
小林寧子 (研究分担者)	「第33回ナフダトゥル・ウラマー全国大会：総裁選出方法をめぐる対立」	『アジア・アフリカ地域研究』	15-1	2015/11	71-93
北澤義之 (拠点構成員)	「極端なイスラム解釈が目立つ—ISISは何を目指すのか—」	政策研究フォーラム『改革者』	56-4 通巻 657号	2015/4	26-29
Yumi Sugahara (ed) (拠点構成員)	“17 Aceh, 1764 Mirat al-tullab” “19 Aceh, 1783 Hidayat al-salikin” “31 Pontianak, 1816 Hikayat Banjar”	<i>Indonesia and the Malay World. "A Jawi sourcebook for the study of Malay paleography and orthography"</i>	43 (125)	2015	p.72, p.76, p.100
見市建 (拠点構成員)	「ユドヨノの保守的宗教政策とジョコウィ政権における変化」	『アジ研ワールド・トレンド』	241	2015	11-23
	「イスラームと政治—ユドヨノ期の「保守化」とジョコウィ政権の課題」	川村晃一編『新興民主主義大国インドネシア—ユドヨノ政権の10年とジョコウィ大統領の誕生』アジア経済研究所		2015	
	「ジャカルタ・テロ事件のインパクト」	『東亜』	585	2016	
川村晃一・見市建 (拠点構成員)	「大統領選挙—庶民派对エリートの大激戦」	川村晃一編『新興民主主義大国インドネシア—ユドヨノ政権の10年とジョコウィ大統領の誕生』アジア経済研究所		2015	
Ken Miichi (拠点構成員)	“Democratization and the Changing Role of Civil Society in Indonesia”	Middle East Institute		2015	ウェブ上に公開
Nobuo Misawa (拠点構成員)	“I. Dünya Savaşı’ndan Sonraki Türkiye-Japonya İlişkileri: Ege Denizi’ndeki HEİMEİ-MARU Olayı (1921)”	XVI. <i>Türk Tarih Kongresi, Kongreye Sunulan Bildiriler</i>	vol.5	2015	121-127
	“Shintoïsme et Islam au Japon de l’entre-deux-guerres: Comment est-ce que des japonais en sont-ils venus à croire en l’Islam?”	<i>Mediterranean World</i>	22	2015	43-64
三沢伸生 (拠点構成員)	「20世紀前半のイスタンブールにおける日本軍部の活動」	『東洋大学社会学部紀要』	53-1	2015	21-34
	「戦間期のイスタンブールにおける日本の経済活動(7完):コンスタンチノーブル日本商品館(イスタンブール日本商品館)に関する研究」	『東洋大学アジア文化研究所研究年報』	50	2016	201-221
Kazuo Morimoto (拠点構成員)	“Tadwin, al-”	E. Yarshater (ed.), <i>Encyclopaedia Iranica</i> .		2016/1	ウェブ上に公開

石黒大岳 (研究協力者)	「サウジアラビアの後継問題と統治構造の変化」	『中東研究』	523	2015	11-21
今井真士 (研究協力者)	「比較政治学における歴史的制度論・比較歴史分析の着想の発展：科学哲学的基礎の模索から論理学的基礎の探求へ」	『文教大学国際学部紀要』	26-1	2015/7	17-32
	「エジプト第三共和政の政党政治の展開：権威主義体制下の憲法構造の再構築と政治的分極化の再編」	『法学研究』 (慶應義塾大学法学部)	89-3	2016/3	印刷中
岩坂将充 (研究協力者)	「トルコにおける政軍関係の変容—軍の権益の段階的縮小と今後の展望」	『中東研究』	524	2015	32-40
Masamichi Iwasaka (研究協力者)	“A Turkish Model of Civilianization?: The Recent Development of Democracy in Turkey”	İdiris Danişmaz (ed). <i>The Turkish Model: Reality and Applicability</i> (Graduate School of Global Studies, Doshisha University)		2015	29-43
幸加木文 (研究協力者)	「書評と紹介 秋葉淳・橋本伸也編『近代・イスラームの教育社会史—オスマン帝国からの展望』 昭和堂, 2014 年 11 月 25 日, 320 頁」	『イスラーム世界』	84	2015/10	61-70
小村明子 (研究協力者)	「日本における外来宗教の土着化についての考察：日本イスラーム教団の「大乘イスラーム」の思想を例にして」	『国際行動学研究』	10	2015/10	97-116
	「日本とイスラーム—相互理解をめざして」	『一冊の本』 朝日新聞出版	2 月号	2016/2	45-47
小村明子 (研究協力者)	「日本人のイスラーム受容—日本イスラーム教団と「大乘イスラーム」について」	『宗教と現代がわかる本 2016』 平凡社		2016/3	印刷中
齋藤秋生子 (研究協力者)	「リビアの「イスラーム国」」	『季刊アラブ』	153	2015	24
鈴木啓之 (研究協力者)	「書評 Larbi Sadiki ed., <i>Routledge Handbook of the Arab Spring: Rethinking Democratization</i> 」	『アジア・アフリカ研究』	55-3	2015	89-91
	「中東和平と西岸・ガザ地区：暫定自治区設立による「パレスチナ人」の限定化」	『アジア地域文化研究』	11	2015	216-232
高橋雅英 (研究協力者)	「油価下落に直面するアルジェリア—レント収入の再分配政策の継続性」	『中東研究』	524	2015	52-62
Yo Nonaka (研究協力者)	“Islamic Novels: Popularizing Islamic Values”	Aiko Kurasawa and William Bradley Horton (eds). <i>Consuming Indonesia: Consumption in Indonesia in the Early 21st Century</i> . Jakarta: Gramedia		2015	193-215
山本沙希 (研究協力者)	「現代アルジェリアにおける家内労働と女性—手工芸分野の内職を通じた伝統的役割の検討」	『人間文化論叢』 (お茶の水女子大学紀要)	18	2016/3	165-173
Yuki Shiozaki (研究協力者)	“The Historical Origins of Control over Deviant Groups in Malaysia: Official Fatwā and Regulation of Interpretation”	<i>Studia Islamika</i>	22	2015	205-232

塩谷もも (研究協力者)	「インドネシアにおけるバティック布 の現状とアイデンティティ」	『研究紀要』 (島根県立大学短期 大学部松江キャン パス)	53	2016	51-61
岡戸真幸 (研究協力者)	「エジプト都市部で同郷者団体が果た す役割と意義：アレクサンドリアのソ ハグ県同郷者団体の事例から」	『日本中東学会年 報』	31-1	2015	29-62
サイイド・ホセ イン・ナスル著、 澤井真 (訳) (研究協力者)	「井筒俊彦の思い出」	『井筒俊彦全集』 慶応義塾大学出版 会	11	2015	1-6
高尾賢一郎 (研究協力者)	「ヒスバ」から見る「イスラーム国」 の統治」	『中東研究』	523	2015	90-100
	「サウジアラビアにおけるヒスバの継 承と展開——勸善懲惡委員会を事例 に」	『イスラム世界』	83	2015	31-58

〔図書〕計 (6) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
私市正年 (監修) (拠点代表)	『イラスト図解イスラム世界』	日東書院		2015	223 p.
Midori Kawashima, Kazuhiro Arai, Oman Fathurahman, Akashi Moteki, Ervan Nurtawab, Yumi Sugahara and Ayumi Yanagiya (eds) (研究分担者、 研究協力者)	<i>A Provisional Catalogue of Southeast Asian Kitabs of Sophia University (Second version).</i> URL: http://dept.sophia.ac.jp/ is/iac/en/library_info/collection/	Institute of Asian Cultures- Center for Islamic Studies, Sophia University		2015	ウェブ上に公開
小村明子 (研究協力者)	『日本とイスラームが会合うと き：その歴史と可能性』	現代書館		2015/6	316 p.
野中葉 (研究協力者)	『インドネシアのムスリムファッション —なぜイスラームの女性たちのヴェ ールはカラフルになったのか』	福村出版		2015	248 p.
小河久志 (研究協力者)	『「正しい」イスラームをめぐるダイ ナミズム』	大阪大学出版 会		2016/2	260 p.
塩崎悠輝 (編) (研究協力者)	<i>Education for Muslim Children in the Japanese Society</i>	International Institute of Islamic Thought (IIIT) East Asia	1	2015	143 p.

〔翻訳〕計 (1) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
デイリー・ガーツ & ジェイムズ・マ ホニー (共訳：西 川賢・今井真土) (研究協力者)	『社会科学のパラダイム論争：2 つ の文化の物語』	勁草書房		2015	314 p.

〔学会発表〕計（ 53 ）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
Midori Kawashima (研究分担者)	「ミンダナオからマッカへ 一写本からみるイスラーム 学者の旅」	日本イスラム協会 公開講演会	2016/1/30	東京大学
赤堀雅幸 (研究分担者)	「エジプト西部砂漠のベドウ インにみる血讐と名誉殺人― 名誉に基づく暴力の行使・抑 止・和解」	日本文化人類学会 第 49 回研究大会	2015/5/31	大阪国際交流セン ター
	「在英米ムスリムの経済活動 をめぐる聞き取り調査報告」	東京外国語大学ア ジア・アフリカ言語 文化研究所「イスラ ームに基づく経済 活動・行為」共同利 用・共同研究課題研 究会	2015/6/7	東京外国語大学ア ジア・アフリカ言 語文化研究所
	「中東の『部族主義』と人類 学の『部族』概念再考」	東北大学大学院環 境科学研究科特別 講演	2015/7/14	東北大学
Masato Toriya (研究分担者)	“Indian Muslims and Russia in the 1910s and 1920s: The Case of Zafar Hasan Āibak’s ‘Āp Bīṭī”	Slavic Eurasian Research Center 2015 Summer International Symposium, (Junior Scholars’ Session)	2015/7/29	北海道大学スラ ブ・ユーラシア研 究センター
	“The Political Situation and Social Trends of Pashtun in Afghanistan and Pakistan”	NIHU Program “IAS-INDAS South Asia and Islam Joint Research Project” 2015 International Workshop	2015/10/1	京都大学
登利谷正人 (研究分担者)	「2015 年のアフガニスタン 動向」	アジア動向年報研 究会	2015/12/4	日本貿易振興会 (ジェトロ) アジ ア経済研究所
Hiroko Miyokawa (研究分担者)	“Modern Sons of Pharaohs? Racism, Pharaonism, and the Copts in Early Twentieth-Century Egypt”	American Academy of Religion Annual Meeting	2015/11/21	Atlanta, USA
	“The Establishment of the Coptic Museum and its Nationalization”	International Workshop “Vulnerability and Resilience: Ecology of Non-Dominant Groups in the Middle East” organized by the University of Tokyo Centre for Middle Eastern Studies	2016/3/10	JaCMES, Beirut, Lebanon
三代川寛子 (研究分担者)	「コプト博物館に見るコプ ト・キリスト教徒の宗教文化 とナショナル・アイデンティ ティ」	コプト・イスラーム 物質文化研究会第 7 回研究会	2016/2/20	国士舘大学

横田貴之 (研究分担者)	「エジプトにおける2つの「革命」と社会運動—制度外政治の「制度化」に関する一考察」	日本比較政治学会	2015/06/28	上智大学
	「「アラブの春」後のエジプトにおけるイスラーム主義運動」	国際安全保障学会	2015/12/05	慶應義塾大学
小林寧子 (研究分担者)	「第33回ナフダトゥル・ウラマー全国大会：総裁選出方法をめぐる対立」	第94回東南アジア学会研究大会	2015/12/5	早稲田大学
Yutaka Takaoka (拠点構成員)	“Regime Survival and the People’s Council in Syria”	Syria: Moving Beyond the Stalemate	2015/07/01	Centre for Syrian Studies, University of St Andrews
	“Observations on the Mechanism of Mobilizing Resources in the Islamic State”	Symposium “Japan-Turkey Dialogue on World Affairs”	2016/3/1	Center for Middle Eastern Strategic Studies (ORSAM), Ankara, Turkey
高岡豊 (拠点構成員)、 溝渕正季 (研究協力者)	「なぜ彼らはジハードに向かうのか？—欧州在住アラブ系移民・難民と外国人戦闘員問題—」	日本政治学会 2015 年研究大会	2015/10/10	千葉大学
菅原由美 (拠点構成員)	「ジャワの19世紀をどう記述するか—写本に見るインドネシアのイスラーム潮流」	東南アジア史学会賞受賞記念講演	2015/5/30	愛媛大学
	「東南アジア島嶼部におけるイスラーム化の進展と伝統の創出—ミラージュ物語を題材に」	日本イスラーム協会講演会	2016/1/30	東京大学
Ken Miichi (拠点構成員)	“The Politics of Decentralization and Role of Accountabilities in Indonesia”	Association for Asian Studies (AAS)	2015/6/23	Taipei, Taiwan
	“Politics of Accountability in Indonesia: A Case of Jakartan Governorship”	Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA)	2015/12/12	Kyoto
Nobuo Misawa (拠点構成員)	“Japonya’daki Abdürreşid İbrahim’in İzleri: Yeni bulunmuş olan Kaynaklar”	III. Uluslararası Abdürreşid İbrahim Sempozyumu: Geçmişten Günümüze Rusya Müslümanları ve Matbuat Hareketleri	2015/6/27	Казанский федеральный университет (=Kazan Federal University), Kazan, Russia
	“Ertuğrul Mürettebatının Japonya’ daki Hareketleri”	Uluslararası Ertuğrul’un İzinde Deniz Kuvvetleri ve Diplomasi Sempozyumu	2015/9/16	Deniz Müzaesi (=Maritime Museum), İstanbul, Turkey
Kazuo Morimoto (拠点構成員)	“Jāyghā-i Sabzawār dar ‘shabaka-i Shi‘iyyān-i Dawāzda Imāmī dar Dawra-i Pīshīn-i Taymūrī” (ティムール朝前期の十二イマーム派ネットワークにおけるサブザヴァールの位置づけ) 特別招待講演	Kungra-i Baynul-milālī-yi Sarbadārān (サルベダール運動国際会議)	2015/12/17	ハキーム・サブザヴァーリー大学 (イラン, サブザヴァール市)

	“Jadhdhābiyat-i pazhūhish-hā-yi tārikhī: Chegūna yāfta-hā-yi juz'ī u parākanda dar bāzsāzi-yi tārikhī ahammīyat mī yāband?” (歴史研究の魅力：断片的発見から歴史の再構築へ)	マシュハド大学人文学部 招待講演シリーズ	2015/12/20	マシュハド大学 (イラン、マシュハド市)
石黒大岳 (研究協力者)	「議会政治がもたらす正統性の不安定な平衡状態：クウェートにおける分配政治と皇太子承認をめぐる政治力学」	日本比較政治学会	2015/6/28	上智大学
石黒大岳 (研究協力者)	「レンティア国家における政治参加はガバナンスの向上をもたらすか：中東湾岸諸国における腐敗防止と議会・司法の役割」	日本政治学会	2015/10/11	千葉大学
今井真士 (研究協力者)	「『アラブの春』の比較歴史分析の再検討」	日本比較政治学会	2015/6/27	上智大学
岩坂将充 (研究協力者)	「『アラブの春』後のトルコ安定した『民主国家』をめぐる不安定な『同盟』」 (企画セッション『アラブの春』からダーイシュ台頭へ)」	日本中東学会 第 31 回年次大会	2015/5/17	同志社大学 今出川校地
小村明子 (研究協力者)	「非ムスリムの日本人によるイスラームのイメージとその理解についての考察」	異文化コミュニケーション学会	2015/9/19	桜美林大学 町田キャンパス
	「日本とイスラームとの関係から見る日本人の宗教性についての一考察：日本のイスラームにおける課題を通して見る日本」	国際行動学会 第 12 回年次大会 シンポジウム	2015/10/24	明治大学 駿河台キャンパス
	「日本人はいかにしてイスラームを理解していくのかームスリム観光客に対するビジネスから見る日本人のイスラーム理解」	国際行動学会 第 12 回年次大会	2015/10/25	明治大学 駿河台キャンパス
齋藤秋生子 (研究協力者)	「カッザーフィー政権期リビアにおける部族政策ー『緑の書』出版前後を中心にー」	東京外国語大学アジア・アフリカ研究所中東☆イスラーム教育セミナー	2015/9	東京外国語大学
Hiroyuki Suzuki (研究協力者)	“Palestinians and the State: A Historical Review Considering Regional and Actor-Based Contexts”	The 14th Middle East Technical University (METU) Conference on International Relations, Area Studies and International Relations: Intersecting Dimensions.	2015/6/17	Middle East Technical University, Ankara, Turkey
高橋雅英 (研究協力者)	「アルジェリア・ブーテフリカ政権の炭化水素政策ー2005年炭化水素法案を中心に」	日本中東学会 第 31 回年次大会	2015/5/17	同志社大学
田中友紀 (研究協力者)	「リビア・カッザーフィー体制存続における革命指導評議会の役割とその変容」	日本中東学会 第 31 回年次大会	2015/5/17	同志社大学

飛内悠子 (研究協力者)	「北部ウガンダにおけるキリスト教信仰覚醒運動の歴史と現状」	日本ナイル・エチオピア学会 第 24 回学術大会	2015/4/19	藤女子大学
	「帰還民の生活誌：南スーダン共和国カジョケジ郡におけるククの人びとと聖公会」	日本文化人類学会 次世代セミナー	2015/11/7	東京外国語大学
	「信仰を改める「ルーツ」について：北部ウガンダ、アジユマニ県における超教派的キリスト教礼拝集会」	武蔵野アフリカ研究会	2015/12/11	津田塾大学
	「移動から生まれるローカル性：南スーダン独立後におけるハルツームのイメージを巡って」	地域研究コンソーシアム次世代セミナー	2015/12/18	東京外国語大学
	「見出される差異と結びつき：現代ハルツームを生きるキリスト教徒」	CIAS 共同研究「メディアを巡るウチとソト」研究会	2015/12/23	姫路市高木総合センター
福永浩一 (研究協力者)	「王政期エジプトにおけるイスラーム復興運動の組織化の考察」	日本オリエント学会第 57 回大会	2015/10/18	北海道大学
山本沙希 (研究協力者)	「アルジェリアにおける家内労働と共同販売—手工芸職人ネットワークを事例として」	国際開発学会	2015/11/29	新潟大学
小河久志 (研究協力者)	「宗教領域にみるインド洋津波災害」	日本文化人類学会 課題研究懇談会「危機の克服と地域コミュニティ」第 10 回研究会	2015/10/31	名古屋大学
	「宗教団体の支援活動が生み出す新たな関係性」	国立民族学博物館 共同研究「宗教の開発実践と公共性に関する人類学的研究」第 8 回研究会	2016/1/23	国立民族学博物館
Hisashi Ogawa (研究協力者)	“Expansion and Control: Islamic Basic Education in Thailand under the Multicultural Circumstances”	The 9th International Convention of Asia Scholars	2015/7/7	Adelaide Convention Centre, Australia
Yuki Shiozaki (研究協力者)	“History of Islamic Studies in Japan and Islamization of Knowledge”	International Conference on Islamization and Integration of Knowledge in East and SEA Region: Challenges and Prospects	2016/2/1	Universitas Islam Negeri Ar- Raniry, Banda Aceh, Indonesia
山口元樹 (研究協力者)	「東インドにおけるアラブ系住民と社会統合：インドネシア・アラブ人協会によるイスラーム主義とナショナリズムの融合」	立教大学アジア地域研究所「21 世紀海城学の創成」プロジェクト主催公開シンポジウム 「近世から近現代にいたる海城社会の社会統合：外来系住民と現地社会」	2015/4/25	立教大学

山口元樹 (研究協力者)	「インドネシアのアラブ系団体イルシャードの変容：国民国家の形成とホスト社会への適応」	上智大学グローバル・スタディーズ研究科、大学院生・次世代研究者によるワークショップ・シンポジウムシリーズ「グローバル化時代における人々の移動とコミュニティ：その制約と適応戦略」	2015/12/19	上智大学
岡戸真幸 (研究協力者)	「個人基点の多場所型ネットワークの構築：エジプトからクウェートへの出稼ぎ者の事例から」	日本文化人類学会第49回年次大会	2015/5/30	大阪国際交流センター
	「カナダのアラブ系移民に関する予備考察：エジプト人移民を中心に」	日本中東学会第31回年次大会	2015/5/17	同志社大学
澤井真 (研究協力者)	「『イスラーム神秘主義』概念の成立過程」	印度学宗教学会第57回学術大会	2015/5/31	東北大学
	「イスラームにおける聖者—イブンアラビーの完全人間論から」	日本宗教学会第74回学術大会	2015/9/6	創価大学
Makoto Sawai (研究協力者)	“The Meaning of Adam in Ibn ‘Arabi’s Theory of the Oneness of Existence”	The 21st World Congress of the Association for the History of Religions	2015/8/28	Erfurt University, Germany

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 イスラーム地域研究センター

代表：東長靖（京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム世界の国際組織』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
東長 靖	イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	研究拠点代表 「広域タリカ」研究班責任者 (スーフィズム思想研究)
岡本 正明	イスラーム地域研究センター研究員、東南アジア研究所・准教授	東南アジアコーディネーター
帯谷 知可	イスラーム地域研究センター研究員、地域研究統合情報センター・准教授	中央アジアコーディネーター
小杉 泰	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班責任者 (イスラーム法、イスラーム学、現代中東政治)
山根 聡	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学大学院言語文化研究科・教授、京都大学・非常勤講師	南アジア・コーディネーター・「国際関係」研究班責任者 (南アジアのイスラーム文化、ウルドゥー文学)
石田 友梨	早稲田大学アジア太平洋研究センター 特任助教	「広域タリカ」研究班研究協力者 (イスラーム改革思想)
今井 静	イスラーム地域研究センター研究員、立命館大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (現代ヨルダン研究)
川村 藍	イスラーム地域研究センター研究員、京都大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム法学、イスラーム金融論)
黒田 賢治	イスラーム地域研究センター研究員、立命館大学非常勤講師	「国際関係」研究班研究協力者 (イラン、シーア派、北米)
末近 浩太	イスラーム地域研究センター研究員、立命館大学国際関係学部・教授	「国際関係」研究班研究分担者 (中東地域研究、国際政治学、比較政治学)
須永恵美子	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (南アジアのイスラーム)
竹田 敏之	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・非常勤講師/特任研究員	「国際関係」研究班研究協力者 (アラビア語学、現代アラブ文化)
千葉 悠志	イスラーム地域研究センター研究員、東京大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (中東メディア論、国際コミュニケーション論、現代メディア論)

所 木綿子	イスラーム地域研究センター研究員、東京外国語大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「広域タリーカ」研究班研究協力者 (北アフリカのイスラーム思想)
飛奈 裕美	イスラーム地域研究センター研究員、京都大学学際融合教育研究推進センター(人間の安全保障開発連携教育ユニット)・特定講師	「国際関係」研究班研究協力者 (パレスチナ研究)
長岡 慎介	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究分担者 (イスラーム金融、イスラーム経済論)
子島 進	イスラーム地域研究センター研究員、東洋大学国際地域学部・准教授	南アジアコーディネーター
萩原 淳	イスラーム地域研究センター研究員	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (湾岸諸国のエネルギー経済)
平野 淳一	イスラーム地域研究センター研究員	「国際関係」研究班研究協力者 (近代イスラーム政治思想)
藤井 千晶	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・助教	「広域タリーカ」研究班研究協力者 (東アフリカにおけるイスラーム知識人)
堀抜 功二	イスラーム地域研究センター研究員、一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究員 (東京大学拠点研究協力者)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (湾岸アラブ諸国の政治・社会動態の研究)
丸山 大介	イスラーム地域研究センター研究員、防衛大学校人文社会科学群人間文化学科・准教授	「広域タリーカ」研究班研究協力者 (イスラームの聖者論と聖者信仰)
安田 慎	イスラーム地域研究センター研究員、帝京大学経済学部観光経営学科・講師	「広域タリーカ」研究班研究協力者 (中東地域研究、イスラミック・ツーリズム、中東観光史)
山尾 大	イスラーム地域研究センター研究員、九州大学大学院比較社会文化研究院・准教授	「国際関係」研究班研究協力者 (イラク政治、中東政治、比較政治学)
山尾 博子	イスラーム地域研究センター研究員、九州大学日本エジプト科学技術連携センター 学術研究員	「広域タリーカ」研究班研究協力者 (東南アジアと中東のネットワーク)
イディリス・ダニシマズ	イスラーム地域研究センター研究員、同志社大学高等研究教育機構高等教育院・助教	「広域タリーカ」研究班研究協力者 (イスラーム思想、イスラーム地域研究)
ムハンマド・ハーキミー	イスラーム地域研究センター研究員、マレーシア国民大学経済学部・上級講師	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム農業経済)
メフブーブ・ウル=ハッサン	イスラーム地域研究センター研究員、国際イスラーム大学客員・教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム経済・金融、開発経済)
今松 泰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授	「広域タリーカ」研究班研究分担者 (オスマン朝史/宗教史・文化史)

研究グループ：「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
東 長 靖	イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	研究グループ代表 「広域タリーカ」研究班責任者 (スーフィズム思想研究)
小 杉 泰	京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班責任者 (イスラーム法、イスラーム学、現代中東政治)
末 近 浩太	立命館大学国際関係学部・教授	「国際関係」研究班の研究分担者 (中東地域研究、国際政治学、比較政治学)
長 岡 慎介	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者 (イスラーム金融論、イスラーム経済学)
濱 田 正美	龍谷大学文学部・特別任用教授	「広域タリーカ」研究班の研究分担者 (東洋史)
保 坂 修司	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究理事	「国際関係」研究班の研究分担者 (湾岸地域近現代史)
森 伸生	拓殖大学海外事情研究所・教授、同大イスラーム研究所・所長	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者 (イスラーム法)
山 根 聡	大阪大学大学院言語文化研究科・教授、京都大学・非常勤講師	南アジア・コーディネーター・「国際関係」研究班責任者 (ウルドゥー語学、文学、南アジアにおけるイスラーム文化)
今 松 泰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授	「広域タリーカ」研究班の研究分担者 (オスマン朝史/宗教史・文化史)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担 当 研 究 テー マ
ティエリ・ザルコンヌ	フランス国立科学研究センター・主任研究員	海外協力者、「広域タリーカ」研究班の研究分担者
トゥリア・ガイバス	ブレーズパスカル大学・准教授	海外協力者、「国際関係」研究班の研究分担者
メフメット・アシュタイ	英ダラム大学・上級講師	海外協力者、「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
池端 露子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「国際関係」研究班研究協力者、中東地域における政治・思想の研究
石黒 大岳	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター・研究員 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、比較政治学、クウェート、バーレーン
伊藤 寛了	東京外国語大学外国語学部・非常勤講師/(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部業務課	「国際関係」研究班研究協力者、トルコ近現代史、トルコ地域研究
今井 静	立命館大学・日本学術振興会特別研究員 (PD) / 客員協力研究員	「国際関係」研究班研究協力者、現代ヨルダン研究
小倉 智史	京都大学文学研究科 日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者、カシミール地方の歴史
小田 尚也	立命館大学政策科学部・教授	「国際関係」研究班研究協力者、開発経済・南アジア地域研究
吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部・准教授 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、比較政治学、国際政治学、中東地域研究
黒崎 卓	一橋大学経済研究所・教授	「国際関係」研究班研究協力者、開発経済・南アジア (パキスタン) 経済
黒田 景子	鹿児島大学法文学部・教授	「国際関係」研究班研究協力者、南タイ・北部マレーシアにおけるタイ語話者ムスリム居住地域の歴史研究
黒田 賢治	立命館大学・非常勤講師	「国際関係」研究班研究協力者、イラン、シーア派、北米
幸加木 文	東京外国語大学大学院地域文化研究科・博士後期課程	「国際関係」研究班研究協力者、地域研究 (トルコ)
佐々木拓雄	久留米大学法学部・准教授	「国際関係」研究班研究協力者、インドネシア・イスラーム研究
澤江 史子	東北大学大学院国際文化研究科・准教授 (東京大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、トルコ現代政治
須永恵美子	大阪大学・日本学術振興会特別研究員 (PD)	「国際関係」研究班研究協力者、南アジアのイスラーム
竹田 敏之	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・非常勤講師/特任研究員	「国際関係」研究班研究協力者、アラビア語学・現代アラブ文化

多和田裕司	大阪市立大学大学院文学研究科・教授	「国際関係」研究班研究協力者、文化人類学、マレーシア地域研究、東南アジア研究
千葉 悠志	東京大学人文社会系研究科・日本学術振興会特別研究員（PD）	「国際関係」研究班研究協力者、中東メディア論、国際コミュニケーション論、現代メディア史
飛奈 裕美	京都大学学際融合教育研究推進センター(人間の安全保障開発連携教育ユニット)・特定講師	「国際関係」研究班研究協力者、パレスチナ問題
西野 正巳	防衛省防衛研究所研究部・主任研究官	「国際関係」研究班研究協力者、近現代政治思想
野中 葉	慶応義塾大学 SFC 研究所・上席所員（訪問）、同大学総合政策学部・非常勤講師（上智大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、現代インドネシア研究
平野 淳一	千葉大学大学院社会文化研究科（早稲田大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、近代イスラーム政治思想
樋口 征治	中東調査会・嘱託	「国際関係」研究班研究協力者、中東の政治と社会
松村 耕光	大阪大学言語文化研究科・教授	「国際関係」研究班研究協力者、ウルドゥー文学、イクバル研究
萬宮 健策	東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授	「国際関係」研究班研究協力者、シンディ語、パキスタン・アフガニスタン情勢
宮坂 直史	防衛大学校国際関係学科・教授	「国際関係」研究班研究協力者、安全保障政策論
村中 美菜子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	国際関係」研究班研究協力者、シリア内戦と中東国際関係
山尾 大	九州大学大学院比較社会文化研究院・准教授	「国際関係」研究班研究協力者、現代イラク政治、中東地域研究
山本 健介	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「国際関係」研究班研究協力者 イスラエル・パレスチナ紛争
渡邊 駿	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「国際関係」研究班研究協力者 中東政治
イディリス・ダニシマズ	同志社大学高等研究教育機構高等教育院・助教（上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、スーフィズム、スーフィーによるクルアーン解釈
外川 昌彦	広島大学大学院国際関係協力研究科・准教授（上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、文化人類学（南アジアのイスラーム研究）
石田 友梨	早稲田大学アジア太平洋研究センター 特任助教（上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史

上野 愛美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、トルコ・タリカ研究
内山 明子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イラン・イマームザーデ研究
遠藤 春香	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院・研究生 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
岡戸 真幸	上智大学グローバルスタディーズ研究科・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、地域研究、文化人類学、社会的ネットワーク論、移動
加藤 瑞絵	上智大学・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
鎌田 繁	東京大学東洋文化研究所・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、シーア派イスラーム思想
荻谷 康太	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、西アフリカのイスラーム
川本 正知	奈良産業大学地域公共総合研究所・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中央アジア史
後藤 明	東京大学・名誉教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、前近代聖者信仰
小牧 幸代	高崎経済大学地域政策学部・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、社会人類学(南アジア・ムスリム社会)
斎藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、近現代における政治・社会思想の形成と動態
坂井 信三	南山大学人文学部・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、西アフリカのイスラーム
澤井 真	東北大学大学院文学研究科・博士後期課程 カイロ・アメリカン大学大学院・修士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、宗教学・初期スーフィズム、神秘主義方法論
塩崎 裕子	上智大学外国語学部・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、文化人類学・マレー世界におけるイスラーム的知の伝達
篠田 知暁	名古屋大学・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、シャリーフ王朝期モロッコにおける諸社会集団の形成と変容

高尾賢一郎	一般財団法人中東協力センター、上智大学アジア文化研究所・共同研究員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代シリアにおけるシャイフ・アフマド・クフターローのイスラーム理解、スーフィズム思想
所（析掘） 木綿子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・日本学術振興会特別研究員（PD） (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、マグレブにおける近代とスーフィズム
飛内 悠子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻・博士課程 日本学術振興会特別研究員（DC） (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、人類学・スーダン国内避難民北部スーダンの教育人類学
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、東洋史、中国イスラーム史
仁子 寿晴	関西学院大学・非常勤講師、同志社大学・非常勤講師、立命館大学・非常勤講師、関西大学・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム哲学、倫理学
二宮 文子	青山学院大学・准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、インド・イスラーム史
藤井 千晶	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 助教（上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、東アフリカにおけるイスラーム知識人
二ツ山達朗	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、北アフリカ聖者・タリカ研究
松田 和憲	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「広域タリカ」研究班研究協力者、19世紀南アジアにおけるスーフィズム・タリカ
丸山 大介	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・日本学術振興会特別研究員（PD） (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラームの聖者論と聖者信仰
茂木 明石	上智大学外国語学部・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、オスマン朝エジプトの聖者信仰・スーフィズム
守川 知子	北海道大学大学院文学研究科・准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イラン・イスラーム史
森山 央朗	同志社大学神学部・准教授 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中世西アジア・ムスリム社会文化史
矢島 洋一	奈良女子大学人間文化研究科人文科学系・准教授 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、スーフィズム史

安田 慎	帝京大学経済学部観光経営学科・講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリーカ」研究班研究協力者、現代シーア派と聖者廟参詣
山尾 博子	九州大学 日本エジプト科学技術連携センター・学術研究員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリーカ」研究班研究協力者、東南アジアと中東のネットワーク
山本 直輝	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリーカ」研究班研究協力者、オスマン朝期のスーフィズム
吉田 京子	東京大学大学院人文社会系研究科・助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリーカ」研究班研究協力者、初期シーア派思想
リュイザール、ピエール＝ジャン	フランス国立科学研究センター・主任研究員	「広域タリーカ」研究班研究協力者、エジプトおよびイラクのタリーカ研究
若松 大樹	ヒッタイト大学 (トルコ・チョルム)・助手 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリーカ」研究班研究協力者、現代トルコにおけるアレヴィー集団のオジャク (タリーカ)・聖者
和崎 聖日	全学共通教育部全学総合教育科・講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリーカ」研究班研究協力者、ウズベキスタンのイスラーム社会
足立 真理	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、ザカート、イスラーム経済、地域研究 (インドネシア)
川村 藍	京都大学東南アジア研究所 日本学術振興会特別研究員 (PD)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム法学、イスラーム金融論
上原健太郎	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、東南アジアのイスラーム金融と経済発展
黒田 彩加	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、アラブ・イスラーム政治思想
佐藤麻理絵	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、中東地域研究
萩原 淳	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・非常勤講師	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、湾岸アラブ諸国の政治と社会
堀抜 功二	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究員 (東京大学拠点研究協力者)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、中東地域研究、湾岸アラブ諸国の政治と社会
メフブーブ・ウル＝ハサン	シンド・マドラサトウル・イスラム大学(カラチ)・教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム経済

【2015 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

本年度も、アジア・アフリカ地域研究研究科が入る京都大学本部構内総合研究 2 号館東に隣接する同 2 号館別館 2 階東側のイスラーム地域研究センターに、事務局、データ解析室および編集制作室を設置して、学術誌およびブックレットの編集、データベースの維持・更新・作成などを行った。また総合研究 1 号館 3 階 304 号室、総合研究 2 号館地階 024 号室および 025 号室の三部屋を京都大学より供与された。これら三部屋は、2 万 6 千点を数えるウルドゥー語文献大型コレクションであるアキールコレクションの整理のため主に使用され、2015 年度末をもって整理が完了する。

学術資料の整理保管・利用はアジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て行った。

また、KIAS 運営委員会を例年通り 2 回、2015 年 6 月 12 日および 2016 年 2 月 6 日に開催した。

(東長靖)

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

① 運営委員会

日程：6 月 12 日（金）14:10～15:10 場所：京都大学総合研究 2 号館 4 階第 2 講義室（AA415）

日程：2 月 6 日（金）14:10～15:10 場所：京都大学総合研究 2 号館 4 階第 2 講義室（AA415）

② 講演会「知の先達たちに聞く—清水学先生をお迎えして」

日程：7 月 6 日（月）16:30-18:30

場所：京都大学総合研究 2 号館 4 階会議室（AA447）

概要：

「時代との格闘と地域研究—歴史・時論・政策—」と題された本講演会では、学生時代、草創期に過ごされたアジア経済研究所時代にさかのぼって、激動のアジアと正面から格闘されてきた貴重なご経験を伺うことができた。当時の経験を、時に熱く、時に冷静な分析眼をもって語られる姿から、現場と学知を常に往還させる地域研究のあり方を学ぶことができた。（長岡慎介）

③ 国際シンポジウム 6th International Symposium on Islam, Civilization and Science, “Upholding the Dignity of Islamic Civilization”

日程：9 月 29 日（火）、30 日（水）

場所：Hotel Puri Pujangga, UKM（マレーシア）

共催：京都大学ハダリー・イスラーム文明研究センター、マレーシア国民大学イスラーム文明研究所、京都大学アジア教育研究ユニット、京都大学科学研究費基盤研究（A）「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」

概要：本シンポジウムは、2015年9月29日から30日まで2日間にわたって開催された。シンポは、基調講演に加え、日本側から8本、マレーシア側から20本によって構成された。

シンポでは、西洋文明とは異なる独自性を持つイスラーム文明が、21世紀の持続可能な地球社会の将来ビジョンにどのように貢献しうるかについて、アジア・イスラーム型発展径路に関する議論を絡めながら各セッションで活発な議論が交わされた。例えば、イスラーム世界で急速に勃興しているイスラーム経済（イスラーム金融、ハラール製品、伝統的イスラーム経済制度の復興）が提起している特有の価値（公平性、道徳性など）は、欧米主導のグローバリズムを超克する普遍的な価値を持ちうるのではないかという点が多く参加者から提起された。また、来る時代におけるイスラーム文明のあり方を考えるためには、イスラーム学の基本理論の有用性を現代的観点から再検討する必要性も論じられ、イスラーム学とイスラーム文明論の架橋可能性が提起されたことは、イスラーム研究の新しい地平を開拓しうる可能性を実感した。

（長岡慎介）

プログラム：

29 September 2015

- | | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| 8.00 a.m | Registration | |
| 8.30 a.m | Presentation Session 1 | |
| 10.00 a.m | Refreshment | |
| 10.05 a.m | Arrival of Honorable Guests | |
| 10.10 a.m | Arrival of Vice-Chancellor of Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM) | |
| | YBhg. Prof. Datuk Dr. Noor Azlan Ghazali | |
| 10.15 a.m | Arrival of YABhg. Tun Haji Abdullah Haji Ahmad Badawi (5th Prime Minister of Malaysia) | Minister of Malaysia) |
| 10.30 a.m | Doa Recitation | |
| | Welcoming Remark by YBhg. Prof. Dato' Dr. Mohd Yusof Hj. Othman FASc. (Director of Institut Islam Hadhari, Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM) | |
| | Welcoming Remark YBhg. Prof. Datuk Dr. Noor Azlan Ghazali (Vice-Chancellor, Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM) | |
| | Officiating Speech by YABhg. Tun Haji Abdullah Haji Ahmad Badawi (5th Prime Minister of Malaysia) | Prime Minister of Malaysia) |
| | Souvenir Presentation | |
| 11.30 a.m | Keynote Speech by Prof. Dr. KOSUGI Yasushi (Kyoto University, Japan) | |
| 12.30 p.m | Press Conference | |
| 12.40 p.m | Lunch Break | |

30 September 2015

8.00 a.m	Registration
8.30 a.m	Presentation Session 3
10.30 a.m	Morning Break
11.00 a.m	Presentation Session 4
1.00 p.m	Lunch & Solat Zuhr
2.30 p.m	Presentation Session 5
4.00 p.m	Refreshment & end of Day 2

<List of Presentation>

Session 1 - Philosophical and scientific thinking in Islamic system

- 1 Chemistry: From Grecian Magic to Islamic Science
Ibrahim N. Hassan, Mohd Yusof Hj Othman & Abdul Latif Samian
- 2 Evolution on Islamic and Western Worldview on the Creation of Man
Wan Nasyrudin Wan Abdullah, Mohd Yusof Hj Othman, Faszly Rahim, Aulia Rahman Zulkarnain
- 3 The Role of Religiosity and Religious Acceptance in Influencing Attitudes towards Embryonic Stem Cell Research
Latifah Amin & Hasrizul Hashim
- 4 Astrofiqh Observatories in Servicing Islam
Ibnor Azli Ibrahim & Mohd Hafiz Safiai

Session 2 - Financial and economic systems in Islam

- 5 The History of Waqf Fund Development at Hospital Fatih, Istanbul (1470m-1481m)
Nur Ainul Basyirah Alias, Ermy Azziaty Rozali & Roziah Sidik @ Mat Sidek
- 6 The Saving Behavior of Malays and the Equity Maximization Dilemma: The Role of Waqf-Based Islamic Microfinance in Context
Abidullah, Muhammad Hakimi Mohd Shafiai & Mohd Adib Ismail
- 7 Issues and Challenges Facing the Practice of Institutionalized Zakat: A Case of Baznas in Indonesia
Mari ADACHI
- 8 Islamic Financial Inclusion in Malaysia: A Case of Ar-Rahnu
Kentaro KAMBARA
- 9 Two Frontiers on Islamic Finance Dispute Resolution System: The Dubai and the Malaysia Model
Ai KAWAMURA
- 10 Is "Interest-Riba Consensus" A Robust Platform for Islamic Economics?
New Intellectual Discourse After the Sharia-Compliant Criticism
Shinsuke NAGAOKA

Session 3 - Issues on development and civilization in the Islamic World

- 11 Exploring Ibn Khaldun's Vestiges in the Scientific Study of Religion through His Cumran Science of Civilization
Wan Mohd Fazrul Azdi Wan Razali & Jaffary Awang
- 12 Innovations in Cartography During the Ottoman Era of Sultan Suleyman Al-Qānūnī
Ahmad Sobrie bin Haji Ab. Rahman & Roziah Sidik @ Mat Sidek
- 13 Sultan Muhammad Al-Fatih's Approach in Disseminating the Idea of Science Acculturation in Ottoman Society
Ammalina Dalillah Mohd Isa & Roziah Sidik @ Mat Sidek
- 14 Islam and Muslim Diaspora Communities: A Preliminary Discussion on Afghanistan's in Malaysia
Midori KIRIHARA
- 15 The Islamic Ummah and Religio-Political Leadership: Post-Revolutionary Iran's Own Positioning in International and Regional Contexts
Hiroyuki SHIOMI
- 16 A Sunni Dynasty in Modern Times: Jordan and Its Religious Rapprochement Policy
Fukiko IKEHATA

Session 4 - Financial and economic systems in Islam

- 17 The Influence of Religion on Human Economic Behavior
Nurul Hilmiyah, Bayu Taufiq Possumah & Muhammad Hakimi Mohd. Shafiai
- 18 Islamic Financial Cooperative (IFC): Another Alternative to Islamic Banking and Microfinance
Jasri Jamal & Mohd Azizie Abd Adziz
- 19 Prohibition of Khamr (Intoxicants) and Formulation of Islamic Social Institutions: A Reinterpretation of Historical Sources and Reflections on the Contemporary Halal Food Industry As Part of Islamic Economics
Ammar KHASHAN & Yasushi KOSUGI
- 20 The Influence of Knowledge and Personality on the Behavior in Selecting Malaysia Certified Halal Food Product
Khairul Anwar bin Mastor & Wan Nadzirah binti Wan Mohamad
- 21 The Concept of Halal Food from the Perspective of Sikhism and Islam
Aman Daima bin Md. Zain & Jaffary Awang
- 22 Factors Influencing 3R Activities Amongst Muslim Households in Terengganu, Malaysia: Social, Economic, Religious and Political
Zubaidah Mohd Nasir, W. Syairah Hazwani W. Petera, Mashitoh Yaacob & Latifah Amin

Session 5 – Sociocultural issues in Muslim Community

- 23 Ramadan Fasting and Its Effects on Emotion: A Mixed Model Analyses
Khairul Anwar Mastor
- 24 Factors Influencing the Lifestyle of Muslim Adolescents
Fariza Md Sham, Siti Zaleha Shafie & Halimatussakdiah Ali
- 25 Emotional Intelligence from Islamic Perspectives: Preliminary Review in Malaysia
Raudhah Abu Samah, Muhammad Hilmi Jalil, Zakaria Stapa, Mohd Yusof Othman, Jawiah Dakir, Fariza Md Sham, Mashitoh Yaacob & Nasruddin Yunus
- 26 Malay Muslim Youth Intellectuals Wisdom Challenges
Siti Masliah Mohd Nuri, Jawiah Dakir, Noor Aziah Hj. Mohd Awal, Khairul Anwar Johari Mastor, Siti Rugayah Hj. Tibek, Fariza Md Sham, Salasiah Hanin Hamjah, Wan Zulkifli Wan Hassan, Wan Fariza Alyati Wan Zakaria, Mohd Al Adib Samuri, Muhammad Ikhwan Ismail, Siti Maheran Ismail@Ibrahim
- 27 The Importance of Adopting the Islamic Concept of Love Among Muslims
Syaidatun Nazirah Abu Zahrin & Maznah Hj. Ibrahim
- 28 Experience towards Religious Tolerance: A Preliminary Study in Selangor
Khadijah Muda

④ オスマン史研究会（第 1 回ボアチ・エルゲネ氏講演会）

日時： 10 月 28 日（水）18:00-20:00

場所：京都大学総合研究 2 号館 4 階 Conference Room (AA463)

概要：ボアチ・エルゲネ氏はシャリーア法廷台帳を用いた多数の研究で知られる研究者で、このたびの講演会では、法廷台帳研究の方法論について語られた。データを内実ではなく数量的に処理することの是非について、実際に訴訟に至る前に調停で解決がなされるケースも多く、その場合は具体的な問題がシャリーア法定台帳に反映されないといった問題は存在するものの、数量分析の有用性は依然あると主張された。本講演は当時の社会を反映する史料としての法廷台帳の利用と周辺の諸問題が、専門を異にする者にもわかりやすく認識できる貴重な機会となった。
(今松泰)

プログラム：

司会 秋葉淳（千葉大学文学部）

18:00～19:00 Boğaç A. Ergene（ヴァーモント大学准教授）

Making the Case for Quantitative and Economic Approaches to Ottoman Legal History

19:00～20:00 質疑応答・討論

⑤ 3 班合同研究会

日程：2 月 5 日（金）15:30-18:50

場所：京都大学総合研究 2 号館 4 階会議室（AA447）

概要：保坂氏のイスラーム国の現状についての発表は、対テロ・イスラーム連合、対テロ・イスラーム軍事連合の説明から、周辺「地域」へ拡散する影響、チュニジア、エジプト、バングラデシュ、インドネシア、トルコなど非領域地域での活動、欧米での活動にまで話が及び、状況を把握するのに十分なものが提示された。中西氏の発表は、現状を追認、あるいは積極的に中国に協力したイスラーム知識人の事例を取り上げたものである。とくに後者の背景として、ナショナリズムとの関係、および近代以降の印刷技術・輸送手段の発達による、イスラーム改革主義者（サラフィー主義的傾向・ムジャッディディーヤの関係者）の言説が流入していたことが指摘された。川村氏の発表は、イスラーム金融に関して、紛争解決の手段として効果を上げたドバイ・アプローチと、また別の手段であるマレーシア・モデルの比較・紹介がなされた。どれほどシャリーアに依拠するかという問題を含め、貴重な情報に満ちたものであった。またこれまでの研究の総括もなされ、それぞれのテーマに従って活動する 3 つの研究班が、その研究成果を持ち寄って発表する合同研究会は、大変に有益なものであった。（今松泰）

プログラム：

15:30-15:40：開会挨拶

東長靖（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授、イスラーム地域研究センター長）

第 1 班 「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班発表：

15:40-16:20

発表者： 保坂修司（日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究理事）

「イスラーム国の現状」

16:20-16:30：質疑応答

第 2 班 「広域タリカ」研究班発表：

16:30-17:10

発表者： 中西竜也（京都大学白眉センター特定助教）

「近代中国ムスリムとイスラーム改革主義」

17:10-17:20：質疑応答

休憩： 17:20-17:30

第 3 班 「イスラーム経済とイスラーム法」研究班発表：

17:30-18:10

発表者： 川村藍（日本学術振興会特別研究員（京都大学））

「イスラーム金融をめぐる紛争の法制度：ドバイ・アプローチとマレーシア・モデル」

18:10-18:20：質疑応答

18:20-18:40：総括

18:40-18:50：閉会挨拶

東長靖

⑥ 講演会「知の先達たちに聞く―宮治美江子先生をお迎えして」

日程：2月6日（土）16:00-18:00

場所：京都大学総合研究2号館4階会議室（AA447）

概要：「マグリブ研究と文化人類学―女性たちとの出会いを重ねて」と題された宮治先生の講演は、大学入学以後研究を志される頃の世界情勢と社会状況に加え、当時の人類学に係る研究や環境、さらに北アフリカ現地での女性を中心とした交流など、興味深い話題に満ちたものであった。お話には、講演タイトルに限定されたことだけではなく、問題関心の形成、フィールド調査のあり方など、ほかにもいろいろと援用できるであろう多くの示唆があり、学ぶことの多い講演となった。（今松泰）

⑦ アーヤトッラー・エッテマーディー師講演会

日程：2月10日（水）14:00-16:00

場所：京都大学総合研究2号館4階第1講義室（AA401）

共催：早稲田大学拠点

概要およびプログラムの詳細は早稲田大学拠点を参照

⑧ KIAS-IMS 合同国際ワークショップ **Fifth Joint Seminar of Center for Islamic Area Studies (KIAS) and Graduate School of Asian and African Area Studies (ASAFAS), Kyoto University and Institute for Mediterranean Studies (IMS), Busan University of Foreign Studies, “Area Studies and Area Informatics in the Mediterranean World”**

日程：2月16日（火）13:00-17:45

場所：京都大学総合研究2号館4階会議室（AA447）

共催：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）および釜山外国語大学地中海研究所（IMS）

概要：藤井氏の発表は東アフリカ沖のザンジバルにおいて成長するイスラーム勢力ウアムショについて論じられた。Ha氏及びChoi氏の発表では、2000年以降現在に至るまで、韓国における地中海世界研究がどのように行なわれてきたかについて、ヨーロッパ研究と中東研究に分けて論じられた。山本氏の発表では、イスラエルにおけるイスラーム運動の役割に関して、聖地イェルサレムにおける聖地問題の観点から考察が行なわれた。Chang氏は、フランスの移民統合政策のあり方を移民に対する教育という側面から論じた。渡邊氏の発表では、マシュリクのアラブ君主制国家、特にヨルダンにスポットが当てられ、これら君主制における“ハイブリッド性”の存在を指摘し、それが如何なるものなのかについて考察が行なわれた。Kang氏の発表はデジタル人

文学システムの構築とその利用可能性を実例から紹介するものであった。原氏の発表は、地域情報学の創成という観点から、地域研究のための情報処理・共有システム構築の現状と課題を論じるものであった。Moon氏は近年注目を浴びているデジタル・ヒューマニティーズが地域研究にどのように応用できるかを、電子アトラス、マルチメディアの活用、情報の可視化、ネットワーク分析、ビッグ・データの活用といった事例に基づいて発表を行った。(桐原翠、池端路子、塩見浩之、石川喜堂、黒田彩加、松田和憲・今松泰)

プログラム：

Opening Session (13:00-13:20)

Chair: IMAMATSU Yasushi (Visiting Associate Professor, Graduate School of Asian and African Area Studies)

TONAGA Yasushi (Director, Center for Islamic Area Studies) "Welcome Speech"

YOON, Yong-Soo (Director, Institute for Mediterranean Studies) "Greeting Speech"

Session 1 (13:20-14:50)

Chair: NAGAOKA Shinsuke (Associate Professor, Graduate School of Asian and African Area Studies)

FUJII Chiaki (Assistant Professor, Graduate School of Asian and Area Studies)

"The Growing Islamic Movement off the East African Coast"

HA, Byung Joo (Professor, Department of Arabic, Busan University of Foreign Studies)

"The specific gravity of Middle East in the Mediterrean Studies of Korea, 2000 - 2015"

CHOI, Choon Sik (Professor, Department of French, Busan University of Foreign Studies)

"The specific gravity of Europe in the Mediterrean Studies of Korea, 2000 - 2015"

Session 2 (15:00-16:30)

Chair: HAH, Byung Joo

YAMAMOTO Kensuke (Ph.D. Student, Graduate School of Asian and Area Studies)

"Dispute over Sacred Sites in Contested Jerusalem: The Role of Islamic Movement in Israel"

CHANG, Nina (HK Research Professor, Institute for Mediterranean Studies)

"A Study on Developing a Model for Integrating Language and Culture for the Muslim immigrants in France through Immigration Policy"

WATANABE Shun (Ph.D. Student, Graduate School of Asian and Area Studies)

"Jordan as a Modern Hybrid Monarchy: A Case of the Mashriq Kingdom"

Session 3 (16:40-18:10)

Chair: CHOI, Choon Sik

KANG, Jihoon (HK Research Professor, Institute for Mediterranean Studies)

"Construction of Digital Humanities System for Academic Researches: Focused on 'MECA' of Institute for Mediterranean Studies"

HARA Shoichiro (Director, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University)

"Information Infrastructure to accumulate, link and use "Knowledge of Area""

MOON, Sang Ho (Professor, Dept. of Computer Engineering, Busan University of Foreign Studies)

"Case Study in Digital humanities"

Closing Session (18:10-18:25)

Chair: TONAGA Yasushi

KOSUGI Yasushi "Closing Remarks"

⑨ 国際セミナー 7th International Symposium on Islam, Civilization and Science, Preliminary Seminar

日程：2月23日（火）－25日（木）

場所：京都大学総合研究2号館4階会議室（AA447）

共催：UKM イスラーム文明研究所、ハダーリー・イスラーム文明研究センター（京都大学）

概要：本セミナーは、2016年10月に開催予定の「第7回イスラーム・文明・科学国際シンポジウム」で議論するトピックをより具体化させるために京都大学、マレーシア国民大学のシンポ参加コアメンバーを招集して開催された。セミナーでは、これまで6回にわたって開催されてきたシンポジウムを振り返り、その到達点を確認するとともに、両大学の共同研究によりイスラーム文明論のさらなる発展のための方法論、重点強化トピックについて議論がなされた。その中で、イスラーム学の文明論への架橋／イスラーム経済論が重点強化方法論／トピックとして次回シンポで取り上げることが確認された。（長岡慎介）

プログラム：

23 February (Tuesday)

Arrival of Malaysian Guests in Kyoto

24 February (Wednesday)

14:00~17:00

Research Coordination Meeting

Chairs: Prof Mohd Yusof Hj Othman and Prof Yasushi Kosugi

25 February (Thursday):

UKM-UK Joint Seminar on Islamic Civilizational Studies

10:00 – 10:30 Opening Session

Welcome Speech: Prof Yasushi Kosugi

10:30 – 12:00 Islamic Civilization and Muslim Society

Presentations: Prof Jawiah and Dr Mashitoh Yaacob

13:30 – 15:30 Islamic Economics and Waqf Institutions

Presentations: Dr. Shinsuke Nagaoka and Dr. Muhammad Hakimi Mohd. Shafiai

16:00 – 18:00 Modern Sciences and Islamic Civilization Today

Presentations: Prof Mohd Yusof Hj Othman and Prof Yasushi Kosugi

(2)研究グループの活動

① KIAS/SIAS「スーフィズム・聖者信仰」研究会第1回研究会

日程：7月19日（日）13:30～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス第2号館6階2-615a

共催：上智大学イスラーム研究センター（SIAS）、科学研究費基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要およびプログラムの詳細は上智大学拠点を参照

② 国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics,

日程：8月4日（火）13:00-18:20、5日（水）10:00-18:50

場所：京都大学総合研究2号館4階会議室（AA447）

共催：“International Workshop on Transformation of Socio-political Movements and Socio-economic Development in Middle East and Asia”と一部共催

京都大学臨地教育支援センター（COSER）、京都大学科学研究費基盤研究（A）「グローバル化時代に対応する21世紀型イスラーム学の構築」、トヨタ財団2014年度研究助成プログラム「相互扶助ファンドとイスラーム金融が創る新しい価値—ポスト資本主義をめざすコミュニティ経済哲学」、英国ダラム大学ビジネススクール附属イスラーム経済金融センターとの共催

概要：本ワークショップは、英国ダラム大学ビジネススクール附属イスラーム経済金融センターと共同で開催されたイスラーム経済に関するアカデミック・ワークショップである。今回の主要な議題は、イスラーム経済が掲げる理念の新しい価値を検討することであった。メフメット・アスタイ教授はイスラームの理念における「モラル」概念の一般的紹介と近代化の関係を提示し、小杉氏は、「ハラール人生哲学」という新概念を提示した。初日の第一セッションでは、経済学的理論を用いたリスク・マネージメントについての議論がなされ、続く第二セッションでは、東南アジアにおけるイスラーム経済やイスラーム銀行の動向が詳細に議論された。二日目の第三・第四セッションでは中東地域における政治・社会的問題に焦点を当てた議論がなされた。第五・六セッションでは、相互扶助ファンドとイスラーム金融に関する発表が多くなされた。長岡氏は、ザカートやワクフのような伝統的なイスラーム制度がイスラーム金融の活用によって再復興されるという動向について、シンガポールのワクフ活用を例に提示された。本ワークショップではアカデミアに属する研究者だけでなく、多くの実務家も参加したことで、普段の

アカデミアにおける研究会では見られない多様な論点が俎上にのぼった。加えて近年では、イスラーム金融だけでなく、ザカートやワクフ、ハラールといった共同体における持続的発展への福祉的役割、ムスリムの生活に関する規定の活用、変遷にも多くの関心が寄せられている。

本ワークショップは示唆に富む議論が設けられた場でもあったといえよう。(足立真理)

プログラム：

Day 1 (4th August)

13:00-13:20: Opening Remarks (co-hosted session with "the International Workshop on Transformation of Socio-political Movements and Socio-economic Development in Middle East and Asia")

13:20-14:50: Keynote Speeches (co-hosted session) Prof. Dr. Mehmet Asutay (Durham University) "Islamic Banking and Finance: Negotiating through Postcolonial Perspectives"

Prof. Dr. Yasushi Kosugi (Kyoto University) "A Vision of Islamic Revival and the Philosophy of a Halal Life: Framing Islamic Economics in a Global Perspective"

15:00-16:30: Session 1

Dr. Hanimon Abdullah (Durham University) "An Exploratory Examination into the Relationship between Corporate Governance and Risk Management Practices in Islamic Banks"

Dr. Noor Zahira Mohd Sidek (Durham University) "Does Political Regime, Governance and Political Risks Matter for Islamic Banking?"

Hajar Raouf (Durham University) "What Do Risk Governance Frameworks Tell Us about Banks' Financial Performance? The Case with Islamic Banks"

16:50-18:20: Session 2

Banjaran Indrastomo (Durham University) "Emergence of Islamic Economics Movement in Indonesia: A Political Economy Approach"

Kentaro Kambara (Kyoto University) "How does Modern Islamic Finance Reconstruct Traditional Pawnbroking (Rahn)? A Case Study of Brunei Darussalam"

Amirul Haqem Bin Abd Ghani (Durham University) "Social Disclosure: A Comparison between Islamic and Conventional Banks in Malaysia"

Day 2 (5th August)

10:00-12:00: Session 3 (hosted by parallel workshop)

Dr. Iyas Salim (Doshisha University) "Filling in the Void? Post-Conflict Palestinian Society between Mitigation of International Official Aid and collaboration with Global Civil Society"

Kensuke Yamamoto (Kyoto University) "Contestation over Jerusalem's Sacred Sites: Can Be Shared or Divided?"

Shun Watanabe (Kyoto University) "Comparative Politics of the Monarchies: A Preliminary

Discussion on Western and Arab Monarchies"

Fukiko Ikehata (Kyoto University) "Religious Conflicts in the Modern Middle East: Understanding Jordan in a Sunni-Shiite Ternary Rivalry"

13:15-14:30: Session 4 (hosted by parallel workshop)

Hiroyuki Shiomi (Kyoto University) "Does Iran seek Leadership at Islamic Ummah? A Preliminary Discussion on Iran's International Strategies"

Chiaki Higa (Kyoto University) "Socio-economic Development of Abu Dhabi and Transformation of Women's Living"

Midori Kiriara (Kyoto University) "Afghan Diaspora Community from Afghanistan: How Do They Make Culture and Identity"

14:45-16:45: Session 5 (hosted by parallel workshop)

Dr. Shinsuke Nagaoka (Kyoto University) "Reconsidering the Role of Traditional Islamic Economic Institutions for Community Welfare: New Paradigm or Mimic Capitalist Model?"

Mari Adachi (Kyoto University) "New Wave of Zakat Practice in Indonesia: Reconsidering Top-down and Bottom-up Dichotomy Framework"

Isa Yilmaz (Durham University) "Constituting Islamic Social Welfare Function: An Exploration in Islamic Moral Economy"

Marie Sato (Kyoto University) "Mapping the Socio-Ecological Changes in Refugee-Influx in the Middle East: Reflections on the Case of Jordan"

17:00-18:30: Session 6

Khashan Ammar (Kyoto University) "The Quran's Prohibition of Khamer (Intoxicants): A Historical Analysis for Global Islamic Economics"

Turgay Kart (Durham University) "Islamic Venture Capital Models for Financing SMEs in Turkey"

Dr. Harun Sencal (Durham University) "Capitalism as Sovereign: Critical Reflections on the Practice of Islamic Finance"

18:30-18:50: Closing Remarks (co-hosted session)

③ 国際会議セッション(第5回 NIHU イスラーム地域研究国際会議(東京 2015)) “Redefining the Total Structure of Sufism”

日程：9月12日(土) 9:30～11:30

場所：上智大学四ツ谷キャンパス 12号館 301号室

概要およびプログラムの詳細は早稲田大学拠点を参照

④ 国際会議セッション(第5回 NIHU イスラーム地域研究国際会議(東京 2015)) “Renovation and New Waves in Islamic Socio-economic Institutions: Waqf, Zakat, and Microfinance”

日程：9 月 12 日（土）13:00～15:00

場所：上智大学四ツ谷キャンパス 12 号館 201 号室

概要およびプログラムの詳細は早稲田大学拠点を参照

⑤ 「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班第 1 回研究会

日時：12 月 15 日（火）15:00-16:30

場所：大阪大学箕面キャンパス A 棟 412 教室

共催：大阪大学特別交流研究支援制度

概要：本研究会では、パキスタンのバハーウッディーン・ザカリヤー大学（ムルターン）のティムサル・アフマド氏による、最近の南アジア、特にパキスタンにおける IT 技術の発展の現状とその社会的効果について、豊富な事例と共に報告があった。まず報告では、イスラームの基本が「読み、知る」ことに重点が置かれていることに触れて、歴史的に、知の伝達がいかになされてきたかが概説された。その後、現代パキスタンでの IT 技術の発展について、統計に基づいた報告と共に、ソーシャル・ネットワークの広がりをもたらす社会への波及効果についての解説があった。（山根聡）

プログラム：

Timsal Ahmad (The Alfalah Institute of Banking and Finance, Bahauddin zakariya University, Multan , Pakistan)

“Islam and Modern Technology: An Exploratory Analysis of the South Asian Region”

⑥ 「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班第 2 回研究会

日程：12 月 21 日（月）16:30-18:00

場所：大阪大学箕面キャンパス A 棟 406 教室

共催：大阪大学特別交流研究支援制度

概要：本研究会では、パキスタンのバハーウッディーン・ザカリヤー大学（ムルターン）の研究者 2 名により、現代パキスタンにおけるイスラームのあり方に関する 2 つの異なる視点からの報告があった。すなわち、カーズィー・アービド博士の報告は現代ウルドゥー文学にみられる、9.11 同時多発テロによるパキスタン社会への影響を考察し、アヌワール・アフマド博士の報告は「イスラーム＝テロ」といったイメージとはかけ離れた、パキスタン社会で広く浸透しているスーフィズムの歴史的展開と現状についてが主題となった。前者の報告は、2011 年にイスラマバードから刊行された 9.11 を主題としたウルドゥー短編小説集を手掛かりに、パキスタン人や在米パキスタン人の文人が、自分のアイデンティティを問い直す作品を次々に発表している点に着目し、ム

スリムがムスリムとしての自己をいかに捉えるかに迷っている姿を文学作品の事例と共に示した。後者は、南アジアにおけるスーフィズムの歴史を、聖者廟や詩作などの多くの事例を用いながら解説し、近年のムスリム急進派によるテロ事件とは一線を画して信仰が続く状況を解説した。パキスタンと言え、対テロ戦争の最前線というイメージがあり、それはその社会が現実直面する喫緊の課題であるが、同時に、豊かなスーフィズムの文化が受容されている点を対比的に知ることができた。(山根聡)

プログラム：

Dr. Qazi Abid (Professor, Bahauddin Zakariya University, Multan, Pakistan)

“The reflection of post 9/11 Pakistani Society in Urdu literature”

Dr. Anwaar Ahmad, (professor, Bahauddin Zakariya University, Multan, Pakistan, Former Chairman National Language Authority, Pakistan,)

“Mystic narrative of Islam in South Asia widely accepted by great poets of Persian,Urdu and major languages of Pakistan”

⑦ 国際セミナー 第3回 SIAS/KIAS-CNRS 国際合同セミナー “Sufism, Saint Veneration and Tariqa Movements in the Islamic World”

日程：1月31日(日) 13:00-18:00

場所：京都大学総合研究2号館4階会議室(AA447)

共催：フランス社会科学研究所(CNRS)、上智大学イスラーム研究センター(SIAS)は、京都大学アジア研究教育ユニット、科研費基盤(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

概要：第一発表では、Quentin Giroud氏が現代トルコにおけるウッシャキー・ハルヴェティー(Uşşaki Halveti)教団のズィクル及びセマー実践に関して発表を行った。Giroud氏は、同教団が儀礼のトルコ性を強調する点等が、親イスラーム政権であるAKP(公正発展党)の宗教・文化政策とも親和性をもつことなどを指摘した。質疑応答では彼らの自称する「トルコ性」の定義と実態や、ズィクル実践法におけるカーディリー教団との類似性について議論が交わされた。第二発表では、井上貴恵氏が中世のスーフィー思想家であるルーズベハーン・バクリー(Rūzbehān Baqlī, d. 1209)の愛(‘ishq)論について発表し、ルーズベハーンの愛論の位置づけを図った。井上氏はルーズベハーンをハッラージュとイブン・アラビーの中間に位置する思想家として評価した。質疑応答では他のスーフィー思想家らによる‘ishqの定義等について議論が交わされた。第三発表ではRachida Chih氏が、17-18世紀にマッカとマディーナをハブとして形成されウラマー／スーフィーのネットワークを通じて、イブン・アラビーの思想の強い影響下で発展したインドの神秘主義伝統がどのようにしてエジプトのスーフィズム伝統と統合されていったのかを論じた。第四発表では丸山大介氏が現代スーダンにおけるルカイニー教団(al-Tarīqa

al-Rukaynīya) のスーフィー達とサラフィー主義者の間で論争が行われている「執り成し (wāsiṭa)」について発表を行った。質疑応答では現代スーダンにおいてなぜ「執り成し」がここまで重要性を持ちうるのかについてより詳細な議論が行われた。第五発表では Thierry Zarcone 氏が発表はティジャーニー教団の創設者アフマド・ティジャーニー(Aḥmad al-Tījānī, d.1815)が描かれた着色石版の多くにガゼルが示されていることに着目し、そのイメージがどのように浸透しているかを考察し、時代や地域を超えて浸透している「視覚的聖者伝」が示された。どの発表も研究の最前線を示す水準の高いものであり、時代・地域をまたがるスーフィズムの多様な在り方について多くの知見が得られた。(山本直輝・今松泰)

プログラム :

13:00-13:20 Opening Remarks

13:20-14:00 Quentin GIROUD (CNRS)

Zikr and Sema Rituals of the Contemporary Uṣṭakī-Halveti Sufi Order of Turkey

14:00-14:40 Kie INOUE (Tokyo University)

Ruzbihan Baqli Shirazi's Theory of Love

14:55-15:35 Rachida CHIH (CNRS)

Sufism in the Early Modern Period: Ahmad al-Qushshashi (d. 1661) and the "Medinese School"

15:35-16:15 Daisuke MARUYAMA (National Defense Academy of Japan)

Meaning of Wasita (Intermediary): Different Interpretations between Sufis and Salafis in Contemporary Sudan

16:30-17:10 Thierry ZARCON (CNRS)

Visual hagiography in Northern Africa: The case of Ahmad al-Tijani

17:10-17:40 Discussion

17:40-18:00 Closing Remarks

⑧ 国際ワークショップ Workshop Attached to the Third SIAS / KIAS - CNRS International Joint Seminar, "TRADITION AND TRANSFORMATION IN THE PAST AND PRESENT"

日程 : 2月1日(月) 10:00-15:40

場所 : 京都大学総合研究2号館4階会議室(AA447)

共催 : 上智大学イスラーム研究センター(SIAS)は、京都大学アジア研究教育ユニット、科研費基盤

(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者: 東長靖)

概要 : 石川喜堂氏は13世紀ペルシアの大詩人アッタールの『鳥の言葉』における鳥の表象について、他のイスラーム思想家との比較を行いながら発表を行った。山本直輝氏は17世紀オスマン朝下アラブにおけるイブン・アラビー学派のクルアーン解釈論について発表を

行った。近藤文哉氏は19世紀のイギリス人旅行者による、エジプトのマウリド（預言者生誕祭）の記述に関して、量的・質的双方の分析を用いて論じた。山崎暁氏はトルコにおけるアラウィー派（ヌサイリー派）の市民団体が、その刊行物を通じ自らのエスニック・アイデンティティをいかに規定しているかという問題を論じた。齋藤氏はカッザーフィー政権期のリビアにおける、部族の包摂と排除に関して報告した。アントニー氏は、南インドの思想家であるヴィヴェーカーナンダの「普遍宗教（世界宗教）」についての発表を行った。二ツ山氏は現代チュニジアに生きるムスリムとオリーブの関係を事例に、民衆のイスラームにおける樹木の象徴性を考察した。様々なディシプリンを背景に持つ若手研究者が一同に集い個々のフィールド・研究対象の知見を深め合う本国際ワークショップは、コメンテータからも高く評価され、若手研究者の育成に地域研究プロジェクトが寄与していることが実感された。（山本直輝・今松泰）

プログラム：

10:00-10:20 Opening Session

10:20-10:50 ISHIKAWA Kido (Kyoto University)

The Comparative Study on Parables of Birds between `Attar and Predecessors

10:50-11:20 YAMAMOTO Naoki (Kyoto University)

Duality without Conflict: A Multiplex Interpretation of Islam According to `Abd al-Ghani al-Nabulusi

11:20-11:50 KONDO Fumiya (Sophia University)

The Egyptian Mawlid Observed in 19th-Century British People: A Quantitative and Qualitative Analysis

13:00-13:30 YAMAZAKI Satoru (Kyoto University)

Social Organization of Arab Alevis in Contemporary Turkey: A Case Study of EHDAV in Antakya, Hatay

13:30-14:00 SAITO Akiko (Sophia University)

Tribal Policy and its Transformation in Libya under the Qadhafi Regime

14:00-14:30 Antony SUSAIRAJ (Sophia University)

Vivekananda's Understanding of Islam: Its Implications on His Idea of Universal Religion

14:30-15:00 FUTATSUYAMA Tatsuro (Kyoto University)

Islamic Religious Practices Involving Trees: A Case Study of Olive Trees in Contemporary Tunisia

15:10-15:30 General Comments

15:30-15:40 Concluding Session

⑨ Seminar “The place and role of Abdullah Bosnawi in the quadrilingual written heritage of Bosnia-Herzegovina in Oriental languages”

日程：2016 年 3 月 8 日（火）13:30～15:30

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 6 階 615a 教室

共催：上智大学イスラーム研究センター（SIAS）、科学研究費基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要およびプログラムの詳細は上智大学拠点を参照

⑩ Seminar “Framing Islam/Muslims”

日程：2016 年 3 月 8 日（火）16:00～18:00

会場：上智大学四谷キャンパス 2 号館 6 階 615a 教室

共催：上智大学イスラーム研究センター（SIAS）、科学研究費基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要およびプログラムの詳細は上智大学拠点を参照

3. 海外派遣・調査

(1)拠点全体としての活動

① 国際シンポジウムへの参加

出張期間：2015 年 9 月 29 日～2015 年 9 月 30 日

出張先（国名）：マレーシア

出張者：小杉泰（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）、長岡慎介（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授）、川村藍（京都大学東南アジア研究所 学振特別研究員（PD））、上原健太郎（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程）、足立真理（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程）、池端露子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程）、桐原翠（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程）、塩見浩之（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程）

概要：国際シンポジウム 6th International Symposium on Islam, Civilization and Science に出席、発表

② 国際ワークショップへの参加

出張期間：2016 年 3 月 23 日～2015 年 3 月 25 日

出張先(国名)：韓国

出張者：東長靖（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

概要：IMS 創設記念シンポジウムに出席・発表

③ 海外調査

(1)拠点全体としての活動

なし

(2)研究グループの活動

なし

4.外国人研究者の招聘

(1)拠点全体としての活動

①Boğaç A. Ergene

所属（国籍）：ヴァーモント大学（トルコ）

期間：2015 年 10 月 28 日

活動概要：オスマン史研究会において、発表を行った。

②Ayatollah Amir Seyyed Hasan Ettemadi

所属（国籍）：カーシャーン・ダール・アル・エルメ・イスラミー宗教学院（イラン）

期間：2016 年 2 月 10 日

活動概要：講演会において、講演を行った。

③YOON, Yong-Soo

所属（国籍）：地中海研究所（韓国）

期間：2016 年 2 月 15 日～2016 年 2 月 18 日

活動概要：KIAS-IMS 合同国際ワークショップにおいて、発表を行った。

④HA, Byung Joo

所属（国籍）：釜山外国語大学（韓国）

期間：2016 年 2 月 15 日～2016 年 2 月 18 日

活動概要：KIAS-IMS 合同国際ワークショップにおいて、発表を行った。

⑤CHOI, Choon Sik

所属（国籍）：釜山外国語大学（韓国）

期間：2016 年 2 月 15 日～2016 年 2 月 18 日

活動概要：KIAS-IMS 合同国際ワークショップにおいて、発表を行った。

⑥CHANG, Nina

所属（国籍）：地中海研究所（韓国）

期間：2016年2月15日～2016年2月18日

活動概要：KIAS-IMS 合同国際ワークショップにおいて、発表を行った。

⑦KANG, Jihoon

所属（国籍）：地中海研究所（韓国）

期間：2016年2月15日～2016年2月18日

活動概要：KIAS-IMS 合同国際ワークショップにおいて、発表を行った。

⑧MOON, Sang Ho

所属（国籍）：釜山外国語大学（韓国）

期間：2016年2月15日～2016年2月18日

活動概要：KIAS-IMS 合同国際ワークショップにおいて、発表を行った。

(2)研究グループの活動

①Mehmet Asutay

所属（国籍）：ダラム大学（トルコ）

期間：2015年8月3日～2015年8月6日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

②Hanimon Abdullah

所属（国籍）：ダラム大学（マレーシア）

期間：2015年8月3日～2015年8月6日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

③Noor Zahira Mohd Sidek

所属（国籍）：ダラム大学（マレーシア）

期間：2015年8月3日～2015年8月6日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

④Hajar Raouf

所属（国籍）：ダラム大学（イギリス）

期間：2015 年 8 月 3 日～2015 年 8 月 6 日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

⑤Banjaran Indrastomo

所属（国籍）：ダラム大学（マレーシア）

期間：2015 年 8 月 3 日～2015 年 8 月 6 日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

⑥Amirul Haqem Bin Abd Ghani

所属（国籍）：ダラム大学（イギリス）

期間：2015 年 8 月 3 日～2015 年 8 月 6 日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

⑦Isa Yilmaz

所属（国籍）：ダラム大学（トルコ）

期間：2015 年 8 月 3 日～2015 年 8 月 6 日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

⑧Turgay Kart

所属（国籍）：ダラム大学（トルコ）

期間：2015 年 8 月 3 日～2015 年 8 月 6 日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

⑨Harun Sencal

所属（国籍）：ダラム大学（トルコ）

期間：2015 年 8 月 3 日～2015 年 8 月 6 日

活動概要：国際ワークショップ The 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics において、発表を行った。

⑩Quentin Giroud

所属（国籍）：フランス社会科学研究所（フランス）

期間：2016 年 1 月 30 日～2015 年 2 月 6 日

活動概要：国際セミナー 第 3 回 SIAS/KIAS-CNRS 国際合同セミナーにおいて、発表を行った。

1

⑪Rachida Chih

所属（国籍）：フランス社会科学研究所（フランス）

期間：2016 年 1 月 30 日～2015 年 2 月 5 日

活動概要：国際セミナー 第 3 回 SIAS/KIAS-CNRS 国際合同セミナーにおいて発表を行い、国際ワークショップ Workshop Attached to the Third SIAS / KIAS - CNRS International Joint Seminar において、コメンテータを務めた。

⑫Thierry Zarcone

所属（国籍）：フランス社会科学研究所（フランス）

期間：2016 年 1 月 30 日～2015 年 2 月 6 日

活動概要：国際セミナー 第 3 回 SIAS/KIAS-CNRS 国際合同セミナーにおいて発表を行い、国際ワークショップ Workshop Attached to the Third SIAS / KIAS - CNRS International Joint Seminar において、コメンテータを務めた。

⑬Mohd Yusof Hj Othman

所属（国籍）：UKM イスラーム文明研究所（マレーシア）

期間：2016 年 2 月 23 日～2016 年 2 月 25 日

活動概要：国際セミナー UKM-UK Joint Seminar on Islamic Civilizational Studies おいて、発表を行った。

⑭Jawiah Yaacob

所属（国籍）：UKM イスラーム文明研究所（マレーシア）

期間：2016 年 2 月 23 日～2016 年 2 月 25 日

活動概要：国際セミナー UKM-UK Joint Seminar on Islamic Civilizational Studies おいて、発表を行った。

⑮Muhammad Hakimi Mohd. Shafai

所属（国籍）：マレーシア国民大学（マレーシア）

期間：2016 年 2 月 23 日～2016 年 2 月 25 日

活動概要：国際セミナー UKM-UK Joint Seminar on Islamic Civilizational Studies おいて、発表を行った。

5.資料収集

主要な資料は次のとおり。

①資料名 アラビア語ほか現地語資料

- ・形態：雑誌
- ・冊数：105 冊
- ・資料内容：Azhar ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：Leila 書店（エジプト）
- ・収集期間：2015 年 4 月～2016 年 3 月

②資料名 欧米諸語資料

- ・形態：図書・雑誌
- ・冊数：9 冊
- ・資料内容：Index Islamicus ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：紀伊國屋書店
- ・収集期間：2015 年 4 月～2016 年 3 月

③資料名 日本語資料

- ・形態：図書
- ・冊数：4 冊
- ・資料内容：「イスラーム史の中の奴隷」ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：京都大学生協同組合
- ・収集期間：2015 年 4 月～2016 年 3 月

6.研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔論文〕計（ 48 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
Moinuddin Aqeel	AQEEL COLLECTION: Specification and Prominence	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	118-126
ムハンマド・ア ーサィフ (訳) 山根 聡 (研究分担者)	アキール文庫のイクバル学コレクションについて	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	149-164
	アキール文庫 サイド・アフマド・ハーンとアリーガル運動関連文献	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	165-171
	アキール文庫 現代ウルドゥー詩関連文献——ファイズ、ラーシド、マジード・アムジャド、ミラージー、アフタル・シーラーニー	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	172-181
足立 真理 (研究協力者)	現代インドネシアにおけるザカート実践の多様性とその管理の二形態	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	265-273
池端 蒔子 (研究協力者)	現代中東における宗派対立と宗教的イデオロギー——ヨルダン・ハーシム王国のスナ派復興政策——	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	274-284
石川 喜堂	アッターールにおける先行文献サーベイと今後の研究の展望	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	285-292
岩倉 洸	書評「菊田悠『ウズベキスタンの聖者崇敬——陶器の町とポスト・ソヴィエト時代のイスラーム』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	387-390
上野 雅由樹	書評「佐原徹哉『中東民族問題の起源——オスマン帝国とアルメニア人』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	367-369
岡本 正明	民主化したインドネシアにおけるトランスジェンダーの組織化と政治化、そのポジティブなパラドックス	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	231-251
小倉 智史 (研究協力者)	アキール文庫カシミール関連コレクション [A309]	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	187-191
北田 信	アキール文庫に含まれるダカニー・ウルドゥー語文学コレクション [C201-208, C301-307]	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	144-148
桐原 翠	書評「細田尚美（編著）『湾岸アラブ諸国の移民労働者——「多外国人国家」の出現と生活実態』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	384-387
黒田 彩加 (研究協力者)	書評 Bano, Masooda and Keiko Sakurai (eds.). <i>Shaping Global Islamic Discourses: The Role of al-Azhar, al-Medina, and al-Mustafa (Exploring Muslim Contexts)</i> .	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	377-380
黒田 賢治 (研究協力者)	書評「桜井啓子『イランの宗教教育戦略——グローバル化と留学生』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	376-377

小林 篤史	書評「坂本勉『イスタンブール交易圏とイラン——世界経済における近代中東の交易ネットワーク』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	371-373
酒井 啓子	書評「青山弘之（編）『「アラブの心臓」に何が起きているのか——現代中東の実像』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	346-349
佐々木 紳	書評「大河原知樹・堀井聡江『イスラーム法の「変容」——近代との邂逅』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	369-371
佐藤 麻理絵 （研究協力者）	ヨルダンにおけるイスラーム的慈善と即応的対応力——都市アンマン・バドル地区の草の根的慈善組織の事例から	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	252-264
塩見 浩之	書評 Abbas Maleki and John Tirman (eds.). <i>U.S.-Iran Misperceptions: A Dialogue.</i>	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	390-393
清水 学	講演録「時代との格闘と地域研究——歴史・時論・政策——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	198-214
鈴木 英明	書評「清水和裕『イスラーム史のなかの奴隷』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	362-364
須永 恵美子 （研究協力者）	アキール・コレクションにおけるマウドゥーディー追悼資料 [A809]	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	192-196
富田 健次	書評「黒田賢治『イランにおける宗教と国家——現代シーア派の実相』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	340-342
Shinsuke Nagaoka （研究分担者）	Revitalization of Waqf in Singapore: Regional Path Dependency of the New Horizons in Islamic Economics	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	4-18
長沢 栄治	書評「北澤義之『アラブ連盟——ナショナリズムとイスラームの交錯』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	344-346
中溝 和弥	書評「吉岡明子・山尾大（編）『「イスラーム国」の脅威とイラク』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	357-359
二宮 文子 （研究協力者）	アキール文庫スーフィズム関連コレクション [A1304-1309, A1403, B003, B801-804, B901-902]	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	182-186
Ammar Khashan （研究協力者）	A Historical and Legal Analysis for the Sake of Contemporary Islamic Economics	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	97-112
浜口 恒夫	南アジア現代史における「ナショナリスト・ムスリム」と「ムスリム・ナショナリスト」の確執——アキール文庫所蔵資料を手掛かりに——	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	127-135
Banjaran Surya Indrastomo	The Emergence of Islamic Economic Movement in Indonesia: A Political Economy Approach	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	63-78
比嘉 千亜紀	書評 Ridge, Natasha. <i>Education and the Reverse Gender Divide in the Gulf States.</i>	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	393-396

福田 安志	書評「千葉悠志『現代アラブ・メディア——越境するラジオから衛星テレビへ』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	342-343
福富 満久	書評「松本弘『アラブ諸国の民主化——2011 年政変の課題』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	353-354
二ツ山 達朗 (研究協力者)	チュニジア共和国図書館・書店案内——チュニス編——	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	397-418
増原 綾子	書評「岡本正明『暴力と適応の政治学——インドネシア民主化と地方政治の安定』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	355-357
松尾 瑞穂	書評「嶺崎寛子『イスラーム復興とジェンダー——現代エジプト社会を生きる女性たち』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	359-361
松村 耕光 (研究協力者)	翻訳「「苦しみの姿」——イクバルのウルドゥー詩 (9) ——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	309-314
Mahmoud al-Qaysi	Taha al-Hashimi and the Origins of the Iraqi Elite's Approach to Japan	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	79-97
丸山大介 (研究協力者)	書評「高橋圭『スーフィー教団——民衆イスラームの伝統と再生』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	364-367
三沢 伸生 (研究協力者)	書評「店田廣文『日本のモスク——滞日ムスリムの社会的活動』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	349-353
Mohammad Soleh Nurzaman	Evaluating the Impact of Productive Based Zakat in The Perspective of Human Development Index: A Comparative Analysis	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	42-62
守川 知子 (研究協力者)	翻訳「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥースィー著『被造物の驚異と万物の珍奇』 (9)」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	315-339
萬宮 健策 (研究協力者)	アキール・コレクションにおけるスインディー語資料	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	136-139
山尾 大 (研究協力者)	高岡豊・溝渕正季 (訳・解説)『ヒズブッラー——抵抗と革命の思想』	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	373-375
山崎 暁	現代トルコのアラブ・アレヴィー研究動向	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	9	2016	292-308
Rahmatina A. Kasri	<i>Maqasid al-Shariah and Performance of Zakah Institutions</i>	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>		2016	19-41
渡邊 駿 (研究協力者)	書評「ロジャー・オーウェン (著) 山尾大・溝渕正季 (訳)『現代中東の国家・権力・政治』」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>		2016	380-384

〔図書〕 計 (0) 件

〔学会発表〕計（ 24 ）件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月 日	発表場所
Rachida Chih	Sufism in the Early Modern Period: Ahmad al-Qushshashi (d. 1661) and the "Medinese School"	3rd SIAS/KIAS-CNRS International Joint Seminar "Sufism, Saint Veneration and Tariqa Movements in the Islamic World"	2016.1.31	京都大学
Quentin Giroud	Zikr and Sema Rituals of the Contemporary U?aki-Halveti Sufi Order of Turkey	3rd SIAS/KIAS-CNRS International Joint Seminar "Sufism, Saint Veneration and Tariqa Movements in the Islamic World"	2016.1.31	京都大学
Ammar Khashan, (研究協力者) Yasushi Kosugi (研究分担者)	Prohibition of Khamr (Intoxicants) and Formulation of Islamic Social Institutions: A Reinterpretation of Historical Sources and Reflections for Contemporary Halal Food Industry as Part of Islamic Economics	International Symposium on Islam, Civilization, and Science	2015.9.30	マレーシア 国民大学
Ammar Khashan (研究協力者)	The Islamic Prohibition of Khamr (Intoxicants) in Perspective: Historical and Contemporary Implications for Dietary Rules and the Halal Food Industry	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference New Horizons in Islamic Area Studies – Asian Perspectives and Global Dynamics	2015.9.12	上智大学
	The Quran's Prohibition of Khamr (Intoxicants): A Historical and Legal Analysis for the Sake of Contemporary Islamic Economics	9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance "New Horizons in Islamic Economics"	2015.8.5	京都大学
Kentaro Kanbara (研究協力者)	How does Modern Islamic Finance Reconstruct Traditional Pawnbroking (Rahn)? A Case Study of Brunei Darussalam	International Workshop on Transformation of Socio-political Movements and Socio-economic Development in Middle East and Asia	2015.8.14	京都大学
	Islamic Financial Inclusion in Malaysia: A Case of Ar-Rahnu	6 th International Symposium on Islam, Civilization, and Science (ISICAS 2015)	2015.9.30	マレーシア 国民大学
Yasushi Kosugi (研究分担者)	A Vision of Islamic Revival and the Philosophy of a Halal Life: Framing Islamic Economics in a Global Perspective	9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance "New Horizons in Islamic Economics"	2015.8.4	京都大学
	Islamic Civilization's Contribution to the Global Society and the Philosophy of a Halal Life	6 th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2015)	2015.9.30	マレーシア 国民大学
Emiko Sunaga (研究分担者)	Roots of Contemporary Islamic Economics: A Chronology of Texts on Banking Interest (Sūd) in Urdu (ポスター発表)	NIHU Program Islamic Area Studies (IAS) the Fifth IAS International Conference, New Horizons in Islamic Area Studies: Asian Perspectives and Global Dynamics	2015.9.12	上智大学
Yasushi Tonaga (拠点代表者)	Sufism as Mysticism: Development in and Debates on	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International	2015.9.12	上智大学

	the <i>Fanā'</i> Theory	Conference New Horizons in Islamic Area Studies – Asian Perspectives and Global Dynamics		
Shinsuke Nagaoka (研究分担者)	Reconsidering the Role of Traditional Islamic Economic Institutions for Community Welfare: New Paradigm or Mimic Capitalist Model?	9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance “New Horizons in Islamic Economics”	2015.8.5	京都大学
	The Relationship between Islamic Finance and Traditional Economic Institutions in Singapore: Revitalization of Waqf and its Potential to Transcend the Financialization of Islamic Economics	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference New Horizons in Islamic Area Studies – Asian Perspectives and Global Dynamics	2015.9.12	上智大学
	Is 'Interest-riba Consensus' a Robust Platform for Islamic Economics? New Intellectual Discourse after the Sharia-Compliant Criticism	6th International Symposium on Islam, Civilization & Science	2015.9.30	マレーシア 国民大学
Alexandre Papas	Tugh: A Nexus between Sufism and Popular Cult in Central Asia	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference New Horizons in Islamic Area Studies – Asian Perspectives and Global Dynamics	2015.9.12	上智大学
藤井 千晶 (研究協力者)	The Growing Islamic Movement off the East African Coast	Fifth Joint Seminar of KIAS, ASAFAS and IMS, "Area Studies and Area Informatics in the Mediterranean World	2016.2.16	京都大学
Shin YASUDA (研究協力者)	Redefining Halal in Japan: Bridging Host and Guest Values in the Japanese Tourism Industry	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference “New Horizons in Islamic Area Studies: Asian Perspectives and Global Dynamics”	2015.9.11	上智大学
Kensuke Yamamoto (研究協力者)	Contestation over Jerusalem's Sacred Sites: Can Be Shared or Divided?	International Workshop on Transformation of Socio-political Movements and Socio-economic Development in Middle East and Asia	2015.8.5	京都大学
	Jerusalem Problem in Contemporary Perspective: Status Quo, Internationalization, and Specifying the Sacred Sites.	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference New Horizons in Islamic Area Studies – Asian Perspectives and Global Dynamics	2015.9.12	上智大学
	Dispute over Sacred Site in Contested Jerusalem: The Role of Islamic Movement in Israel.	Fifth Joint Seminar of KIAS, ASAFAS and IMS, "Area Studies and Area Informatics in the Mediterranean World	2016.2.16	京都大学
Naoki Yamamoto (研究協力者)	The Challenge of Taṣawwuf in the 16th-Century Ottoman Empire: İmâm Birgivi's Concept of Islamic Reform	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference New Horizons in Islamic Area Studies – Asian Perspectives and Global Dynamics	2015.9.12	上智大学

Shun Watanabe (研究協力者)	Comparative Politics of the Monarchies: A Preliminary Discussion on Western and Arab Monarchies	International Workshop on Transformation of Socio-political Movements and Socio-economic Development in Middle East and Asia	2015.8.5	京都大学
	Jordan as a Modern Hybrid Monarchy: A Case of the Mashriq Kingdom	Fifth Joint Seminar of KIAS, ASAFAS and IMS, "Area Studies and Area Informatics in the Mediterranean World	2016.2.16	京都大学
Thierry Zarcone (研究分担者)	Visual hagiography in Northern Africa: The case of Ahmad al-Tijani	3rd SIAS/KIAS-CNRS International Joint Seminar "Sufism, Saint Veneration and Tariqa Movements in the Islamic World"	2016.1.31	京都大学

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（ 51 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
石田 友梨 (研究協力者)	18 世紀インドにおけるカリフ制社会論—イスラーム改革思想家シャー・ワリーウッラーの『究極のアッラーの明証』より—	『アジア太平洋討 究』	25	2015	49—68
	イスラーム研究におけるデジタル・ヒューマニティーズの活用に向けて—シャー・ワリーウッラー『ハラマインの師たちの瞳孔』に基づく 17-18 世紀ハラマインの学者ネットワーク分析—	『イスラーム地域 研究ジャーナル』	8	2016	25-36
Yuri Ishida (研究協力者)	A Practical Research Guide to Islamic Manuscript Libraries in Regional India	『経営・情報研究：多摩大学研究 紀要』	20	2016	印刷中
	A Manuscript List of Shāh Walī Allāh's Works in Regional Indian Libraries	『アジア太平洋討 究』	26	2016	印刷中
今井 静 (研究分担者)	パレスチナ・ヨルダン関係——紛争の展開とヨルダン国家像の模索	臼杵陽（編著）『パレスチナを知るための 60 章』明石書店		2016	印刷中
今松 泰 (研究分担者)	オスマン海軍提督のアラビア海からの帰還——北インド・中央アジア・イランを通して	守川知子編『移動と交流の近世アジア史』（北海道大学出版会）		2016	89-121
上野 愛実 (研究協力者)	トルコ共和国におけるナクシュバンディー教団エレンキョイ・グループとその機関誌『金の樋』	『オリエント』	58-1	2015	57-69
Satoshi Ogura (研究協力者)	Incompatible Outsiders or Believers of a Darśana?: Representations of Muslims by Three Brahmins of Śāhmīrid Kaśmīr	<i>Rivista degli Studi Orientali</i>	88/1-4	2015	179-214
小倉 智史 (研究協力者)	14-16 世紀カシミールにおけるスーフィーの道統と帰属意識—クブラウィーヤ、ヌールバフシーヤを中心	富士ゼロックス株式会社 小林節太郎記念基金 小林		2015	1-23

	にー	フェローシップ 2013 年度研究助成 論文			
	驚異の地インド」の内在化	山中由里子編『〈驚異〉の文化史：中東とヨーロッパを中心に』名古屋大学出版会		2015	398-415
小杉 泰 (研究分担者)	イスラーム経済とハラール人生哲学	『青淵』	28	2015	16-18
	現代イスラームにおける国家と宗教 -- 変容する国家像と越境するウンマ --	『宗教研究』	89	2015	53-78
末近 浩太 (研究分担者)	クサイルからの道：ヒズブッラーによるシリア「内戦」への軍事介入の拡大	『中東研究』522 (2 月), Vol. 3, 2015/16		2016	52-64.
	分断社会における国軍の相貌：レバノンにおける国民統合と国家建設のトレード・オフ	酒井啓子編著『途上国における軍・政治権力・市民社会：21 世紀の「新しい」政軍関係』晃洋書房		2016	印刷中
	中東の地域秩序の変動：「アラブの春」、シリア「内戦」、そして「イスラーム国」へ	村上勇介・帯谷知可編『融解と再創造の世界秩序（「相関地域研究」第2 巻）』青弓社		2016	印刷中
	イスラーム主義運動の歴史的展開：中東／地域研究におけるその意義を捉え直す	松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新しい秩序（「グローバル・サウスは今」第3 巻）』ミネルヴァ書房		2016	印刷中
	現代の紛争	板木雅彦・本名純・山下範久編『プレリウド国際関係学』東信堂		2016	印刷中
Yushi Chiba (研究協力者)	The Tunisian Media Revisited: The Formation and Reformation of an Authoritarian System	<i>Mediterranean Review</i>	8-1	2015	93-116
千葉 悠志 (研究協力者)	情報社会に應えるソフト・パワー戦略——衛星テレビ、新聞、SNS、IT 機器の普及	中村覚（編）『サウジアラビアを知るための 63 章（第2 版）』明石書店		2015	353-338
東長 靖 (拠点代表者)	イスラームから見た世界史—かつての歴史の覇者がいま考えていること	『週刊東洋経済』	2105.4. 4	2015	62 - 65
Shinsuke Nagaoka (研究分担者)	Islamic Finance and Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions	<i>MEI Insight</i>	2/2015	2015	8-13

	Islamic Finance and Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions	<i>MEI Insight</i>	2/2015	2015	8-13
長岡 慎介 (研究分担者)	現代中東アラブ世界の「読み」「書く」伝統とその革新—研究者が見た出版メディアのいま—	『情報の科学と技術』	66-1	2016	26-31
	イスラーム金融は何に對峙しようとしているのか—伝統・近代・ポスト資本主義—	『成城大学経済研究所年報』	29	2016	印刷中
	資本主義の未来—イスラーム金融からの問いかけ—	村上勇介・帶谷知可編『相關地域研究 2 融解と再創造の世界秩序』青弓社		2016	印刷中
Masami Nishino (研究協力者)	Muhammad Qutb's Islamist Thought: A Missing Link between Sayyid Qutb and al-Qaeda?	<i>NIDS Journal of Defense and Security</i>	16	2015	113-145
二宮 文子 (研究協力者)	イスラームにおける奇跡と驚異	山中由里子編『〈驚異〉の文化史：中東とヨーロッパを中心に』名古屋大学出版会		2015	42-5
保坂 修司 (研究分担者)	サウジアラビアで皇太子交代	『中東協力センターニュース』	40-3	2015	10-20
	最近のサウジアラビア治安情勢	『中東協力センターニュース』	40-6	2015	24-35
	イスラーム国日本人質事件	『情況』	4-3	2015	70-87
	「六つ巴」のイエメンに絡めとられるサウジアラビア	『外交』	31	2015	124-131
	第二次世界大戦以前の日本・イラク関係史	『中東協力センターニュース』	40-10	2016	1-13
立山良司・保坂修司 (研究分担者)	各国事情：中東	『現代用語の基礎知識』自由国民社	2016 年版	2015	1444
TSUJIGAMI, Namie and Koji Horinuki (研究協力者)	Japan in the Gulf: Between Intra-Bureaucratic Politics and Inter-Asian Rivalry	<i>The Emerging Middle East-East Asia Nexus</i>		2015	85-93
堀抜功二 (研究協力者)	2022 年 FIFA ワールドカップに揺れるカタール—贈収賄問題および外国人労働者問題の政治経済リスク	『JIME 中東動向分析』	14-4	2015	1-18
森 伸生 (研究分担者)	「イスラーム国」現象について - 「イスラーム国」の特異性を考える	『改革者』(政策研究フォーラム)		2015	30-33
	サウジアラビア：サルマーン国王の新たな決断	『海外事情』(拓殖大学海外事情研究所)	2015-9	2015	86-102
	タクフィール（不信仰者宣告）の論理	『シャリーア研究』(拓殖大学イスラーム研究所)	12	2015	21-44
	クルアーン解釈 第 12 章ユースフ 第 1 節～18 節	『シャリーア研究 第号』(拓殖大学イスラーム研究所)	12	2015	97-116

森山央朗 (研究協力者)	シリアの現状と将来	『グローバル戦略 課題としての中 東：2030 年の見通 しと対応』（平成 26 年度外務省外 交・安全保障調査 研究事業）日本国 際門愛研究所		2015	31-43
	シリアにおけるクルド	『グローバル戦略 課題としての中 東：2030 年の見通 しと対応』（平成 26 年度外務省外 交・安全保障調査 研究事業）日本国 際門愛研究所		2015	57-61
	中東の名望家とエリート：近現代に おける社会構造の中長期的変動	『グローバル戦略 課題としての中 東：2030 年の見通 しと対応』（平成 26 年度外務省外 交・安全保障調査 研究事業）日本国 際門愛研究所		2015	217-226
安田 慎 (研究協力者)	ハラール・スタンダードの形成と軋 轢—クレセントレーティング社に おけるムスリム観光客ガイドライ ンを中心に	『中東研究』	523	2015	53-61
	イスラミック・ツーリズムにおける 観光資源化 宗教観光の商品化・市 場・コミットメントをめぐって	『帝京経済学研究』	49 (1)	2015	87-108
	セルフィーが生み出す景観—マッ カ巡礼における宗教景観論争と共 有のパフォーマンス	河合洋尚編『景観 人類学 身体・政 治・マテリアリ ティ』時潮社		2016	147-166
山根 聡 (研究分担者)	対テロ戦争期パキスタンの政治・社 会における内的変化	『アジア研究』	61-3	2015	1-17
	パキスタンにおける国家行動計画 の成果と課題	『紀要国際情勢』	86	2016	99-106
	宗教マイノリティの権利保護—— 政教分離主義が抱える矛盾	長崎暢子ほか編 『現代インド3— 深化するデモクラ シー』東京大学出 版会		2015	214-217
	愛国と愛教のはざままで	三尾稔ほか編『現 代インド6—還流 する文化と宗教』 東京大学出版会		2015	281-303
	現代ウルドゥー詩におけるパレス チナ問題	上智大学ワーキン グペーパーシリー ズ 26		2016	29-50

山本 健介 (研究協力者)	パレスチナ自治区・ヘブロン／ハリエルにおける旧市街復興運動—パレスチナ抵抗運動の現代的展開—	黒田彩加(編)『中東・アジアにおける政治・社会的発展と経済的課題』		2015	65-77
------------------	--	-----------------------------------	--	------	-------

〔著書〕計 (3) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
久保慶一・末近浩太 (研究分担者)・高橋百合子	『比較政治学の考え方 (ストゥディア)』	有斐閣		2016	
東長靖 (拠点代表者)・今松泰 (研究分担者)	『イスラーム神秘思想の輝き—愛と知の探求』	山川出版社		2016	112
山根聡 (研究分担者)・長縄宣博編著	『越境者たちのユーラシア』	ミネルヴァ書房		2015	233

〔学会発表〕計 (48) 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
石田 友梨・萩原 淳 (研究協力者)	17-18世紀ハラマインにおける師弟関係:シャー・ワリーウッラーの伝記情報のネットワークによる視覚化とその分析	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学
Yuri Ishida (研究協力者)	The Rise of Islamic Reformism in the Seventeenth and Eighteenth Centuries: Scholarly Network Analysis and Visualization with Gephi	JADH (Japanese Association for Digital Humanities) 2015	2015.9.3	京都大学
	Visualization of Moving Scholars and Their Master-Disciple Relationships in the Early Period of Islamic Reformism (tentative title)	38th WIAPS (Institute of Asia-Pacific Studies, Waseda University) Seminar	2016.3.14	早稲田大学
Yasushi Imamatsu (研究分担者)	Ertuğrul Fırkateyni Faciası ve Kobe	Uluslararası Ertuğrul'un İzinde Deniz Kuvvetleri ve Diploması Sempozyumu	2015.9.16	海事博物館(トルコ・イスタンブル)
上野 愛実 (研究協力者)	トルコ共和国の宗教教育政策:『宗教文化と道徳』教科書におけるタリーカ、タサウウフの記述の分析から	東洋文庫現代イスラーム研究班トルコグループ研究会	2015.12.6	上智大学
Satoshi Ogura (研究協力者)	<u>Turning Taraṅginī into Tārīkh: A Comparative Study on Jonarāja's Rājatarāṅginī and its Persian Translation Composed at the Court of Akbar.</u>	16th World Sanskrit Conference, Section of Sanskrit in Relation with Regional Languages and Literatures, Bangkok	2015.6.29	Renaissance Hotel Bangkok

	Linguistic Cosmopolitanism, Political Legitimacies, and Religious Identities in Śāhmīrid Kashmir (1339-1561).	The 3rd Perso-Indica Conference	2015.9.3	University of Delhi
	Mughals as Seen by Kashmiri Pandits in the Sixteenth Century.	International Workshop on Pre-Modern Kashmir 2015	2015.9.24	京都大学ユーラシア文化研究センター(羽田記念館)
	Lakṣmī Becomes Dawla: Remarks on the Translation Strategies of Notions of Kingship in a Persian Translation of the Rājatarāṅgiṇī and the Following Chronicles.	AA 研国際ワークショップ “Islam, Kingship, and Legitimacy in South Asia”	2016.3.18	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
Yuko Yokochi, Satoshi Ogura (研究協力者)	From Allāh to Īśvara: a Preliminary Study in Śrīvara's Kathākaṭuka.	International Workshop on Pre-Modern Kashmir 2015	2015.9.24	京都大学ユーラシア文化研究センター(羽田記念館)
上原 健太郎 (研究協力者)	ブルネイ・ダルサラームにおけるイスラーム型担保融資 (Ar-Rahnu) —担保概念とその実践を中心に—	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学
黒田 彩加 (研究協力者)	現代エジプトにおける法・社会・イスラーム——ターリク・ビシュリーの主体的文化論——	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学
Yasushi Kosugi (研究分担者)	Islamic Economics and Philosophy of Halal Life	KU-KAU Joint International Symposium on Islamic Economics and Social Development	2015.5.19	京都大学
佐藤 麻理絵 (研究協力者)	シリア難民流入と社会生態空間の拡張—ヨルダン北部都市マフラックの事例から—	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学
	沙漠に生成する社会生態空間—ヨルダン北部都市マフラックの事例から—	日本沙漠学会	2015.5.23	カレッジプラザ (秋田)
澤井 真 (研究協力者)	「イスラーム神秘主義」概念の成立過程	印度学宗教学会 第57回学術大会	2015.5.31	東北大学
	イスラームにおける聖者—イブンアラビーの完全人間論から—	日本宗教学会 第74回学術大会	2015.9.6	創価大学
Makoto Sawai (研究協力者)	“The Meaning of Adam in Ibn ‘Arabi’s Theory of the Oneness of Existence”	The 21th World Congress of the Association for the History of Religions	August 28, 2015	Germany: Erfurt University
末近 浩太 (研究分担者)	中東政治は「宗派対立」を乗り越えることができるのか：「アラブの春」から「イスラ	日本中東学会 第31回年次大会 (公開シンポジウ	2015.5.16	同志社大学

	ーム国」へ	ム)「中東の「長い19世紀」:流動化する地域秩序、政治化する「宗派」		
	中東とラテンアメリカにおける体制転換の比較研究	2014年度京都大学地域研究統合情報センター共同利用・共同研究報告会	2015.4.26	京都大学稲森財団記念館
	「ポスト・アラブの春」期の東アラブ地域におけるイスラーム主義	共同利用・共同研究課題「東南アジアのイスラームと文化多様性に関する学際的研究(第二期)」2015年度第1回研究会	2015.7.5	東京外国語大学
須永 恵美子 (研究協力者)	マウラーナー・マウドゥーディーと東パキスタン独立	FINDAS2015年度第1回若手研究会	2015.5.24	東京外国語大学本郷キャンパス
Emiko Sunaga (研究協力者)	The Influence of Private Company Entry in the Print Media Market in Pakistan	Suntory Foundation International Workshop, Media, Public Diplomacy, and the Middle East: Dialogue between the East and the West	2015.6.21	東京大学
	Muslim Language in South Asia: The Role of Urdu in Religious Knowledge	International Language and Tourism Conference	2016.1.21	International Islamic University Malaysia, Kuala Lumpur
Yushi Chiba (研究協力者)	Location and Media Production in the Middle East: A Case Study of Media Cities	MEI Annual Conference	2015.9.3	Village Hotel Bugis, Singapore
東長 靖 (拠点代表者)	アッラーは世界の貌 ^{かお} で現れるースーフィズムの共生思想	日本中東学会第21回公開講演会	2015.10.4	九州大学
長岡 慎介 (研究分担者)	相互扶助ファンドとイスラーム金融が創る新しい価値ーポスト資本主義をめざすコミュニティ経済哲学	公益財団法人トヨタ財団研究助成プログラム・助成対象者ワークショップ「社会の新たな価値創出をめざして」	2015.4.11	東京大学
二宮 文子 (研究協力者)	19世紀北インドの聖者廟の資産についての分析:サーラル・マスウード廟の事例	日本南アジア学会第28回全国大会	2015.9.27	東京大学駒場キャンパス
Shuji Hosaka (研究分担者)	Japan-Gulf Economic Relations: A Historical Perspective	2015 KAMES International Conference: Asian and Middle Eastern Countries since the end of World War II	October 24, 2015	Hankuk University of Foreign Studies
	Japan's Close Encounter with Iraq	المنتدى العراقي-الياباني الخامس عشر سنوات من العلاقات الأكاديمية والاقتصادية بين العراق واليابان: رؤى وآفاق	2015.12.15	University of Basra

堀 功二 (研究分担者)	レンティア国家における君主体制の正統性と忠誠の役割——UAE と『アラブの春』を事例に	日本比較政治学会	2015.6.28	上智大学
Kazunori Matsuda (研究協力者)	The Crossroads for Sunnis in 19th Century South Asia: Shāh Muḥammad Ismā‘īl’s Ideas of Revival and Reform	The Eighth Al-Jami’ah International Conference in collaboration with Kyoto University. “Revisiting Sunni and Shi’ite: Thoughts, Spirituality, and New Movements”	2015.11.6	Sunan Kalijaga State Islamic University, Yogyakarta, Indonesia,
Teruaki Moriyama (研究協力者)	The Image of the Middle East in Japan	Asian and Middle Eastern Countries since the End of World War II: Seeing for a New Partnership between Two Regions, 2015 KAMES International Conference	2015.10.24	韓国外国語大学
	The Intellectual Practice of the Classic Ulama: Case of the 11th Century 'Ashab al-Hadith' or Hadith Scholars	Ulama and Islamists: Reflections on the Boundaries Between Two Identities, Symposium organized by Institute for Advanced Studies on Asia (Toyo-Bunka Kenkyujo), The University of Tokyo	2015.11.21	東京大学東洋文化研究所
Shin Yasuda (研究協力者)	The Selfie in the Hajj: Pilgrim Experiences and Religious Authenticity in Contemporary Makkah, Saudi Arabia	7th ATLAS Religious Tourism and Pilgrimage Expert Conference	2015.6.12	Girona University, Spain
	Between Tacit Knowledge and Guidelines: A Study of the Development of Halal Tourism Market in Japan	International Language and Tourism Conference 2016 (ILTC 2016)	2016.1.22	International Islamic University, Malaysia
安田 慎 (研究協力者)	ガイドラインの政治学 イスラミック・ツーリズム市場におけるクレセントレーティングをめぐる力学	観光学会 第4回年次大会	2015.7.12	阪南大学
	取引コストの可視化・縮減機能としてのハラール・コンサルタントーハラール概念の暗黙知と形式知をめぐるイスラーム地域研究の視点からの一考察	日本観光研究学会 第30回年次大会	2015.11.29	高崎経済大学
	創り出された『ムスリム観光客』ーハラール・ツーリズムのガイドラインをめぐるポリティクス		2015.12.12	立教大学
山根 聡 (研究分担者)	パキスタンにおける対テロ戦争と今後の課題	中東情勢研究会	2015.11.20	(社)国際情勢研究会
	「パキスタンにおける『国家	2015 年度 RINDAS	2015.12.24	大阪大学箕面キャンパス

	行動計画 National Action Plan』の成果—イスラームとテロをめぐる内政の変化」	第7回研究会 [NIHU プログラム 地域研究間研究推進事業 (IAS-INDAS 連携事業)「南アジアとイスラーム」の「現代社会の政治と思想」共催]		ンパス
So Yamane (研究分担者)	From “Who am I?” to “Who Should I be?”—Question of Self by an Indian Intellectual in Europe in the Beginning of the Twentieth Century	Kick-off Workshop of research Project “Great Confrontations”	2016.2.10	大阪大学豊中キャンパス・カルティエ・ミュルチラング
山本 健介 (研究協力者)	パレスチナ自治区・ヘブロン／ハリールにおける旧市街復興運動—ユダヤ化政策に抗して	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学
山本 直輝 (研究協力者)	イマーム・ビルギヴィーにおける「倫理の学としてのスーフィズム」の意味と目的	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学
	オスマン朝アラブの存在—性論学派による神学理解—ナーブルス—のクーラーニー批判を中心に—	日本オリエント学会 第57回大会	2015.10.18	創価大学
Naoki Yamamoto (研究協力者)	Birgivi Mehmed's al-Tariqa al-Muhammadiya: The Embodiment of Muhammadan Piety in Sunni Islamic Reform	Al-Jamiah 8 th conference	2015.11.7	Sunan Kalijaga State Islamic University (UIN) (インドネシア)
	Kalam and Ibn 'Arabi's Thought in Early Modern Ottoman Empire: 'Abd al-Ghani al-Nabulsi's Concept of Human Agency	International Symposiums on Ottoman Intellectual Tradition-1 “Ottoman Kalam: Scholars, Works, and Problems”	2015.12.26	ISAM(トルコ)
渡邊 駿 (研究協力者)	アラブ君主制国家群の体制維持メカニズムを考える—グローバル時代のヨルダン・ハーシム王国を素材として	日本中東学会 第31回年次大会	2015.5.17	同志社大学

〔招待講演〕計 (8) 件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
須永 恵美子 (研究分担者)	パキスタンを彩る—2000 年代の服飾と美容の潮流	日本・パキスタン協会 第29回シンポジウム・パーキスターン	2015.11.21	日本大学文理学部
東長 靖 (拠点代表者)	もうひとつのイスラーム—平和・愛・共存をめざして	第141回かんかん会	2015.6.5	クラブ関西
	スーフィズムの諸相—ファナー説をてがかりに—	イスラーム・レクチャー	2015.12.8	創価大学東洋哲学研究所
	イスラームの5つのなぜ？	グローバル語り部事業	2015.12.15	福井県立武生東高等学校

Yasushi Tonaga (拠点代表者)	Current Situation of Middle East Studies in Japan	25 th KAMES International Conference	2015.10.23-25	Hankuk University of Foreign Studies and President Hotel, Seoul.
	Mysticism along the Mediterranean Sea	International Conference 20th Anniversary of the Foundation of Institute for Mediterranean Studies (ICIMS), Busan University of Foreign Studies	2016.3.24-26	BEXCO, Busan
安田 慎 (研究協力者)	虚像としてのムスリム観光客 ハラル・スタンダードが生み出すイメージと実像	中東調査会 中東情勢講演会	2015.6.23	フォーリン・プレスセンター
	理念か、市場か？ ハラル・ツーリズムにおける国際的ガイドライン競争をめぐって	九州大学法学研究院 平成27年度 大学の 世界展開力強化事業 「クール・ジャパンと ハラル・ツーリズム」	2016.3.15	九州大学 箱崎キャンパス

〔雑誌記事〕計（ 1 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
黒田 彩加 (研究協力者)	エジプト・イスラーム中道派の役割	『季刊アラブ』	39	2015	22-23

〔書評〕計（ 2 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
末近 浩太 (研究分担者)	イスラーム主義の思想を原典から読み解く：勇気ある出版を称えたい（高岡豊・溝渕正季訳・解説『ヒズブッラー：抵抗と革命の思想』現代思潮新社, 2015 年）を読む	『図書新聞』	3213 (2015 年7月4日号)	2015	1
Shin Yasuda (研究協力者)	「書評 HOSODA Naomi ed. Foreign Labour in the Arabian Gulf States: Development of “Foreigner Majority States” and Current Living Conditions 細田尚美（編著）『湾岸アラブ諸国の移民労働者「多外国人国家」の出現と生活実態』Tokyo: Akashi Shoten, 2014, 297 pp.」	『日本中東学会年報』	31-2	2016	未定

〔講演録〕計（ 1 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
末近 浩太 (研究分担者)	シリア内戦の4年間を振り返る	『サラーム』	104	2015	11-13

〔資料翻訳〕計（ 1 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
真下裕之監修、 <u>三宮文子</u> 、 真下裕之、和田郁子訳注 (研究協力者)	アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注(4)	『神戸大学文学部紀要』	43	2016	未定

〔翻訳〕計（ 4 ）件

訳 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
今井 静 (研究協力者)	マーティン・ギルバート(小林和歌子監訳)『アラブ・イスラエル紛争地図』	明石書店		2015	地図 1-15 (16-30)
小杉 泰 (研究分担者)	「イスラーム科学」『スクリブナー思想史大事典』	丸善出版	1	2016	228-234
	「イスラーム医学」『スクリブナー思想史大事典』	丸善出版	1	2016	180-181
	「イスラーム哲学」『スクリブナー思想史大事典』	丸善出版	6	2016	2391-2398
	「セクシュアリティ、イスラームの場合」『スクリブナー思想史大事典』	丸善出版	6	2016	2038-2039
澤井 真 (研究協力者)	サイイド・ホセイ・ナスル「井筒俊彦の思い出」、『井筒俊彦全集』	慶応義塾大学出版会	11	2015	月報 1-6
渡邊 駿 (研究協力者)	ブロードブリッジ, アンヌ・F.「イスラーム君主制」『スクリブナー思想史大事典』	丸善出版		2016	未定

〔雑報(事典項目)〕計（ 3 ）件

著 者 名	標 題	書名	巻	発行年	ページ
千葉 悠志 (研究協力者)	サウジアラビア, ヨルダン, エジプト	NHK 放送文化研究所(編)『データブック世界の放送 2016』NHK 出版		2016	234-237, 240-241, 241-243
山根 聡 (研究分担者)	パキスタン	『NHK データブック世界の放送 2015』NHK 出版		2016	74 - 77
山根 聡 (研究分担者)	パキスタン	岩波書店辞典編集部編『世界の名前』(岩波新書)岩波書店		2016	

〔データ〕計（ 1 ）件

著 者 名	題名	ウェブサイト	発行年
山本 健介 (研究協力者)	書店／図書館情報(ヘブロン、パレスチナ)	アジア研究情報 Gateway	2015

〔雑文（フィールド便り）〕計（ 1 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
山本 健介 (研究協力者)	＜フィールドワーク便り＞『客人たちの父』預言者イブラーヒームのおもてなし—パレスチナ自治区・ヘブロン／ハリエルの食事配給施設を訪ねて—	『アジア・アフリカ地域研究』	14-2	2015	317-321

公益財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 （担当研究テーマ）
三浦 徹	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長・お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	拠点代表 （総括、総括、アラブ史資料の収集・研究）
堀川 徹	東洋文庫研究員、京都外国語大学外国語学部教授	研究分担者 （文書史料の比較制度研究）
磯貝 健一	東洋文庫研究員、追手門学院大学国際教養学部准教授	研究分担者 （中央アジア史資料の収集・研究）
大河原知樹	東洋文庫研究員、東北大学大学院国際文化研究科准教授	研究分担者 （アラブ史資料の収集・研究）
近藤 信彰	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 （イラン史資料の収集・研究）
秋葉 淳	東洋文庫研究員、千葉大学文学部准教授	研究分担者 （トルコ史資料の収集・研究）
徳原 靖浩	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、東洋文庫研究員	研究分担者 （イラン史資料の収集・文献情報ネットワーク形成）

研究グループ1：「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」

（研究グループメンバー）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 （担当研究テーマ）
三浦 徹	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	研究グループ代表 （アラブ史資料の収集・研究）

堀川 徹	東洋文庫研究員、京都外国語大学外国語学部教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
磯貝 健一	東洋文庫研究員、追手門学院大学国際教養学部教授	研究分担者 (中央アジア史資料の収集・研究)
大河原知樹	東洋文庫研究員、東北大学大学院国際文化研究科准教授	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
近藤 信彰	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (イラン史資料の収集・研究)
秋葉 淳	東洋文庫研究員、千葉大学文学部准教授	研究分担者 (トルコ史資料の収集・研究)
高松 洋一	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	研究分担者 (トルコ史資料の収集・研究)
渡辺 浩一	国文学研究資料館教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
原山 隆広	東洋文庫研究員	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
柳谷あゆみ	東洋文庫研究員	研究分担者 (アラブ史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)
徳原 靖浩	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、東洋文庫研究員	研究分担者 (イラン史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ランディ・ドウギエム	フランス国立科学研究センター教授	文書史料の比較制度研究
シュテファン・クノスト	マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク 東洋研究所客員教授	文書史料の比較制度研究
ネッリー・ハンナ	カイロ・アメリカン大学教授	文書史料の比較制度研究

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
伊藤 知義	中央大学法科大学院教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
上野雅由樹	大阪市立大学大学院文学研究科講師	オスマン帝国史料の総合的研究
江川ひかり	明治大学文学部教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
小笠原弘幸	九州大学大学院人文科学研究院准教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究、オスマン帝国史料の総合的研究
奥田 敦	慶應義塾大学総合政策学部教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
桑原 尚子	福山市立大学都市経営学部 都市経営学科准教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究

後藤 敦子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程	中東・イスラーム研究文献情報の収集と整備
中田 考	同志社大学アフガニスタン平和開発研究センター客員上級研究員	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
浜本 一典	同志社大学神学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
藤波 伸嘉	津田塾大学学芸学部国際関係学科・准教授	オスマン帝国史料の総合的研究
堀井 聡江	桜美林大学リベラルアーツ学群准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
前野 直樹	イスラミックサークルオブジャパン日本人部代表	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
松尾有里子	お茶の水女子大学研究員	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究・オスマン帝国史料の総合的研究
松山 洋平	東京大学東洋文化研究所・日本学術振興会特別研究員	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
黛 秋津	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授	オスマン帝国史料の総合的研究
宮下 修一	静岡大学大学院法務研究科教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
吉田 達矢	名古屋学院大学国際文化学部講師	オスマン帝国史料の総合的研究

【2015 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

- ①現地語史資料の収集・整理：エジプト・イランの現地語資料を購入し、NACSIS-CAT への登録を含む整理を行った。これらの収集資料は拠点ホームページ上の OPAC にて検索することができる。
- ②研究文献情報の整備と普及：日本中東学会との連携でデータを整備・公開している「日本における中東・イスラーム研究文献データベース 1868～」は、2016 年 2 月現在で 53,400 件の書誌データを収録しており、中東イスラーム研究の専門の研究文献目録としては他に類のない網羅的な書誌データベースとなっている。また、「イスラーム地域研究 現地語資料の探し方（2015 年度版）」、学生が現地語資料の検索の習熟度をチェックできるクイズページを公開した。（http://tbias.jp/quiz_keywordsearch/ , http://tbias.jp/quiz_classification/）
- ③オスマン帝国史料解題のページに「アルメニア文字の定期刊行物（1870 年代まで）」、「租税台帳」の項目を追加した。

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

①2015 年度合同集会 公開講演会「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」

日時：2016 年 1 月 30 日（土）13:00～17:10

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 3 号館 501 号室

概要：詳しくは、事業全体の活動内容の項目を参照されたい。

②V.ボブロフニコフ氏講演会

日時：2015 年 9 月 10 日（木）17:00～19:00

場所：東洋文庫 2 階講演室

概要：イスラーム地域研究早稲田拠点および東大拠点、東洋文庫との共催により、ヴラディミール・ボブロフニコフ氏の講演会を行った。講演は英語で行われ、14 名の参加があった。ボブロフニコフ氏は、戦間期のソ連におけるイスラームやムスリムの表象に関し、ソ連の無神論的なイデオロギーとの関わりによるその変容を、豊富なポスターの画像資料を用いて解説した。

（徳原靖浩）

プログラム：

Vladimir Bobrovnikov (Institute of Oriental Studies, Moscow)

“Godless Imagination of Islam” in the Inter-War Soviet Posters, 1918-1940”

③アラビア文字資料司書連絡会

日時：2016年3月4日（金）14:00～17:00

場所：東洋文庫2階講演室

概要：参加機関は、アジア経済研究所、大阪大学外国学図書館、京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科図書室、慶應義塾大学メディアセンター、国立国会図書館関西館、国立情報学研究所、大学図書館支援協会、東京外国語大学附属図書館、東京大学文学部図書室、東京大学東洋文化研究所、東京大学アジア研究図書館、東北大学附属図書館、早稲田大学図書館、東洋文庫で、あわせて21名の出席があった。今回はTBIASの活動として最後の連絡会となるため、今後の連絡体制などが話し合われた。メーリングリストの活用、また、TBIAS ウェブサイト上に掲載された、目録作成のための資料などを今後も公開し、少しずつ更新していくという方針が確認された。また、東京外国語大学附属図書館の村上遙氏は、SOAS 図書館での研修および大英図書館でのインタビュー調査の報告を行い、SOAS における目録作業の概要や、英国における NACSIS-CAT のレコードの利用の問題点などについて報告を行った。

（徳原靖浩）

(2)研究グループの活動

①シャリーアと近代研究会

日時：2015年度第1回（通算第49回）2015年4月19日（日）12:30～18:00

第2回（通算第50回）2015年5月10日（日）12:30～18:00

第3回（通算第51回）2015年6月14日（日）12:30～18:00

第4回（通算第52回）2015年7月5日（日）13:00～17:00

第5回（通算第53回）2015年10月11日（日）12:30～18:00

第6回（通算第54回）2015年11月8日（日）12:30～18:00

第7回（通算第55回）2016年1月17日（日）12:30～18:00

第8回（通算第56回）2016年1月31日（日）12:30～18:00

場所：東洋文庫7階会議室、東北大学東京分室（第4回）

概要：全8回の研究会を実施した。既に刊行した序編の訳文の見直しを行った。また、第1編（売買）の訳を見直すとともに、大河原知樹・堀井聡江・シャリーアと近代研究会編『オスマン民法典（メジェッレ）の研究 売買編』として刊行することができた。第3編（保証）についても訳了し、第4編（債務引受け）の翻訳に着手した。

（大河原知樹）

②近代中央ユーラシア比較法制度史研究会

【第5回】

日時：2015年6月20日（土）14:00～20:30

場所：京都外国語大学国際交流会館4階会議室（No.941）

概要：全国各地から 30 名近くにおよぶ参加者があった。承志氏は、「旗人の越訴について：チサン事件を中心に」（事前に告知された論題から一部変更）と題し、黒龍江沿岸地域のブトハ八旗におけるチサン事件（1795 年／乾隆 60 年）を例に旗人（八旗に属する人々を民族の別にかかわらず指す呼称）による越訴のもつ意味を検討した。磯貝氏は、近年とくにその重要性が注目される帝政期中央アジアの判決台帳に記載される判決を、同時期の各種紙片状裁判文書と照合することにより、史料としての判決台帳の特性をあきらかにした。

（木村暁、徳原靖浩要約）

プログラム：

14:00～14:10 開会挨拶（堀川 徹）

14:10～14:20 出席者自己紹介

14:20～15:50 研究報告・質疑応答(1)

承 志（追手門学院大学国際教養学部・准教授）

「旗人の越訴について：チサン事件を中心に」

15:50～16:10 コーヒーブレイク

16:10～17:40 研究報告・質疑応答(2)

磯貝 健一（追手門学院大学国際教養学部・教授）

「史料としての帝政期中央アジアのシャリーア法廷判決台帳」

17:50～18:20 総合討論

18:30～20:30 科研費による研究計画に関する会議

20:30～ 懇親会

【第 6 回】

日時：2015 年 11 月 14 日（土）13:30～18:30、15 日（日）9:30～12:00

場所：静岡市産学交流センター（B-nest）・小会議室 2（14 日）、静岡駅パルシェ貸会議室・特別会議室 2（15 日）

概要：アブドゥラスーロフ氏は、ホラズムの文書館に所蔵された文書史料を基に、19～20 世紀初頭のヒヴァ・ハン国における請願（‘arq-dād）の手続きを検証し、当時のホラズムにおける法実践のあり方を指摘した。また、グラームフ氏は、東洋写本センター所蔵の写本群の中から新たに発見した『商人の論考（リサーラ）』という作品について、その構成・内容について解説を行った。トショフ氏は、シャイバーン朝第 3 代ハン、ウバイドゥッラーがサファヴィー朝支配下のヘラートへの遠征を行う際にどのような法的根拠を用いたのかを、写本史料を基に検証し、当時のマワラーアンナフルにヘラートへの遠征を聖戦とみなすことに反対する学者が存在し、一方で政権とそれに協力する法学者たちのプロパガンダによってサファヴィー朝を不信仰者とする風潮が広まっていったという歴史的背景の存在を指摘した。

(杉山雅樹、徳原靖浩要約)

プログラム：

■14 日(土) ※ロシア語通訳あり。

13:30～13:45 開会挨拶（堀川徹）・出席者自己紹介

13:45～14:45 研究報告(1)

ウルファトベク・アブドゥラスーロフ氏（オーストリア科学アカデミー・イラン学研究所）

『『それで、裁判官は誰？』：19～20 世紀初頭のホラズムにおける法実践についての考察』

14:50～15:50 研究報告(2)

サンジャル・グラモフ氏（ウズベキスタン国立タシケント東洋学大学東洋写本センター）

「Risāla-yi saudāgarān：商業の規則か、倫理か？」

16:10～17:10 研究報告(3)

ヌールヤグディ・トショフ氏（同・東洋写本センター）

「シャイバーン朝ウバイドゥッラー・ハーンのヘラート遠征の法的論拠」

17:15～18:30 コメントと質疑応答： コメンテーター シャリーファ・トショヴァ氏（同・東洋写本センター）

19:00～ 懇親会

■15 日(日)

9:30～12:00 研究成果公表についての会議

③オスマン史研究会 第4回定例研究会

日時： 2015 年 7 月 4 日（土）14:10～19:30

場所：東洋文庫 7 階会議室

概要：関西や九州からの参加者を含む 24 名の参加があった。岩本氏は、ルメリのユリユクとヤヤ・ミューセッレムという集団を、法令集や租税台帳などの史料を用いて多角的な分析を行い、集団内部の複雑な構造や歴史的背景について指摘した。川本氏は、エディルネ旧宮殿、トプカプ宮殿、イスタンブル旧宮殿といったオスマン帝国の宮殿を典型的に比較し、中庭の有無の変化や、離宮などの分散の過程を、オスマン帝国の行政的機能の面から説明を行った。両発表ともに質疑応答では分析手法や史料統計の方法などについて活発な議論が交わされた。

(守田まどか、徳原靖浩要約)

【プログラム】

司会 秋葉淳

14:10～15:30 岩本佳子（日本学術振興会）

「オスマン帝国における免税特権と奉公集団：ルメリのユリユクとヤヤ・ミュセッレムの類似と相違」

15:50～17:20 川本智史（日本学術振興会）

「帝王の門：オスマン朝宮殿群の形成過程について」

17:30～18:00 総合討論

18:10～19:30 今年度研究計画についての研究打合せ

④オスマン史研究会（第1回ボアチ・エルゲネ氏講演会）

日時：2015年10月28日（水）18:00～20:00

場所：京都大学吉田キャンパス総合研究2号館4階カンファレンスルーム（AA463）

概要：学部生、大学院生を含む13名の参加があった。エルゲネ氏は、オスマン朝シャリーア法廷台帳の研究において数量的アプローチに対して出されている批判を検討したうえで、「法と経済学」の理論を用いて訴訟記録を分析することで、当該社会における法廷の役割を考察する可能性を示した。とくに、シャリーア法廷が社会的弱者に対して公正であるという既存のいくつかの研究の見方に疑問を投げかけた。

（秋葉淳）

プログラム：

司会 秋葉淳（千葉大学文学部）

18:00～19:00 Boğaç A. Ergene（ヴァーモント大学准教授）

Making the Case for Quantitative and Economic Approaches to Ottoman Legal History

19:00～20:00 質疑応答・討論

⑤オスマン史研究会（第2回ボアチ・エルゲネ氏講演会）

日時：2015年10月31日（土）16:00～18:00

場所：東洋文庫7階会議室

概要：大学院生を含む11名の参加があった。エルゲネ氏は、オスマン帝国の17-18世紀が「衰退」でなかったのであれば、どのように特徴づけることができるのか、という問題を、法の領域における変化に関わる近年の研究を整理しつつ考察を行った。論点として、「カーヌーンの衰退」、土地所有形態の変化、司法の階層制、規律と刑罰、地方社会における法の執行などをめぐる諸問題が扱われた。

（秋葉淳）

プログラム：

司会 秋葉淳（千葉大学文学部）

16:00-17:00 Boğaç A. Ergene（ヴァーモント大学准教授）

Law and Legal Change in the Ottoman Empire during the Seventeenth and Eighteenth Centuries

17:00～18:00 質疑応答・討論

⑥第8回オスマン文書セミナー

日時：2016年1月10（土）～11日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階大会議室(303)

概要：1月10日と11日に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で行われた第8回オスマン文書セミナーにおいては、近代史の研究に不可欠なイラーデ（勅旨）とアルズハール（嘆願書）を扱った。文書の形式をアーカイブズ学的視見地から解説したのち、実際の文書の講読を行った。地域的には、北海道や九州など全国から、専門もさまざまな参加者が両日それぞれ27名集まった。

（近藤信彰）

プログラム：

1月9日(土)

14:00-14:15 趣旨説明 講師・自己紹介

14:20-16:00 イラーデおよびハットウ・ヒュマーユーンの解説（担当：秋葉淳、高松洋一）

16:20-18:00 イラーデの講読（担当：秋葉淳）

1月10日(日)

10:30-12:10 イラーデの講読（担当：秋葉淳）

13:00-14:40 嘆願書の解説と講読（担当：高松洋一）

15:00-16:40 嘆願書の講読（担当：高松洋一）

17:00-18:00 総合討論

⑦「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」

日時：2015年度第1回（通算18回目）4月20日（月）17:00～19:00

第2回（通算19回目）5月18日（月）17:00～19:00

第3回（通算20回目）6月19日（金）17:00～19:00

第4回（通算21回目）7月17日（金）17:00～19:00

第5回（通算22回目）8月21日（金）15:00～18:00

第6回（通算23回目）2015年10月23日（金）17:00～19:00

第7回（通算24回目）2015年11月16日（月）17:00～19:00

第8回（通算25回目）2015年12月21日（月）17:00～19:00

第9回（通算26回目）2016年1月18日（月）17:00～19:00

第10回（通算27回目）2016年3月25日（金）16:00～19:00

場所：東洋文庫7階会議室

概要：2015年度は全10回の研究会を東洋文庫で開催し、16世紀、サファヴィー朝支配下でギヤース・アッディーン・キルマーニーによって著された『簿記術論文』を輪読した。内容的には、序論第15章の

徴税規則から、具体的な帳簿の書き方を扱う本論に入り、第1部日誌を終え、第2部支出記録簿の途中まで進んだ。従来の研究で全く触れられていない帳簿の詳細が明らかになりつつあり、部分校訂テキストを発表すべく、準備中である。

(近藤信彰)

⑧中央アジア古文書研究セミナー

日時：2016年3月13(日) 11:00～20:30

場所：京都外国語大学国際交流会館4階会議室 (No.941)

概要：毎年恒例の中央アジア古文書セミナーが、2015年3月13日京都外国語大学にて開催された。本研究会には31人が集まり、学部学生や修士課程学生をはじめとする若手の参加者も多く見られた。矢島洋一氏(奈良女子大学准教授)は、19世紀フェルガナの請願状3点を講読した。磯貝健一氏(追手門学院大学教授)はファトワー文書4点を取り上げつつ、共有状態にある遺産について、相続人の間でその持分を確定させる際の計算の手順を解説した。

(徳永佳晃)

プログラム：

11:00-11:15 趣旨説明(堀川)、参加者自己紹介

11:15-12:45 矢島洋一氏(奈良女子大学大学院人文科学系・准教授)

「19世紀フェルガナの請願状」①

12:45-13:30 昼食

13:30-15:00 矢島洋一氏 「19世紀フェルガナの請願状」②

15:00-15:15 コーヒーブレイク

15:15-16:45 磯貝健一氏(追手門学院大学国際教養学部・教授)

「共有状態にある遺産の持分確定にかんするファトワー文書」①

16:45-17:00 休憩

17:00-18:30 磯貝健一氏 「共有状態にある遺産の持分確定にかんするファトワー文書」②

18:30-19:00 総合討論

19:15-20:30 懇談会 (京都外国語大学11号館2階)

3.資料収集

アラビア語93冊、ペルシア語50冊、トルコ語9冊、欧文図書28冊を購入した。

主要な資料は次のとおり。

資料名 *Fihrist-i dastnvis-ha-yi Turki dar Kitabkhanah-i jahan.*

- ・形態：図書
- ・冊数：6巻

- ・資料内容：各国の図書館が所蔵するトルコ語写本の目録
- ・収集目的：トルコ語の写本研究を行う研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫 5 階書庫
- ・収集方法：東京のナガラ図書より購入
- ・収集期間：2015 年 9 月

4.研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔図書〕計（ 1 ）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
大河原知樹（研究分担者）・堀井聡江（研究協力者）・シャリーアと近代研究会編	『オスマン民法典（メジェッレ）の研究 売買編』	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室		2016.3	72

〔学会発表〕計（ 4 ）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
三浦徹（拠点代表）	「地域研究と比較史：イスラームの都市社会」	イスラーム地域研究 2015 年度合同集会「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」	2016.1.30	早稲田大学
堀川徹（研究分担者）	「中央アジア法廷文書史料の可能性」	イスラーム地域研究 2015 年度合同集会「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」	2016.1.30	早稲田大学
秋葉淳（研究分担者）	「女性・ジェンダー史からみえるオスマン帝国の社会」	イスラーム地域研究 2015 年度合同集会「地域を知る、歴史から考える：交差する中東・南アジア・中央アジア」	2016.1.30	早稲田大学
KUWAHARA Naoko（研究協力者）	"The Institutionalization of Islam, Shariah and the Shariah Court in Colonial Malaya"	NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference	2015.9. 11	上智大学

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（ 16 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
三浦徹 (拠点代表)	「都市民の語りと記憶：個と社会のあり方」	渡辺浩一&ヴァネッサ・ハーディング編『自己語りと記憶の比較都市史』（勉誠出版）		2015.11.24	239-256
近藤信彰 (研究分担者)	The Shah 'Abd al-'Azim Shrine and its Vaqf under the Safavids	Nobuaki Kondo ed. <i>Mapping Safavid Iran</i> . Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.		2015	41-65
OKAWARA Tomoki (研究分担者)	"Reconsidering Ottoman Qadi Court Records : What Are They ? Who Produced, Issued, and Recorded Them ?"	<i>Table ronde internationale, Lire et écrire l'histoire ottomane</i> , sous la direction de Vanessa Gueno et Stefan Knost, Institut Français du Proche-Orient, Orient-Institut Beirut, Beyrouth - Damas		2015	15-37
大河原知樹 (研究分担者)	「近代社会とイスラーム法—モダニティーとの邂逅が生み出したもの—」	東北大学大学院国際文化研究科公開講座委員会（編）『東北大学大学院国際文化研究科第22回公開講座「国際文化基礎講座」「知」の国際文化学Ⅱ—近代と宗教—講義資料集』（東北大学大学院国際文化研究科公開講座委員会）		2015.10.20	21-39
高松洋一 (研究分担者)	「勅令の「裏側」を読む—大宰相府伝来の勅令正文に関する一考察」	近藤信彰編『近世イスラーム国家史研究の現在』（東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所）		2015.7	299-328
秋葉淳 (研究分担者)	「オスマン社会における都市の記憶と自己語り史料—18世紀末～19世紀初頭のイスタンブールとサラエヴォ」	渡辺浩一&ヴァネッサ・ハーディング編『自己語りと記憶の比較都市史』（勉誠出版）		2015.11.24	199-216
	「18世紀オスマン朝史家シェムダーニーザーデ・フンドウクル・スレイマン・エフェンデイの職歴」	近藤信彰（編）『近世イスラーム国家史研究の現在』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）		2015.7	259-276
	「帝国とシャリーア：植民地イスラーム法制の比較と連関」	宇山智彦編『ユーラシア近代帝国と現代世界』（ミネルヴァ書房）		2016.2	44-65

徳原靖浩 (研究分担者)	「イスラーム地域研究資料の 収集・整理・利用の課題と展望」	『情報の科学と技術』	66(1)	2016.1	8-13
江川ひかり (研究協力者)	「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ 研究案内」	『明大アジア史論集』	20	2016	103-110
小笠原弘幸 (研究協力者)	「史料解題 タンズィマート 期・アブデュルハミト二世期に 作成された歴史教科書」	近藤信彰(編)『近世 イスラーム国家史研 究の現在』東京外国語 大学アジア・アフリカ 言語文化研究所		2015	361-390
	「オスマン朝におけるヨーロ ッパ認識の伝統と革新—一七 世紀中葉以前の北西ユーラシ ア観を中心に—」	小澤実編『北西ユーラ シア歴史空間の再構 築』北海道大学出版会		2016.3 (刊 行予定)	
OGASAWARA Hiroyuki (研究協力者)	"Osmanlı Hanedanı'nın Atası Olarak Kayı Han'ın Seçilmesi: Veraset Usulü Açısından Bir Bakış. (オスマン王家の父祖と してのカユ・ハン—継承方法の 視点から—)"	XVI. Türk Tarih Kongresi 20-24 Eylül 2010, Ankara: Kongreye Sunulan Bildiriler. (Ankara: Türk Tarih Kurumu)	3(1)	2015	525-533
桑原尚子 (研究協力者)	「イスラームと立憲主義をめ ぐる問題の諸相: 歴史的コンテ クストから考える (1)」	ICD NEWS (法務省法 務総合研究所国際協 力部報)	65	2015.12	8-13
浜本一典 (研究協力者)	「イスラームにおける宗教多 元主義: 異教徒の救済と市民権 をめぐって」	『宗教研究』	89(3)	2015.12	521-544
吉田達矢 (研究協力者)	「昭和前半期における名古屋 港から中東への輸出」	『名古屋学院大学論 集: 社会科学篇』	52(4)	2016.3.31 (予定)	211-236

〔図書〕計 (4) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
MIURA Toru (拠点代表)	<i>Dynamism in the Urban Society of Damascus : The Şālihiyya Quarter from the Twelfth to the Twentieth Centuries</i>	Brill		2015	347
柳谷あゆみ (研究分担者)	『現代シリアの短編小説——ザカリーヤ ー・ターミル著『酸っぱいブドウ』』 (Occasional Papers シリーズ 19)	上智大学アジ ア文化研究所		2016.3	71
永田雄三、江川 ひかり(研究協 力者)	『世紀末イスタンブールの演劇空間—都市 社会史の視点から』	白帝社		2015	356
松山洋平 (研究協力者)	『イスラーム神学』	作品社		2016	528

〔学会発表〕計 (22) 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
三浦徹 (拠点代表)	「イスラーム世界はなにを語 るか」	日本歴史学協会・日本 学術会議史学委員会主 催歴史教育シンポジウ ム「イスラームをどう 教えるか」	2015.10.17	駒澤大学駒沢キャン パス

MIURA Toru (拠点代表)	“Personal Network around the ‘Umariyya Madrasa in the Şālihiyya Quarter of Damascus: Toward Creating a Theoretical Model from an Empirical Case Study”	International Symposium Leaving One's Trace in Society: Individuals and the Institutionalization of their Networks in Society via their Waqf Foundations	2015.6. 4-5	TELEMME-MMS H, Aix-en-Provence
	“Slave Soldiers and Slave Elites in a Comparative Perspective	Cambridge World History of Slavery	2015.9 . 25-26	University of Hull, Hull, UK
	“Potential of the Middle East Studies from East Asia”	The Art in Middle East Studies, The 49th Annual Meeting of Middle East Studies Association of North America	2015.11. 23	Denver, Colorado (USA)
	Keynote Speech	The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks at the Toyo Bunko, Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations	2015.12.5-6	Toyo Bunko (Tokyo)
HORIKAWA Toru (研究分担者)	"Ertuğrul Fırkateyni Kazasından Sonra Osmanlı İmparatorluğu'ndan Gelen Teşekkür Mektupları" (エルトゥール号遭難事件後送られてきたオスマン帝国の感謝状)	Uluslararası Ertuğrul'un İzinde Deniz Kuvvetleri ve Diplomasi Sempozyumu (国際シンポジウム：エルトゥール号の軌跡における海軍と外交)、	2015.9.16	海事博物館（イスタンブール市）
近藤信彰 (研究分担者)	"State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah ‘Abd al-‘Azim Shrine under the Qajars"	The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks “Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations.”	2015.12.5	東洋文庫
磯貝健一 (研究分担者)	「ロシア帝政期中央アジアのシャリーア法廷裁判文書に見える家族内紛争」	史学研究会例会	2015.4.18	京都
大河原知樹 (研究分担者)	「近代社会とイスラーム法—モダニティーとの邂逅が生み出したもの—」東北大学大学院国際文化研究科第 22 回公開講座「国際文化基礎講座」	「知」の国際文化学Ⅱ—近代と宗教—	2015.11.14	東北大学川内キャンパス
高松洋一 (研究分担者)	「マフムト 1 世による Ayasofya 図書館の蔵書形成 -- 歴史書を中心として」	日本オリエント学会第 57 回大会	2015.10.18	北海道大学文学部
	「オスマン朝の勅令起草過程で作成される文書類について —大宰相府と財務長官府の協働の観点から—」	2015 年度東洋史研究会大会	2015.11.3	京都大学文学部

Yoichi Takamatsu (研究分担者)	“ I. Mahmûd'un İstanbul'da Kurduğu Üç Kütüphane: Ayasofya, Fatih ve Galatasaray Kütüphaneleri”	XVIII. Yüzyıl Osmanlı Kitap Koleksiyonerleri Bilgi Üretimi ve Dağılımı	2015.12.25	Koç Üniversitesi Anadolu Medeniyetleri Araştırmaları Merkezi, İstanbul
秋葉淳 (研究分担者)	18 世紀オスマン帝国の裁判官のプロフィール：遺産目録を史料として	第 57 回日本オリエント学会年次大会	2015.10.18	北海道大学
	「裁判官とその発給文書：18 世紀オスマン朝歴史家 = 裁判官シェムダーニーザーデ・フンドウクルル・スレイマンの業績」	日本中東学会第 31 回年次大会	2015.5.17	同志社大学
YANAGIYA Ayumi (研究分担者)	"Domestic Caliphs in 14th century Maghreb and Al-Andalus : an understanding of Ibn Khaldun and his contemporary intellectuals"	New horizon of Islamic Area Studies	2015.9.12	Sophia Univ. Yotsuya Campus, Bldg. No.12
柳谷あゆみ (研究分担者)	「ザンギー朝ヌール・アッディーン政権のアミールたち」	三田史学会東洋史部会	2015.6.27	慶應義塾大学三田キャンパス西校舎 513 教室
	「14 世紀マグリブ・アンダルスにおける国内カリフたち」	初期史研究会	2016.3.23	早稲田大学 120-4 号館
江川ひかり (研究協力者)	「19 世紀末・20 世紀初頭オスマン帝国における「近代演劇」および印刷・出版文化にメフメト・ターヒル・ベイが果たした役割」	日本中東学会年次大会	2015.5.17	同志社大学今出川校舎
	パネル「GÖÇEBELİĞİN DÜNYASI” VE DR. MASATAKE MATSUBARA’NIN VİZYONU (『遊牧の世界』と松原正毅博士のヴィジョン)」	アルタイ諸集団国際会議「“GÖÇEBELİĞİN DÜNYASI”nın önemli konuları ve tarih araştırmalarında bu konuların önemi (『遊牧の世界』の重要課題と歴史研究におけるこれらの課題の意義)」	2015.7.20	トルコ共和国アンタルヤ県地中海大学
	「遊牧民と「近代」—19 世紀オスマン帝国、西北アナトリアにおける遊牧民と毛織物(アバ) 産業—」	駿台史学会大会	2015.12.5	明治大学駿河台キャンパス
小笠原弘幸 (研究協力者)	「古典期オスマン帝国における「スルタン」号について」	日本中東学会第 31 回年次大会	2015.5.17	同志社大学
	「トルコ共和国における国民形成と歴史学」	九州大学拠点教育プログラム・拠点形成プロジェクト「近現代イスラム世界の国家形成をめぐる宗教・暴力・民族共存の総合的研究」第一回研究会	2015.11.7	九州大学
	「公定歴史学と教科書—トルコ共和国における「正史」と歴史教育」	九州史学会 2015 年大会全体シンポジウム「正史の近代—修史事業と歴史学」	2015.12.12	九州大学